



HP Universal CMDB Configuration Manager

ソフトウェア・バージョン: 10.20

ユーザーズ・ガイド

ドキュメント・リリース日: 2015年1月
ソフトウェア・リリース日: 2015年1月

ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータ・ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2002 - 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

Adobe™ は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

本製品には、Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler である「zlib」汎用圧縮ライブラリのインターフェースが含まれています。

文書の更新

このマニュアルの表紙には、以下の識別番号が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメント・リリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェア・リリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用していることを確認するには、次の URL にアクセスしてください：<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HP Passport に登録してサインインする必要があります。HP Passport ID の登録は、次の URL にアクセスしてください。<https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do>

または、HP ソフトウェア・サポート・ページの上にある【登録】リンクをクリックします。

適切な製品サポート・サービスに登録すると、更新情報や最新情報も入手できます。詳細については HP の営業担当にお問い合わせください。

サポート

次の HP ソフトウェアのサポート・オンラインの Web サイトをご覧ください。

<https://softwaresupport.hp.com>

この Web サイトでは、連絡先情報と、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートについての詳細が掲載されています。

HP ソフトウェア・オンライン・ソフトウェア・サポートでは、お客様にセルフ・ソルブ機能を提供しています。ビジネス管理に必要な、インタラクティブなテクニカル・サポート・ツールに迅速かつ効率的にアクセスできます。有償サポートをご利用のお客様は、サポート・サイトの次の機能をご利用いただけます。

- 関心のある内容の技術情報の検索
- サポート・ケースおよび機能強化要求の提出および追跡
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの連絡先の表示
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- ほかのソフトウェア顧客との議論に参加
- ソフトウェアのトレーニングに関する調査と登録

ほとんどのサポート・エリアでは、HP Passport ユーザとして登録し、ログインする必要があります。また、多くの場合、サポート契約も必要です。HP Passport ID を登録するには、次の Web サイトにアクセスしてください。

<https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do>

アクセスレベルに関する詳細は、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions Now は、HPSW のソリューションと統合に関するポータル Web サイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たす HP 製品ソリューションを検索したり、HP 製品間の統合に関する詳細なリストや ITIL プロセスのリストを閲覧することができます。この Web サイトの URL は **<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>** です

目次

はじめに	10
第1章: Configuration Manager の紹介	11
HP Universal CMDB Configuration Manager 概要	11
設定モデリングと分析	12
オフライン分析	12
ポリシー	12
定義済みのポリシー	13
データ管理 - 実際のステータスと認証済みのステータス	15
履歴の比較	15
トポロジ・モードとインベントリ・モード	16
システム操作の自動化	16
ユーザ管理	17
複数テナント UCMDDB 環境での Configuration Manager	17
ライセンス認可されたコンテンツ	18
ホーム・ページ	19
UCMDDB Browser	21
ユース・ケース	24
Configuration Manager の作業のベスト・プラクティス	25
第2章: コンテンツ管理	26
コンテンツ管理の概要	26
変更要求	27
Configuration Manager コンテンツのワークフロー	27
Configuration Manager のコンテンツの管理 - ユースケース	29
トラブルシューティングと制限事項 - コンテンツ管理	32
第3章: データの UCMDDB への連合	34
連合データの概要	34
ポリシー・コンプライアンス・データの連合	35
サポートされている TQL クエリ - ポリシー・コンプライアンス・データ	35
レポートの作成	36
KPI の連合	37
ビジネス・サービス・ビューの特定	39
サポートされている TQL クエリ - KPI	40
レポートの作成	40
BSM での KPI の使用	40
UCMDDB での連合ワークフロー	41
トラブルシューティングおよび制限事項 - UCMDDB へのデータ統合	50

Configuration Manager での作業	51
第4章: クイック値	52
インベントリ・ビュー・ウィザード	52
[ビュー定義] ページ	52
[ビュー詳細] ページ	53
[レポート] ページ	54
データ品質ポリシー・ウィザード	54
[ビューの選択] ページ	55
[検証のための CI タイプの選択] ページ	55
[必要な属性の選択] ページ	56
[必要な関連 CI タイプの選択] ページ	57
[ポリシー詳細] ページ	57
類似性ポリシー・ウィザード	58
[ビューの選択] ページ	58
[CI タイプの選択] ページ	59
[定義] ページ	59
[ポリシー詳細] ページ	60
第5章: KPI サマリ	61
KPI サマリの概要	61
KPI サマリのユーザ・インタフェース	61
[KPI サマリ] ページ	61
第6章: ビュー・サマリ	65
ビュー・サマリの概要	65
自動ステータス遷移のステータスのレビュー	65
ビュー・サマリのユーザ・インタフェース	66
[ビュー サマリ] ページ	66
第7章: ポリシー・サマリ	69
ポリシー・サマリの概要	69
ポリシー・サマリのユーザ・インタフェース	69
[ポリシー サマリ] ページ	69
第8章: ビューの調査	73
ビューの調査の概要	73
インパクト分析	74
自動化の衝突	74
レポート	75
コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行	75
ポリシー違反を修正するための RFC の作成	77
特定 CI の RFC を作成	78
複合 CI の折りたたみルールの設定	78
外部アプリケーションの起動	79
ビューの調査のユーザ・インタフェース	79

[自動化実行] ダイアログ・ボックス	80
[実施の詳細] 表示枠	82
[ポリシー] 表示枠	83
[自動化分析] > [インパクト - <ステータス>] 表示枠	84
[自動化分析] > [自動化] 表示枠	87
[自動化分析] > [衝突] 表示枠	88
ベースライン・ポリシー・ウィザード	89
[CI 詳細] ダイアログ・ボックス	90
[新規 RFC の作成] ダイアログ・ボックス	91
[ポリシー修復用の RFC の作成] ダイアログ・ボックス	92
[ビューの調査] ページ	93
[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックス	100
[ポリシー ルールの選択] ダイアログ・ボックス	101
[表示するスナップショットの選択] ダイアログ・ボックス	101
[CI のソート] ダイアログ・ボックス	102
トポロジ・ページ	103
トラブルシューティング - Explore Views	104
第9章: ベースライン分析	106
ベースライン分析の概要	106
比較用の構成モデルの定義	107
ベースライン分析のユーザ・インタフェース	108
[複合 CI の追加] ダイアログ・ボックス	108
[ベースライン分析] ページ	108
[比較詳細] ダイアログ・ボックス	112
[ベースライン ポリシーの選択] ダイアログ・ボックス	112
[複合 CI の選択] ダイアログ・ボックス	113
第10章: セグメント分析	114
セグメント分析の概要	114
類似する CI のグループを含む CI の選択	115
セグメント分析のユーザ・インタフェース	115
[複合 CI の追加] ダイアログ・ボックス	116
[CI 詳細] ダイアログ・ボックス	116
[比較詳細] ダイアログ・ボックス	117
[セグメント分析] ページ	118
[セグメントパラメータ] ダイアログ・ボックス	120
第11章: レビュー/認証	122
レビュー/認証の概要	122
Service Manager との統合	123
レポート	124
CI の変更の認証	124
UNL ファイルの Service Manager へのインポート	125
外部アプリケーションの起動	126

レビュー/認証のユーザ・インタフェース	126
[選択した差異の認証] ダイアログ・ボックス	127
[CI 詳細] ダイアログ・ボックス	127
[変更をロールバックするための RFC の作成] ダイアログ・ボックス	128
[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックス	130
[レビュー/認証] ページ	130
[CI のソート] ダイアログ・ボックス	137
[トポロジの表示] ダイアログ・ボックス	138
トラブルシューティング - レビュー/認証	139
第12章: 変更履歴	142
変更履歴の概要	142
レポート	143
スナップショットの比較	143
変更履歴のユーザ・インタフェース	143
[変更履歴] ページ	144
[CI 詳細] ダイアログ・ボックス	148
[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックス	149
[表示するスナップショットの選択] ダイアログ・ボックス	150
[CI のソート] ダイアログ・ボックス	151
トポロジ・ページ	152
第13章: 認証履歴	154
認証履歴の概要	154
レポート	155
スナップショットの比較	155
認証履歴のユーザ・インタフェース	155
[認証履歴] ページ	156
[CI 詳細] ダイアログ・ボックス	159
[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックス	160
[表示するスナップショットの選択] ダイアログ・ボックス	161
[CI のソート] ダイアログ・ボックス	162
トポロジ・ページ	163
第14章: ビュー	165
ビューの概要	165
定義済みのビュー	166
トポロジ・ビューとインベントリ・ビュー	166
ビューの更新頻度	167
自動ステータス遷移	168
ビューを管理ビュー・リストに追加	169
ビューの自動ステータス遷移ルールの設定	169
ビューの更新頻度の指定	170
ビューのユーザ・インタフェース	171
[ビュー] ページ	171

トラブルシューティングおよび制限事項 - ビュー	174
第15章: ポリシー	175
ポリシーの概要	175
ベースラインの設定	177
ポリシー・グループ	177
ベースライン・ポリシーまたはトポロジ・ポリシーの定義	178
類似性ポリシーの定義	178
Configuration Manager のトポロジ・ポリシー - ユースケース	179
Configuration Manager の類似性ポリシー - ユースケース	184
ポリシーのユーザ・インタフェース	188
属性演算子	188
[ポリシー] ページ	189
[ポリシー プレビュー] ダイアログ・ボックス	195
[複合 CI の選択] ダイアログ・ボックス	196
トラブルシューティングおよび制限事項 - ポリシー	197
第16章: レポート	198
レポートの概要	198
レポートのスケジュール	199
レポートのユーザ・インタフェース	200
レポートの詳細ウィザード	200
[レポート] ページ	202
第17章: 設定	204
設定の概要	204
トポロジ・レイアウトへの新しいレイアウトの追加	205
構成の変更の保存と適用	205
設定のユーザ・インタフェース	206
[構成セットを開く] ダイアログ・ボックス	206
[ドラフトとして保存] ダイアログ・ボックス	207
[設定] ページ	208
第18章: 自動化設定	221
自動化設定の概要	221
自動化のセットアップ	222
[自動化設定] ユーザ・インタフェース	223
[自動化設定] ページ	223
第19章: 自動化ポリシー	227
自動化ポリシーの管理の概要	227
自動化ポリシーの定義	228
Configuration Manager 自動化ポリシー - 使用例	228
[自動化ポリシー] ユーザ・インタフェース	230
[自動化ポリシー] ページ	230
第20章: ユーザ・プリファレンス	234
ユーザ・プリファレンスの概要	234

電子メール通知の構成	234
ユーザ・プリファレンスのユーザ・インタフェース	235
[ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックス	235
付録	239
付録A: キャパシティに関する制限事項 – Configuration Manager	240
付録B: ユーティリティ	241
構成セットのエクスポート	241
構成セットのインポート	243
パスワード暗号化	245
ポピュレート	246
キー生成	246
付録C: システム・データのエクスポートとインポート	247
システム・データのエクスポートとインポートの概要	247
システム・データのエクスポート	249
システム・データのインポート	249
ログの冗長レベルの設定	250
ドキュメントに関するフィードバックの送信	251

はじめに

第1章: Configuration Manager の紹介

本章の内容

- HP Universal CMDB Configuration Manager 概要11
- 設定モデリングと分析12
- オフライン分析12
- ポリシー12
- データ管理 - 実際のステータスと認証済みのステータス 15
- 履歴の比較15
- トポロジ・モードとインベントリ・モード16
- システム操作の自動化16
- ユーザ管理17
- 複数テナント UCMDB 環境での Configuration Manager17
- ライセンス認可されたコンテンツ18
- ホーム・ページ19
- UCMDB Browser21
- ユース・ケース24
- Configuration Manager の作業のベスト・プラクティス25

HP Universal CMDB Configuration Manager 概要

構成管理は、ITIL V3 に準拠したプロセスであり、IT がビジネスをサポートするために必要な情報を集約したデータ・ソース (CMS, Configuration Management System の略) を管理します。このプロセスは、IT インフラストラクチャとソフトウェアを完全かつ正確に把握することで、ITIL プロセスの品質を向上し、ビジネス上の意思決定を容易にします。さらに、組織の IT を正常稼働することで、ビジネスの中断を最小限に抑えます。

HP Universal CMDB Configuration Manager (以下、Configuration Manager とします) は、CMS データの管理を効率化するシステム管理者向けのツールです。このツールは、ITIL V3 に基づいて CMS 内にあるデータを分析および管理することを主な目的とします。Configuration Manager は、CMS インフラストラクチャを管理するための環境を整備し、さまざまなデータ・ソースや、幅広い製品およびアプリケーションに対応します。

構成管理機能は、CI を適切に管理できる環境を実現すると同時に、CI、バージョン、場所、保管/所有の変更履歴を保持します。インフラストラクチャの物理的または電子的な資産やコンポーネントを管理することによって、物理的な環境に基づいて最新の構成データを提供します。

設定モデリングと分析

Configuration Manager の基本機能の1つに、設定された基準に基づいて IT 環境を測定する機能があります。この機能では、「目的が同じ CI には同じ構成を適用する」という考え方に基づいて、保守コストの削減と予測の精度向上を図ります。構成分析モジュールは、選択した複合 CI と、組織の標準となる構成モデルを比較します。これにより、CI とモデルの類似性を測定できます。

この分析では、選択した CI と、組織のニーズに合わせて作成したカスタム構成モデルを比較します。CI とモデルの類似性のレベルは、複合 CI のトポロジと CI の属性に基づいて判定されます。分析は、モデルの定義と比較分析という2つの手順を繰り返して行われます。具体的には、モデルを定義し、それを CI と比較した結果、構成上の相違点を特定するか、モデルを再定義して比較に戻ります。

この分析を利用すると、たとえば、複数の環境内に存在するさまざまな CI の構成を比較できます。同じアプリケーションが運用環境とステージング環境にある場合、これを比較することによって、テスト構成を使って運用環境で問題が発生した場合の原因を究明できます。

構成分析プロセスの詳細については、「[ベースライン分析](#)」(106ページ)を参照してください。

オフライン分析

Configuration Manager で実行される分析プロセスは、オフラインのプロセスであり、非同期的に実行され、管理ビューに表示される情報が更新されます。定期的に、UCMDB で更新済みの CI がポーリングされます。Configuration Manager でビューを次回開いたときに、更新された情報が表示されます。この分析は、次のいずれかの指定した更新頻度に従って実行できます。

- 毎日指定した時刻に実行
- オフライン分析の繰り返し間隔に従って、いずれかの CI で変更が検出されるたびに実行

更新頻度とオフライン分析設定の指定方法の詳細については、「[【設定】 ページ](#)」(208ページ)を参照してください。

ポリシー

ポリシーとは、組織の標準を定義するルールです。定義した標準を管理対象環境 (ビュー) に適用することによって、設定した標準へのコンプライアンスを継続的に監視できます。ポリシーをビューに適用すると、Configuration Manager はビュー内の CI がポリシーに適合しているかどうかをチェックします。1つのビューに複数のポリシーを同時に適用することが可能です。

また、連合機能を使用して外部アプリケーションからポリシー・データを導入することも可能です。このデータはその後、Configuration Manager 内でポリシーを直接作成した場合と同じように利用されます。連合できる CI タイプは Node, RunningSoftware, IpAddress です。

ビューの**ポリシー・ステータス・レベル**は、ビューに適用されているすべてのポリシーに基づいて総合的に決定されます。ビューの**ポリシー・ステータス・レベル**は、ポリシーに適合するCIの割合(%)を表します。

適用可能な構成ポリシーの1つに**ベースライン・ポリシー**があります。このポリシーは、ポリシーのベースラインとなる構成モデルを保存したものであり、これをもとに構成分析機能をさらに拡張することができます。ベースライン・ポリシーをビューに適用すると、個々のCIをベースラインと比較するのではなく、ビュー内にある特定のタイプのすべてのCIをベースラインと比較できます。これによって、同じタイプのCIがベースラインに適合していることを確認できます。さらに、新しいCIをシステムに追加する際には、ベースラインに基づいた構成が可能になります。ベースラインの詳細については、「[ベースラインの設定](#)」(177ページ)を参照してください。

トポロジ・ポリシーも構成ポリシーの1つです。これは、UCMDB で使用するトポロジ・クエリ言語(TQL)を使って定義します。トポロジ・ポリシーでは、トポロジ構成(CIのセットとCI間の関係)を定義します。

追加の**ポリシー・タイプ**は、**類似性ポリシー**であり、そこでビューの特定のタイプのすべてのCIまたはビューのCIのグループ(各グループが定義されたCITに接続されている)の間で類似性を強制するCIおよび属性を選択します。

トポロジ・ポリシーの使用例としては、ビジネス・クリティカルなアプリケーションの高い可用性を確保し、障害発生時には迅速に復旧できるように、このようなアプリケーションをサポートするサーバ群が同じ場所に設置されていないことを確認するポリシーを定義します。

ポリシーの定義および管理の詳細については、「[ポリシー](#)」(175ページ)を参照してください。

定義済みのポリシー

注: Advanced ライセンスを購入していない場合、このコンテンツを利用することはできません。適切なライセンスを入手するには、HP の営業担当または HP ソフトウェア・ビジネス・パートナーに連絡してください。

Configuration Manager には、UCMDB で作成された TQL クエリに基づいた定義済みの**ポリシー・グループ**が同梱されています。定義済みのポリシーには3つのタイプがあります。

- **データ品質ポリシー** – これらのポリシーによって、UCMDB でデータが欠落していないことが確認されます。
 - **各サーバに場所が必要** – このポリシーがアクティブになるのは、少なくとも1つの Windows マシンまたは UNIX マシンが場所 CI に接続されている場合だけです。
 - **各サーバに所有者が必要** – このポリシーがアクティブになるのは、少なくとも1つの Windows マシンまたは UNIX マシンが、関係タイプが所有であるユーザに接続されている場合だけです。
 - **各 MSSQL データベースまたは Oracle データベースにバージョンが必要**。

- 未使用リソース・ポリシー - これらのポリシーによって、Windows 7, 2003, または 2008 マシンに冗長なプロセッサやメモリがインストールされていないことが確認されます。たとえば、ポリシーによって、PAE が無効化された Windows 32 ビット・システムに、4 GB を超えるメモリがインストールされていないかが確認されます。
- クラスタ復元性ポリシー - これらのポリシーによって、すべてのクラスタが復元性を持つことが確認されます。たとえば、ポリシーによって地理的冗長性が確認されます（サーバ上に地理的な単一障害点がないこと）。

次のさまざまなクラスタ復元性シナリオにポリシーが用意されています。

- 地理的な単一障害点 - 仮想環境では、ポリシーによって、クラスタの仮想マシン・ホスト（たとえば、ESX サーバ）が少なくとも 2 つの異なる場所にあることが確認されます。非仮想環境では、ポリシーによって、クラスタのすべてのノードが少なくとも 2 つの異なる場所にあることが確認されます。これらのポリシーを使用するには、サーバの場所を UC MDB でモデリングし、電力配分装置を検出する Apertura VISTA 統合をアクティブ化する必要があります。
- 電力配分装置の単一障害点 - 仮想環境では、ポリシーによって、クラスタの仮想マシン・ホスト（たとえば、ESX サーバ）が少なくとも 2 つの異なる電力配分装置に接続されていることが確認されます。非仮想環境では、ポリシーによって、クラスタのすべてのノードが少なくとも 2 つの異なる電力配分装置に接続されていることが確認されます。
- 仮想マシン・ホストの単一障害点 - 仮想環境では、ポリシーによって、クラスタの仮想マシンが複数のサーバ（たとえば、複数の ESX サーバ）でホストされていることが確認されます。
- ネットワークの単一障害点 - 仮想環境では、ポリシーによって、仮想マシンが複数の仮想スイッチに接続されていることが確認されます。
- アプリケーション・サーバの類似性 - ポリシーによって、クラスタ内のすべてのアプリケーション・サーバが同一であることが確認されます。
- クラスタ・ノードの類似性 - ポリシーによって、クラスタ内のすべてのノード（仮想マシンまたは非仮想マシン）が同一であることが確認されます。

これらのポリシーは、UCMDB の次の場所にあります：[モデリング スタジオ] > [リソース] タブ（リソース・タイプとして [クエリ] を選択）> [Configuration Manager] > [Configuration Manager - Do not modify] フォルダ。

注: これらのポリシーのデータを検出するには、Universal Discovery (UD)（次のすべてのアクティビティの実行を含む）を実行する必要があります。

- ソフトウェア - 基本
- ソフトウェア - JavaEE
- ソフトウェア - クラスタ

加えて、ディスカバリを実行して仮想化インフラストラクチャ、ネットワーク・インフラストラクチャ、レイヤ 2 トポロジのデータを取得しなければなりません。

これらのアクティビティ、およびディスカバリ実行の詳細については、『HP UCMDB Discovery and Integrations Content Guide』のディスカバリ・アクティビティを参照してください。

データ管理 - 実際のステータスと認証済みのステータス

Configuration Manager は、ビューのステータスを管理することによって、構成管理システム内のデータを管理します。

実際のステータスとは、サービスのトポロジと構成について、構成管理システム（ディスカバリ・モジュールなど）のデータ・ソースが現在報告している状態を示します。

認証済みのステータスとは、サービスが制御された状態であり、configuration manager に基づく正しいサービス構成を示します。

必要になるCI情報は、製品、プロセス、ユーザのニーズによって異なります。たとえば、アプリケーション・エラーに対応する場合には、アプリケーションを実行しているサーバの実際のステータスを確認する必要があります。そのためには、サーバと、サーバにインストールされているソフトウェアを特定する必要があります。また、たとえばサービス・レベル契約を締結する際には、認証済みのサーバ構成を定義することが重要です。実際の構成は必ずしも認証済みの構成と一致するわけではなく（認証されていない変更が発生している可能性があります）、1カ月後も同じ構成のままという保証もありません（追加の変更が行われる可能性があります）。認証済みのステータスは、ポートフォリオを使用する際に保全された環境を提供でき、データは最新の状態ではない可能性がありますが安定性と信頼性が高いという特徴があります。

Configuration Manager は、サービスの実際のステータスの変化を表示し、これに基づいてユーザが認証します。ビューの実際のステータスで発生した変更を認証すると、ビューのステータスは認証済みになります。

複合CIの変更をレビューし、個々に選択して認証する手動の方法と、条件を設定してビュー全体のステータスを自動的に遷移させる方法があります。自動ステータス遷移を実行すると、ビューの変更内容のうち、すべての条件を満たすものが認証されます。

各種ステータスの管理の詳細については、「[レビュー/認証](#) (122ページ)を参照してください。自動ステータス遷移については、「[ビュー](#)」(165ページ)を参照してください。

履歴の比較

問題の根本原因を究明してミスの再発を防止するためには、過去の変更データや変更履歴を検討することが必要になる場合があります。Configuration Manager では、変更履歴モジュールと認証履歴モジュールを使って、実際のステータスと認証済みのステータスのいずれかについて、過去のデータを参照することができます。

スナップショットとは、特定の日時に記録されたビューの構成を指します。スナップショットを比較することによって、過去に発生した変更内容をスキャンできます。この操作には高機能ユーザ・イン

タフェースを使用でき、異なるタイミングで取得したスナップショットの比較や、現在の構成との相違の特定が可能です。

Configuration Manager は、ビューに変更が発生すると、実際のステータスのスナップショットを自動的に取得します。また、認証時にもビューのスナップショットを取得します。スナップショットは CMS 内に記録され、固定の履歴レコードとして保持されます。同じステータスの同じビューのスナップショットを2つ取得して比較すると、時間の経過に伴う変更内容を追跡できます。変更履歴モジュールは、ビューの実際のステータスのスナップショットを表示し、認証履歴モジュールは、ビューの認証済みステータスのスナップショットを表示します。

スナップショットの使用例として、企業ポータルのパフォーマンスが数週間の間に低下した場合を考えてみましょう。顧客から苦情が寄せられたため、管理者は、ポータル環境の現在のステータスと1週間前に取得したスナップショットを比較します。次に、すべての変更内容をレビューし、パフォーマンス低下の原因となる変更を特定します。

スナップショットの比較の詳細については、「[変更履歴](#)」(142ページ)と「[認証履歴](#)」(154ページ)を参照してください。

トポロジ・モードとインベントリ・モード

構成管理は、トポロジのパーспекティブとインベントリのパーспекティブから実行できます。たとえば、サービスの所有者は、サービス・トポロジの全体像を、最上位のビジネス・サービスCIから下位のハードウェアCIへと参照します。これに対してデータベース管理者などのマネージャは、特定のCIタイプを参照するために、同じタイプのCIを一覧表示します。

このようなニーズに対応するために、Configuration Manager では次の2つのモードで管理対象環境を表示できます。

- **インベントリ・モード**: フィルタ可能なCIリスト
- **トポロジ・モード**: トポロジ・グラフ

インベントリ・モードでは、複合CIリストのフィルタや、CIのサブセットの絞り込み(変更されたCIやポリシー違反のCIなど)が可能です。トポロジ・モードでは、幅広い範囲のサービス・トポロジをグラフ表示します。

システム操作の自動化

Configuration Manager では、HP Operations Orchestration で事前定義されたフローを使用して、標準的なシステム運用作業を自動化できます。この自動化は、HP Operations Orchestration からフローをインポートして設定します。

自動化には、コントロールされた自動化とコントロールされない自動化があります。また、コントロールされた自動化機能は、自動的なリスクの可視化とも呼ばれます。この自動化により、Configuration Manager での自動実行に伴って発生する可能性のあるリスクを認識することができます。

自動化ポリシーでは、自動化を実行すると大きなリスクが発生するケースを特定することができます。すべての自動化ポリシーは、自動化ポリシー管理モジュールで管理されています。ポリシーでは、自動実行情報と、自動実行の対象となる CI への影響に基づいて制限を設定します。

コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行方法については、「[コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行](#)」(75ページ)を参照してください。

自動化ポリシーの定義方法については、「[自動化ポリシーの定義](#)」(228ページ)を参照してください。

ユーザ管理

ユーザ管理、グループ管理、および役割管理の機能は、HP Universal CMDB アプリケーション内で実行されます。セットアップと構成の詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の次の項を参照してください。

- 「ユーザとグループ」
- 「ロール・マネージャ」

複数テナント UCMDB 環境での Configuration Manager

Configuration Manager 自身はマルチテナンシーをサポートしませんが、UCMDB のマルチテナント環境に接続することは可能です。

エンド・ユーザが UCMDB リソースおよび CI をテナントセーフの形で表示できることを確認するには、Configuration Manager を次のいずれかの方法で設定する必要があります。

UCMDB 管理のみでの Configuration Manager (推奨)

UCMDB のマルチテナント環境では、Configuration Manager は UCMDB 管理ツールとして機能します。この場合、すべてのテナント関連の情報を確認する権限を持つ管理者のみが、構成ポリシーの定義や変更内容の追跡を行えます。その一方で、特定のテナントに関連付けられた権限を持つエンドユーザは、UCMDB Browser を通して、そのテナントが割り当てられたリソースを確認できます。

これは次のようにアーカイブ保存されます。

- ポリシーは Configuration Manager で定義され、UCMDB Browser を介したテナントセーフの方法でエンドユーザによって利用されます。

すべてのテナントのデータを表示するように UCMDB で定義されたビューは、Configuration Manager で管理可能で、ポリシーもビューの上に適用できます。Configuration Manager UI にアクセスしている管理者がこのビューですべての CI のポリシー・ステータスを表示可能である一方、UCMDB Browser にアクセスしているエンドユーザは、表示する権限が与えられているこれらの CI のポリシー・ステータスのみを利用できます。

- Configuration Manager では、ポリシーのフィルタの【所有者テナント】属性でテナントを指定することによって、ポリシーをテナント固有の CI に適用できます。これにより、ポリシーは所有者テナントが指定されたテナントである CI のみに対して適用されます。

注: CI タイプ・マネージャの【所有者テナント】属性を表示可能にするには、Configuration Manager の属性フィルタで、この属性に【管理】修飾子を追加する必要があります。

エンドユーザ機能での Configuration Manager

UCMDB のマルチテナント環境では、すべてのエンドユーザが Configuration Manager UI への直接アクセスが可能な場合、Configuration Manager で管理されたビューはテナント固有のデータを持つ必要があります。それらのビューに対するアクセスは、ビューのユーザの権限に関連付けられたテナントに限定するように設定されている必要があります。

このオプションによってすべてのエンドユーザが Configuration Manager にアクセス可能になる一方で、関連するテナントごとに、個別のビューそれぞれに対する設定と保守管理が必要になります。

ライセンス認可されたコンテンツ

Configuration Manager の一部の機能には、個別に購入する使用ライセンス (LTU) が必要です。Advanced Configuration Manager の LTU を購入しない場合、これらの機能を使用できません。適切なライセンスを入手するには、HP の営業担当または HP ソフトウェア・ビジネス・パートナーに連絡してください。

Advanced Configuration Manager の LTU に含まれる機能およびコンテンツは次のとおりです。

- セグメント分析。詳細については、「[セグメント分析](#)」(114ページ)を参照してください。
- 類似性ポリシー。詳細については、「[ポリシー](#)」(175ページ)を参照してください。
- トポロジ・ポリシー。詳細については、「[ポリシー](#)」(175ページ)を参照してください。
- 定義済みのポリシー。詳細については、「[定義済みのポリシー](#)」(13ページ)を参照してください。
- 定義済みのビュー。詳細については、「[定義済みのビュー](#)」(166ページ)を参照してください。

注: 定義済みのポリシーおよびビューは、インストール時に標準設定でインストールされますが、Advanced ライセンスを購入して有効化しない場合は使用できません。

次の機能には、自動リスク・ビジュアライザの LTU が必要です。デフォルトでは、次の機能はデプロイ時に含まれません。これらの機能を使用できるのは、以前に HP Universal CMDB Configuration Manager バージョン 9.20 または 9.30 のライセンスを購入したユーザだけです。

- 自動化管理
- 自動化ポリシー

これらのモジュールについては、関連バージョンの『HP Universal CMDB Configuration Manager ユーザズ・ガイド』を参照してください。

高度なコンテンツの有効化

高度なコンテンツは、次に示す2つの方法で有効化できます。

- デプロイメントの実行時に高度なコンテンツをインストールするには、Advanced ライセンスをインストール済みの UCMDB サーバに接続しなければなりません。Configuration Manager のデプロイ時に、インストール・ウィザードの [詳細内容] ページでチェック・ボックスを選択できます。
- Configuration Manager のデプロイ後に該当のライセンスを購入した場合には、次の手順を実行してコンテンツをアクティブ化します。
 - a. Web ブラウザを起動して、次のアドレスを入力します。**http://<サーバ名>:<ポート番号>/cnc/jmx-console**。<サーバ名>は、Configuration Manager がインストールされているマシンの名前です。
 - b. JMX コンソールの認証資格情報を入力します。
 - c. [Configuration Manager] の下の [ImportExport service] をクリックします。
 - d. [activateAutomanageResource] 操作で、[Invoke] をクリックします。

高度なコンテンツの削除

以前にインストールされた高度なコンテンツを削除するには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザを起動して、次のアドレスを入力します。**http://<サーバ名>:<ポート番号>/cnc/jmx-console**。<サーバ名>は、Configuration Manager がインストールされているマシンの名前です。
2. JMX コンソールの認証資格情報を入力します。
3. [Configuration Manager] の下の [Licensed content service] をクリックします。
4. [deactivateAutomanagedResources] 操作で、[Invoke] をクリックします。

ホーム・ページ

ホーム・ページは Configuration Manager への入口であり、主な機能への簡単なナビゲーション・インタフェースが用意されています。

注: ライセンスが必要な機能は、横に鍵のアイコンが表示されます。必要なライセンスを購入するようにシステム管理者に依頼してください。

ホーム・ページには次の領域があります。

- 自分の構成の管理
 - [クイックスタート] セクションでは、次のことができます。
 - 既存の UCMDB ビューの管理。詳細については、「[ビュー](#)」(165ページ)を参照してください。

- インベントリ・ビューの作成と管理。詳細については、「[インベントリ・ビュー・ウィザード](#)」(52ページ)を参照してください。
 - 新規ポリシーの作成または既存のポリシーの管理。詳細については、「[ポリシー](#)」(175ページ)を参照してください。
 - ポリシー結果の表示。詳細については、「[\[ポリシー サマリ\] ページ](#)」(69ページ)を参照してください。
 - 電子メールで自動的に送信される操作レポートのスケジュール設定。詳細については、「[レポートのスケジュール](#)」(199ページ)を参照してください。
- **[IT 環境の標準化]** セクションでは、次のことができます。
 - 選択したCIをゴールド・マスタとして使用するベースライン・ポリシーの作成。詳細については、「[ベースライン・ポリシーまたはトポロジ・ポリシーの定義](#)」(178ページ)を参照してください。
 - 構成のベースとして使われるトポロジと属性を指定するポリシーの作成。詳細については、「[ベースライン・ポリシーまたはトポロジ・ポリシーの定義](#)」(178ページ)を参照してください。
 - データの構成を標準化するためのポリシーの作成。詳細については、「[類似性ポリシー・ウィザード](#)」(58ページ)を参照してください。
 - 複数のアプリケーションにわたってクラスタおよびその他のパターンを追跡するためのポリシーの作成。詳細については、「[ベースライン・ポリシーまたはトポロジ・ポリシーの定義](#)」(178ページ)を参照してください。
 - **[分析]** セクションでは、次のことができます。
 - 構成モデルとのCIの比較。詳細については、「[比較用の構成モデルの定義](#)」(107ページ)を参照してください。
 - 類似する構成を持つCIのグループの検索。詳細については、「[類似するCIのグループを含むCIの選択](#)」(115ページ)を参照してください。
 - **[ビジネスの継続性]** セクションでは、次のことができます。
 - ビジネス環境における継続性を実現するために役立つポリシーの選択。詳細については、「[ポリシー](#)」(175ページ)を参照してください。
 - 既存のビューに基づくポリシーの作成。詳細については、「[ベースライン・ポリシーまたはトポロジ・ポリシーの定義](#)」(178ページ)を参照してください。
 - UCMDBでの新しいトポロジ・ビューの作成。詳細については、『[HP Universal CMDB モデリング・ガイド](#)』を参照してください。
 - **[データ品質]** セクションでは、次のことができます。
 - 高品質データの要件の指定。詳細については、「[データ品質ポリシー・ウィザード](#)」(54ページ)を参照してください。

- **【コントロールの変更】** セクションでは、次のことができます。
 - CIの変更のレビューおよび認証。詳細については、「[CIの変更の認証](#)」(124ページ)を参照してください。
 - 変更履歴の確認。詳細については、「[スナップショットの比較](#)」(143ページ)を参照してください。
 - 認証履歴の確認。詳細については、「[スナップショットの比較](#)」(155ページ)を参照してください。
- データ・サマリ
 - **お気に入りビューのコンプライアンス**

このセクションには、お気に入りビューと、各ビューのポリシー・ステータス（適合、違反、データなし）のグラフィック表現のリストが表示されます。[**お気に入りビューのコンプライアンス**]上をクリックすると、ビュー・サマリ・モジュールが開き、ビュー上をクリックするとビューの調査モジュールでそのビューを開きます。



をクリックして [ユーザプリファレンスの表示] ウィンドウを表示し、ここでお気に入りビューのプリファレンスを変更することもできます。

注: [お気に入りビューのコンプライアンス] リストには、最大 40 のビュー（違反ポリシーの割合が最も大きいもの）が表示されます。
 - **ポリシー・サマリ**

このセクションには、Configuration Manager で定義されたポリシーのサマリと、各ポリシーのポリシー・ステータス（適合、違反、データなし）のグラフィック表現が提示されます。[**ポリシー サマリ**]上をクリックするとポリシー・サマリ・モジュールが開き、ポリシー上をクリックするとポリシーモジュールでポリシーを開きます。
 - **KPI サマリ**

このセクションでは、Configuration Manager が監視する主要なデータをダッシュボードで表示します。[**KPI サマリ**]上をクリックすると、KPI サマリ・モジュールが開き、ビュー上をクリックするとビューの調査モジュールでそのビューを開きます。
- この他に、ホーム・ページの上部にあるリンクから、Configuration Manager の主要機能モジュールに直接アクセスできます。

UCMDB Browser

UCMDB Browser では、簡単かつ直感的に UCMDB の CI を検索することができ、選択した CI のコンテキストで重要なデータが表示されます。特定の CI 情報に素早くアクセスできる理想的なツールです。

検索クエリの結果として見つかった CI については、関連するデータが表示され、情報ウィジェット（たとえば、ポリシー・ウィジェット）にまとめられます。データは標準ではプレビュー・モードで表示されますが、拡張モードでさらに包括的なデータを表示することもできます。

ブラウザには軽量の UI が組み込まれており、UCMDB 情報にシンプルにアクセスできるようになっています。ユーザ管理は不要で（ユーザ管理は UCMDB UI によって処理されます）、新しいバージョンに更新する場合もアップグレードする必要はありません。ブラウザには上位互換性があり、UCMDB SDK のみを使うことにより UCMDB サーバの異なるバージョンとも作業ができます。

Configuration Manager からのポリシー情報は、UCMDB Browser のポリシー・ウィジェットを使用して表示されます。このウィジェットは定義済みで、インストール時に Configuration Manager から必要な連合構成が作成されます。

ポリシー・ウィジェットには、Configuration Manager から UCMDB に連合される選択済みの CI のステータス（適合または違反）が表示されます。また、UCMDB で構成されているポリシー情報の追加連合アダプタも表示されます。

UCMDB Browser へのアクセス

次のいくつかの方法で UCMDB Browser に移動できます。

- 新しいウィンドウで UCMDB Browser を直接開くには、次を入力します。

`http://<サーバ名>.<ドメイン名>:<ポート>/ucmdb-browser`

<サーバ名>.<ドメイン名>には Configuration Manager サーバの完全修飾ドメイン名（FQDN）、<ポート>にはインストール中に選択したポートを指定します。

- CI を選択せずに埋め込みの UCMDB Browser を開くには、**【調査】** > **【UCMDB Browser】** をクリックします。
- 選択した CI のコンテキストで UCMDB Browser を開くには、次のいずれかの操作を実行します。

- **【Configuration Manager】** 画面の上部にある **【検索】** フィールドに用語を入力し、 をクリックします。
- レビュー/認証モジュールまたはビューの調査モジュールで、CI を選択して  をクリックします。

注: Internet Explorer 9 を使用している場合で埋め込み UCMDB Browser の読み込みがスムーズに行われなときは、次の手順を実行します。

- UCMDB および Configuration Manager の URL に関する互換性モードを無効にします（**【ツール】** > **【Compatibility View Settings】**）。
- Chrome Frame アドオンを無効にします（**【ツール】** > **【アドオンの管理】**）。

UCMDB Browser から Configuration Manager への移動

UCMDB Browser から Configuration Manager に移動するには、次の3つのオプションがあります。

UI 要素	詳細
	クリックすると、Configuration Manager の元のモジュールに戻ります。
	クリックすると、選択した CI のコンテキストのレビュー/認証モジュールに移動します。 注: この機能は複合 CI のみで使用できます。
	クリックすると、選択した CI のコンテキストのビューの調査モジュールに移動します。 注: この機能は複合 CI のみで使用できます。

注: どのビューにも表示されない CI を UCMDB Browser で選択し、変更のレビュー/認証またはビューの調査モジュールに移動しようとした場合、選択した CI に対するビューを作成するかどうかを尋ねられます。作成することを選択した場合、ウィザードの完了後に、選択したモジュールに移動します。詳細については、「[インベントリ・ビュー・ウィザード](#)」(52ページ)を参照してください。

ヘルプの表示

埋め込みの UCMDB Browser を表示している場合、**[ヘルプ]** > **[このページのヘルプ]** をクリックすると、完全な UCMDB Browser オンラインヘルプにアクセスできます。

UCMDB Browser のアップグレード

Configuration Manager とは別に、最新バージョンの UCMDB Browser にアップグレードできます。

1. 最新バージョンの UCMDB Browser を次に示す HPLN から一時ディレクトリにダウンロードします。https://hpln.hp.com/node/9462/contentfiles#node_9554

注: HP Passport のユーザ名とパスワードを入力するよう求められることがあります。

2. 次のフォルダに移動します:<CM_インストール_フォルダ>/servers/server-0/webapps。
3. **ucmdb-browser.war** ファイルを削除します。
4. **ucmdb-browser** フォルダも削除されていることを確認します。約 30 秒が経過してもこのフォルダが表示されている場合は、Configuration Manager のサービスを停止して、手でフォルダを削除します。
5. 新しい **ucmdb-browser.war** ファイルを <Configuration Manager のインストール・フォルダ>/servers/server-0/webapps フォルダにコピーします。

注: サーバが実行中の場合、コピー・アンド・ペーストではなく、カット・アンド・ペースト操作を使用して新規 WAR ファイルを所定の場所に配置します。カット・アンド・ペーストを使用するとファイルを即座にコピーされ、サーバがアプリケーションを完全にデプロイできるようになります（不完全な WAR ファイルをデプロイする可能性がなくなります）。

- （手順 4 で説明したとおり）Configuration Manager のサービスを停止して、手動で **ucmdb-browser** フォルダを削除した場合、Configuration Manager のサービスを再起動します。
- ucmdb-browser** フォルダが再作成されたことを確認します。

ユース・ケース

Configuration Manager の使用方法の例をいくつか紹介します。

• サーバの表示

システム管理者は、サーバとその詳細情報（属性、CPU、ファイル・システム、IP アドレス）、サーバ間の関係を表示できます。

• ハードウェアの調査

システム管理者は、物理サーバに搭載されている CPU のタイプを簡単に確認できます。

• ラボ用の構成ベースラインの設定

ラボ管理者は、サーバ構成の分析に基づいて、（ほとんどの）サーバの現在の構成を的確に示すベースラインを設定できます。

• アプリケーション・サービス・ツリーのモデル化と表示

アプリケーションの所有者は、アプリケーション・サービス・ツリーのモデル化と表示を、ビジネス・レイヤからアプリケーションおよびソフトウェア・レイヤ、さらにインフラストラクチャ・レイヤへと実行できます。

• アプリケーションで問題を引き起こした可能性のある構成変更の調査および特定

アプリケーションの所有者は、パフォーマンスが低下し始めたアプリケーションがある場合、問題が発生したと考えられる時期にアプリケーション・サービス・ツリーで行った構成変更を特定できます。

• アプリケーション・サービス・ツリーの変更の追跡

アプリケーションの所有者は、アプリケーション・サービス・ツリー内の変更を追跡および確認できます。

• 変更の自動確認（手動による追跡作業を軽減）

アプリケーションの所有者は、アプリケーション・サービス・ツリーでの変更を追跡および確認することが可能ですが、手動で確認する変更を重要なものだけに限定し、事前設定した条件を満たす変更を自動確認するオプションを利用することもできます。

- **アプリケーション・サービス・ツリーのコンプライアンス・スタックの作成**

アプリケーションの所有者は、アプリケーションの構成コンプライアンスに関するポリシーを作成できます。

Configuration Manager の作業のベスト・プラクティス

高品質の構成データを必要とするアプリケーションで認証済みのステータスを使用する場合、以下のアプローチをベスト・プラクティスとしてお勧めします。

- まず、必要なデータを特定します。これに従ってビューを定義し、定義したビューを Configuration Manager で管理します。
- このビューに適用する自動ステータス遷移条件を設定し、ビューで発生したすべての変更内容を認証します。この処理では、実際のステータスの構成が、認証済みのステータスにコピーされません。
- アプリケーションが、実際のステータスではなく認証済みのステータスのデータを使用するように設定します。
- ポリシーの適用、自動ステータス遷移ルールの変更、手動による変更の認証を通じて、ビュー内のデータの管理体制を徐々に整えていきます。このアプローチでは、データの可用性を確保しながら、構成の認証プロセスを導入することができます。

第2章: コンテンツ管理

本章の内容

- [コンテンツ管理の概要](#) 26
- [変更要求](#) 27
- [Configuration Manager コンテンツのワークフロー](#) 27
- [Configuration Manager のコンテンツの管理 - コースケース](#) 29
- [トラブルシューティングと制限事項 - コンテンツ管理](#) 32

コンテンツ管理の概要

Configuration Manager で管理ビューを操作するには、UCMDB のコンテンツを準備する必要があります。管理ビューには IT 要素が含まれており、Configuration Manager を使って CMS データを分析および管理できるように編成されています。

Configuration Manager 向けにコンテンツを編成する方法の 1 つが、**CI の複合**です。CI の複合とは、特定の CI タイプを上位タイプとして選択し、その CI に属するすべての CI をコンポーネント CI としてグループ化するプロセスを指します。たとえば、CPU はホストの一部なので、ホストの複合 CI に CPU が含まれることとなります。

複合 CI を使用してコンテンツを表示すると、次のような利点があります。

- データをわかりやすく表示することができます。たとえば CPU を参照する際には、通常はホストのコンテキストのみで参照します。
- トポロジは複合 CI のレベルのみにマップされるので、トポロジを簡素化できます。多数のコンポーネント CI から複合 CI を構成できるので、トポロジ・マップを大幅に簡素化できます。
- 上位 CI から関連 CI を管理できます。コンポーネント CI での変更内容はすべて、上位 CI に対する変更としてキャプチャされます。したがって、複合 CI からドリルダウンし、コンポーネント CI の詳細を参照することもできます。

管理ビューのコンテンツから複合 CI を作成する場合、どの CI タイプを複合 CI のコンポーネントとして認識するかを示した折りたたみルールを定義します。複合 CI の折りたたみルールを設定するには、HP Universal CMDB の CI タイプ・マネージャを使用します。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』の「複合 CI の折りたたみルールの設定」を参照してください。

データの編成には、複合 CIT でレイヤと分類を定義する方法もあります。**レイヤ**とは、複合 CIT の機能をグループ化するためのカテゴリです。レイヤには、ビジネス、ソフトウェア、インフラストラクチャなどがあります。**分類**とは、複合 CIT をさらにきめ細かいグループに分けるためのカテゴリです。

さらに、Configuration Manager で UCMDb コンテンツを使用するための準備として、CI の管理属性と比較可能な属性を定義する必要があります。管理属性とは、Configuration Manager で管理対象となる CI 属性を指します。この属性は、変更が認証された時点と履歴で追跡した時点で、認証済みのステータスにコピーされます。また、ポリシーの定義にも使用できます。比較可能な属性とは、Configuration Manager で CI のベースライン比較に使用する管理属性を指します。

レイヤと分類の値、管理属性と比較可能な属性は、UCMDb の CI タイプで定義されます。

変更要求

Configuration Manager は、Service Manager で発生した UCMDb 変更要求 (RFC) をインポートします。RFC は、それぞれが1つ以上の CI に関連付けられています。CI の RFC は、レビュー/認証モジュール、変更履歴モジュール、および認証履歴モジュールにある [比較詳細] 表示枠の [関連 RFC] タブに表示されます。

【管理】 > 【設定】 > 【アプリケーション管理】 > 【RFC】 の [取得される RFC 基準] では、RFC プロパティ、CI タイプ、RFC の完了日からの経過日数に基づいて RFC をフィルタできます。表示する RFC プロパティは、**【RFC 表示】** の設定を使用して選択することもできます。

注: RFC の完了予定日によるフィルタは、レビュー/認証モジュールで使用します。変更履歴モジュールと認証履歴モジュールでは、選択したスナップショットの中で、完成予定の RFC のみが表示されます。

ポリシー違反の原因を調査する際のベスト・プラクティスの1つとして、CI の [関連 RFC] タブで違反の有無を確認してください。

Configuration Manager コンテンツのワークフロー

このタスクでは、Configuration Manager コンテンツの管理ワークフローについて説明します。

本項の内容

- [「前提条件」 \(27ページ\)](#)
- [「複合 CI の定義」 \(27ページ\)](#)
- [「レイヤと分類の定義」 \(28ページ\)](#)
- [「管理属性の定義」 \(28ページ\)](#)
- [「比較可能な属性の定義」 \(28ページ\)](#)
- [「比較での一致ルールの定義」 \(28ページ\)](#)

1. 前提条件

まず、UCMDb のビューを調べます。ビューの目的と、複合 CI でどのようにデータを表示したいのかを考えてください。

2. 複合 CI の定義

複合 CI の範囲のルールを決めたら、関連する複合 CI の既存の折りたたみルール定義を編集します。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』の「複合 CI の折りたたみルールの設定」を参照してください。

Configuration Manager を起動するか、HP Universal CMDB で折りたたみルールを変更すると、HP Universal CMDB で定義されている折りたたみルールに基づき、関連のパーспекティブが UCMDDB で自動生成されます。これらのパーспекティブは、モデリング・スタジオの [リソース] 表示枠の **Configuration Manager - Do not change** フォルダに格納されます。

折りたたみルールを定義したら、Configuration Manager のビューの調査モジュールにアクセスし、定義したルールに基づいてビューが正しく表示されることを確認します。

3. レイヤと分類の定義

それぞれの複合 CIT がどのレイヤと分類に所属するかを考えます。複合 CIT で使用するレイヤと分類の定義には、UCMDDB の CI タイプ・マネージャで、**layer** と **classification** の各静的属性を使用します。レイヤと分類の色を定義するには、Configuration Manager で【管理】 > 【設定】 > 【アプリケーション管理】 > 【トポロジ表示】 > 【トポロジ レイアウト】を選択します。

注: コンポーネント CIT では、レイヤと分類は定義する必要はありません。

4. 管理属性の定義

すべての CI タイプ（複合とコンポーネント）の中で、どの CI タイプ属性を管理属性として定義するかを決めます。定義するには、UCMDDB の CI タイプ・マネージャで属性を選択し、【管理】修飾子を選択します。

主要な CIT 属性を管理属性として定義することをお勧めします。ただし、ユーザにとって有意な値が含まれていない CIT タイプ属性（ルート・コンテナなど）は除きます。

注: Configuration Manager では、管理属性のみが表示され、認証時には認証済みのステータスにコピーされます。

5. 比較可能な属性の定義

すべての CI タイプ（複合とコンポーネント）の中で、どの管理属性を比較可能な属性として定義するかを決めます。比較可能な属性は、Configuration Manager で CI を比較する際に使用します。定義するには、UCMDDB の CI タイプ・マネージャで属性を選択し、【比較可能】修飾子を選択します。

複合 CIT については、主要な属性は比較可能な属性として定義しないでください。コンポーネント CIT については、主要な属性を比較可能属性として定義することをお勧めします。ただし、ユーザにとって有意な値を含む場合にかぎります。

6. 比較での一致ルールの定義

比較可能な CIT の属性には一致ルールを定義できます。このルールは、コンポーネント CI を比較する際のガイドラインになります。Configuration Manager は、一致ルールで指定されている属性を元に、比較対象となる CI を特定します。

1 つの CIT 一致ルールに複数の属性を定義することができ、それぞれの属性に異なる優先度（第 1 属性、第 2 属性の順で優先など）を割り当てることも可能です。一致ルールの定義は、HP Universal CMDB の CI タイプ・マネージャで行います。HP Universal CMDB には Configuration Manager からアクセスできます。

- a. **[UCMDB の起動]**  ボタンをクリックし、HP Universal CMDB を開きます。
- b. **[マネージャ]** > **[モデリング]** > **[CI タイプ マネージャ]** を選択します。
- c. **[CI タイプ]** 表示枠のリスト・ボックスから、**[CI タイプ]** を選択します。
- d. 右の表示枠で **[一致ルール]** タブをクリックします。
- e. 属性に対する一致ルールを定義し、どの CI を比較するかを決定します。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』を参照してください。

注:

- 一致ルールは、複合 CIT には適用されません。
- 一致ルールの定義で使用できるのは、比較可能な属性のみです。

Configuration Manager のコンテンツの管理 - ユースケース

このユースケースでは、IIS Web サーバ・ビューに関する Configuration Manager コンテンツのワークフローを説明します。

注: このシナリオに関連するタスクについては、「[Configuration Manager コンテンツのワークフロー](#)」(27ページ)を参照してください。

このシナリオには次の手順が含まれています。

- [「前提条件」](#) (29ページ)
- [「HP Universal CMDB での複合 CI の設定」](#) (30ページ)
- [「レイヤの設定」](#) (30ページ)
- [「分類の設定」](#) (30ページ)
- [「管理属性の設定」](#) (31ページ)
- [「比較可能な属性の設定」](#) (31ページ)
- [「一致ルールの定義」](#) (32ページ)

1. 前提条件

次のタイプの CI を含む UCMDB のビューを考えてみましょう。

- IIS Web サーバ
- Node
- Oracle

Configuration Manager で使用するビューを作成するには、次に示す手順に従ってさまざまな設定を行います。

2. HP Universal CMDB での複合 CI の設定

[UCMDB の起動]  ボタンをクリックし、HP Universal CMDB を開きます。HP Universal CMDB で **[マネージャ]** > **[モデリング]** > **[CI タイプ マネージャ]** を選択します。[CI タイプ] 表示枠のリスト・ボックスから、**[計算関係]** を選択します。[計算リンク] の下で、**[折りたたみルール (Config Manager)]** を選択します。IIS Web サーバの次の折りたたみルールを特定します。

- IIS Application Pool
- IIS Web Service
- IIS Web サイト

さらに、IIS Web サイトのコンポーネント CI として **IIS Web Dir**、IIS Web Dir のコンポーネント CI として **構成ファイル** がルールで定義されています。

折りたたみルールの変更が必要な場合は、HP Universal CMDB で必要な変更を行います。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』の「複合 CI の折りたたみルールの設定」を参照してください。

3. レイヤの設定

UCMDB の CI タイプ・マネージャに移動します。このビューに含まれる CI タイプの **layer** 属性は、次のように定義されています。

- IIS Web サーバ - ソフトウェア
- Node - インフラストラクチャ
- Oracle - ソフトウェア

定義を変更する場合は、CIT の layer 属性を変更してください。

4. 分類の設定

UCMDB の CI タイプ・マネージャに移動します。このビューに含まれる CI タイプの **classification** 属性は、次のように定義されています。

- IIS Web サーバ - Web サーバ
- Node - インフラストラクチャ
- Oracle - データベース

定義を変更する場合は、CIT の classification 属性を変更してください。

5. 管理属性の設定

管理属性として定義する CIT 属性を選択します。たとえば、IIS Web サーバの場合、**Version** 属性と **Name** 属性がデフォルトで管理属性として定義されます。**StartupTime** 属性は、構成の一部としてはみなされないため、デフォルトでは管理属性として定義されません。デフォルトの属性定義は、システムでのニーズに合わせて変更可能です。

管理属性として属性を定義するには、次の手順を実行します。

- a. UCMDDB の CI タイプ・マネージャの [属性] タブに移動します。
- b. 必要な属性を選択し、[編集]  をクリックします。[属性の編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
- c. [詳細設定] タブを選択し、[管理] 修飾子のチェック・ボックスを選択します。[OK] をクリックします。
- d. 変更を保存します。

注: Configuration Manager では、管理属性のみが表示され、認証時には認証済みのステータスにコピーされます。

6. 比較可能な属性の設定

比較可能な属性として定義する管理属性を決定します。比較可能な属性は、Configuration Manager で CI を比較する際に使用します。

たとえば IIS Web サーバの場合を考えると、**Version** 属性は比較対象として適切です (2つの Web サーバのバージョンを比較)。ただし、**Name** 属性は適切ではありません。Web サーバにはさまざまな名前が付けられるからです。

比較可能な属性として属性を定義するには、次の手順を実行します。

- a. [UCMDDB の起動]  ボタンをクリックし、HP Universal CMDB を開きます。
- b. [マネージャ] > [モデリング] > [CI タイプ マネージャ] で [属性] タブを開きます。
- c. 必要な属性を選択し、[編集]  をクリックします。[属性の編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
- d. [詳細設定] タブを選択し、[比較可能] 修飾子のチェック・ボックスを選択します。[OK] をクリックします。
- e. 変更を保存します。

7. 一致ルールの定義

比較項目となるCIを指定するために、コンポーネントCITの属性を一致ルールとして定義します。[IIS Application Pool]と[IIS Web Service]のコンポーネントCITについて、HP Universal CMDBのCIタイプ・マネージャで[Name]属性を一致ルールとして定義します。

一致ルールを定義するには、次の手順を実行します。

- a. [UCMDBの起動]  ボタンをクリックし、HP Universal CMDBを開きます。
- b. [マネージャ] > [モデリング] > [CIタイプマネージャ]を選択します。
- c. [CIタイプ]表示枠のリスト・ボックスから、[CIタイプ]を選択します。
- d. 右の表示枠で[一致ルール]タブをクリックします。[IIS Web Service]または[IIS Application Pool]を選択すると、[一致ルール]表示枠にName属性が表示されます。
この設定の後に、タイプが[IIS Web サーバ]の複合CIを比較すると、[IIS Application Pool] CIと[IIS Web Service] CIが名前を元に比較されます。

トラブルシューティングと制限事項 – コンテンツ管理

問題: UCMDBでCIを変更したが、Configuration Managerに反映されない。

解決策: Configuration Managerはオフラインの非同期分析プロセスを実行します。したがって、UCMDBの最新の変更がまだ処理されていない可能性があります。この問題を解決するには、次のいずれかの手順を実行してください。

- 数分間待ちます。標準設定の分析プロセス実行間隔は10分です。この値は【システム】>【設定】で設定できます。
- JMX呼び出しを実行して、関連ビューでオフライン分析計算を実行します。
- [ポリシー]に移動します。[ポリシー分析の再計算]  ボタンをクリックします。これによりすべてのビューで、オフライン分析プロセスが呼び出されます（多少時間がかかる場合があります）。1つのポリシーを擬似的に変更し、保存しなければならない場合もあります。

問題: [UCMDBの起動]  ボタンをクリックすると、UCMDBのログイン・ページが開く。

解決策: 再度ログインせずにUCMDBにアクセスするには、シングル・サインオンを有効にする必要があります。詳細については、『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』の「Configuration ManagerとUCMDB間でのLW-SSOの有効化」に関する項を参照してください。さらに、ログインに使用するConfiguration ManagerユーザがUCMDBユーザ管理システムで定義されていることを確認してください。

問題: **【マネージャ】 > 【モデリング】 > 【CI タイプ マネージャ】** の **【CI タイプ】** 表示枠のリスト・ボックスから **【CI タイプ】** を選択しても、HP Universal CMDB で **【一致ルール】** タブが表示されない。

解決策: HP Universal CMDB で **【マネージャ】 > 【管理】 > 【インフラストラクチャ設定】** を選択し、**【Configuration Manager 一致ルールを有効化】** を True に設定します。ログアウトしてからログインし直すと、CI タイプ・マネージャで **【一致ルール】** タブが表示されます。

第3章: データの UCMDB への連合

本章の内容

- [連合データの概要](#) 34
- [ポリシー・コンプライアンス・データの連合](#) 35
- [KPI の連合](#) 37
- [UCMDB での連合ワークフロー](#) 41
- [トラブルシューティングおよび制限事項 - UCMDB へのデータ統合](#) 50

連合データの概要

HP Universal CMDB に組み込まれている連合メカニズムでは、外部アプリケーション間のデータを複製せずに共有するコンタクト・リポジトリとして UCMDB を使用できます。Configuration Manager からのデータを UCMDB に連合させることで、外部アプリケーションでは、次のようにさまざまな方法でその分析情報を使用できます。

- UCMDB のレポート機能を使用すると、Configuration Manager のデータの上にレポートを生成およびスケジュールできます。
- Configuration Manager のデータを HP Business Service Management などの他の HP アプリケーションで使用できます。
- Configuration Manager の分析データを他のアプリケーションでの意思決定のベースとして使用できます。

Configuration Manager では、次のデータを連合用に使用できます。

- **ポリシー・コンプライアンス・ステータス・データ。** 管理 CI と関連付けられているポリシーの現在のポリシー結果データに関する情報が含まれています。
- **認証ステータス・データ。** 管理 CI の認証ステータスに関する情報が含まれています。

UCMDB には、共有するモデルのスキーマのクラス・モデルが用意されており、UCMDB でデータをすぐに使用する方法として連合 TQL クエリが使用されます。詳細については、[「ポリシー・コンプライアンス・データの連合」\(35ページ\)](#)を参照してください。

UCMDB には、Configuration Manager からのデータを UCMDB に連合するための 2 つのアダプタが用意されています。アダプタは UCMDB の上に配置され、Configuration Manager から連合データを取り込む操作を実行します。これらのアダプタの詳細については、[「UCMDB での連合ワークフロー」\(41ページ\)](#)を参照してください。

詳細については、[「ポリシー・コンプライアンス・データの連合」\(35ページ\)](#)と [「KPI の連合」\(37ページ\)](#)を参照してください。

ポリシー・コンプライアンス・データの連合

Configuration Manager と UCMDb 間のデータの連合を有効にするために、Policy および PolicyResult の CI タイプが UCMDb クラス・モデルに追加されました。

Configuration Manager では、そのポリシー・データが次のモデルに連合されます。

モデル	詳細
ポリシー	<ul style="list-style-type: none"> 名前 - Configuration Manager に表示されるポリシーの名前です。 説明 - Configuration Manager に表示されるポリシーの説明です。 PolicyDefinedBy - ポリシーが定義されたアプリケーションです。(UCMDb-CM)
PolicyResult	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス結果 - ポリシーの最新のステータスです (ポリシーが違反している場合 0%, ポリシーが準拠している場合 100%)。 コンプライアンス・ステータス - ポリシーの最新の結果です (違反または準拠を問わず)。

KPI の連合に関する詳細情報については、次の項を参照してください。

- [「サポートされている TQL クエリ - ポリシー・コンプライアンス・データ」 \(35ページ\)](#)
- [「レポートの作成」 \(36ページ\)](#)

サポートされている TQL クエリ - ポリシー・コンプライアンス・データ

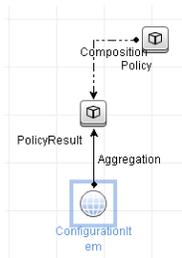
UCMDb でデータを使用する基本的な方法は、CMDB から必要な情報を取得する TQL クエリを作成することです。UCMDb からの連合データをサポートする TQL クエリは次のとおりです。

- ポリシーの取得



Policy CI タイプをフィルタする TQL クエリを作成します。これはすべての構成プロパティを取得します。

• CI のポリシー結果の取得



この TQL ポリシーはすべてのアタッチされているポリシー結果とポリシーに対する関連付けを取得します。

ポリシーは、名前、説明、PolicyDefinedBy クエリ・ノード・プロパティでフィルタできます。ポリシー結果は、コンプライアンス結果とステータスでもフィルタできます。

TQL クエリの作成の詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』を参照してください。

レポートの作成

UCMDb で UCMDb のトポロジ・レポート機能を使用すると、連合データでレポートを生成できます。連合データで作成できるレポートのタイプは次のとおりです。

• **ポリシー・コンプライアンス・レポート**

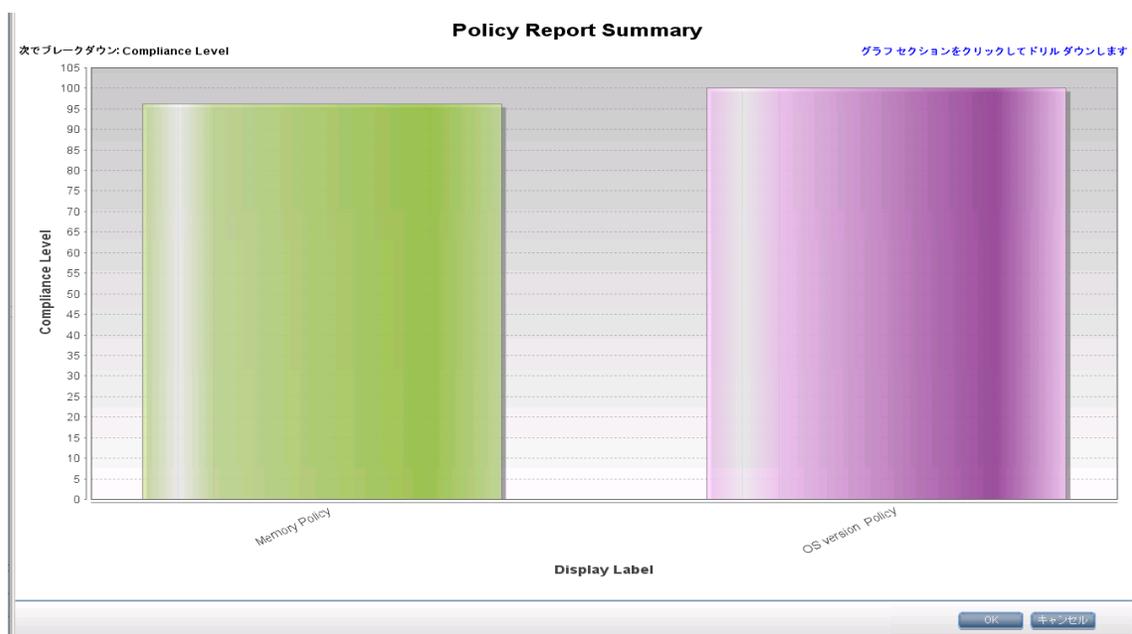
ポリシー・コンプライアンス・レポートには、ポリシー別に CI のポリシー結果に関する生データが表示されます。

Display Label	ComplianceLevel	PolicyDefinedBy
VMAMQA23		
in_breach	0	UCMDB-CM
New Baseline Policy		
VMAMQA35		
compliant	100	UCMDB-CM
New Baseline Policy		
VMAMQA62		
VMAMQA71		
VMAMQA88		
VMAMQA121		
VMAMQA134		
VMAMQA154		
VMAMQA187		

次の定義済みのポリシー・レポートが用意されています。

- Unix ポリシー・コンプライアンス
- Unix with Oracle ポリシー・コンプライアンス
- Windows ポリシー・コンプライアンス
- **ポリシー・コンプライアンス・サマリ・レポート**

ポリシー・コンプライアンス・サマリ・レポートには、ビュー内の CI 全般にわたるポリシーのコンプライアンス・レベルが表示されます。



ポリシーをクリックすると、CIリストまでドリルダウンできます。

The screenshot shows a web interface for "Policy Report Summary". The breadcrumb is "Policy Report Summary > Memory Policy". Below is a table with columns "Display Label" and "CI Type".

Display Label	CI Type
compliant	
VMAMGA62	unix
compliant	
VMAMGA268	unix
compliant	

レポートの作成の詳細については、[「UCMDB での連合ワークフロー」\(41ページ\)](#)を参照してください。

KPI の連合

KPI (キー・パフォーマンス・インジケータ) は、事前定義されたパフォーマンス・インジケータに従って、システムの正常性を測定します。Configuration Manager の場合、提供される KPI は、**ポリシー・コンプライアンス**と**認証レベル**です。Configuration Manager では、2つの KPI (ポリシー・コンプライアンスと認証ステータス) が連合されます。ポリシー・アダプタによって連合されるポリシー情報は生データであり、KPI ポリシーの場合、その情報が KPI のポリシー・コンプライアンスの測度としてモデリングされることに注意してください。

これらの KPI は、次の2つのレベルで測定されます。

- 複合 CI (ホストなど)。
- ビジネス・サービス (ビジネス・サービスに関連する構成に基づいて集計されます)。詳細については、[「ビジネス・サービス・ビューの特定」\(39ページ\)](#)を参照してください。

Configuration Manager では、その KPI データが次のモデルに連合されます。

モデル	詳細
ポリシー・コンプライアンス KPI (複合 CI)	<ul style="list-style-type: none"> • data_origin - KPI のソース (Configuration Manager) • description - KPI 値に関する詳細情報を提供するシステム生成の説明。 • kpi_name - KPI の名前 (policy_compliance) • kpi_status - この KPI のステータス (複合 CI のポリシー・コンプライアンスが 100% の場合, [OK], それ以外の場合, [警告]) • kpi_unit_of_measure - 測定単位 (%) • kpi_value - ポリシー・コンプライアンスの割合 (たとえば, CI に 5 つのうち 3 つの適合ポリシーがある場合, コンプライアンスは 60%)
ポリシー・コンプライアンス KPI (ビジネス・サービス)	<ul style="list-style-type: none"> • data_origin - KPI のソース (Configuration Manager) • description - KPI 値に関する詳細情報を提供するシステム生成の説明。 • kpi_status - この KPI のステータス (ビジネス・サービスのすべての複合 CI のポリシー・コンプライアンスが 100% の場合, [OK], それ以外の場合, [警告]) • kpi_unit_of_measure - 測定単位 (%) • kpi_value - ビジネス・サービスレベルの範囲内の CI のポリシー・コンプライアンスの割合 (たとえば, ビジネス・サービスに 5 つのうち 3 つの準拠 CI がある場合, 60% 準拠)
認証ステータス KPI (複合 CI)	<ul style="list-style-type: none"> • data_origin - KPI のソース (Configuration Manager) • description - KPI 値に関する詳細情報を提供するシステム生成の説明。 • kpi_name - KPI の名前 (authorization_status) • kpi_status - この KPI のステータス (複合 CI の認証ステータスが同一の場合, [OK], それ以外の場合, [警告]) • kpi_value - 割合としてのこの KPI の値 (0 - 未認証, 100 - 認証済み)
認証ステータス KPI (ビジネス・サービス)	<ul style="list-style-type: none"> • data_origin - KPI のソース (Configuration Manager) • description - KPI 値に関する詳細情報を提供するシステム生成の説明。 • kpi_status - この KPI のステータス (ビジネス・サービスのすべての複合 CI の認証ステータスが同一の場合, [OK], それ以外の場合, [警告]) • kpi_value - 割合としてのこの KPI の値 (0 ~ 100)

CI が複数のビューの範囲内にある場合、ポリシー・コンプライアンスまたは認証ステータスの最新の結果が取得されます。

KPI の連合に関する詳細情報については、次の項を参照してください。

- 「ビジネス・サービス・ビューの特定」(39ページ)
- 「サポートされている TQL クエリ - KPI」(40ページ)
- 「レポートの作成」(40ページ)
- 「BSM での KPI の使用」(40ページ)

ビジネス・サービス・ビューの特定

ビジネス・サービスは、CI タイプとして UCMDDB でモデリングされます。目的は、ビジネス・サービスに関連付けられている構成全体（またはその一部）を含むビューを持つビジネス・サービスを特定し、集計的ポリシー・コンプライアンスと認証情報を提供することです。

UCMDDB でこれを行う標準的な方法は、ビジネス・サービスCIを作成して、そのビジネス・アプリケーションに接続することです。その際、各ビジネス・アプリケーションがアプリケーション（通常、Web サービスやDB スキーマなどのソフトウェア）によって特定され、ビジネス・アプリケーション専用のリソースに接続される何らかの「アンカー」構成をポイントするようにします。このアンカーが存在すると、パースペクティブ（ハードウェア、仮想化、ソフトウェアなど）を適用し、ビジネス・サービスに関連付けられている構成を表示できます。

この構造に従ってビジネス・サービスを特定するのが最も一般的ですが、次のようにより全般的なアプローチも使用できます。

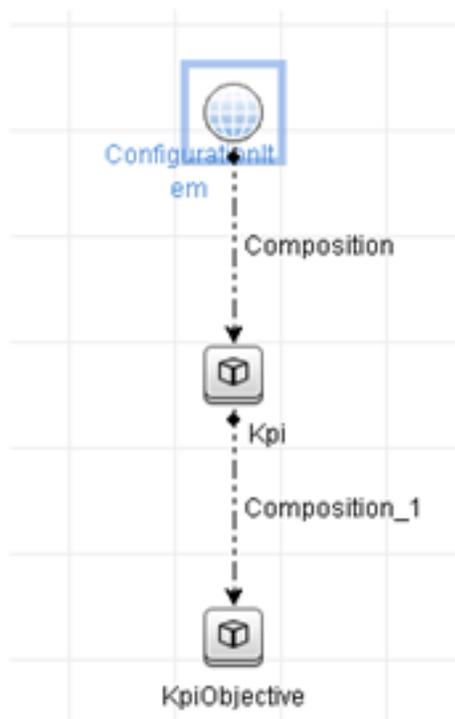
1. 必要なCIを含むすべてのビューを探します。
ビジネス・サービスに対して標準的な方法で作成された任意のビューが含まれますが、その他のケースに一致する可能性があります。
2. これらのビューに複数のビジネス・サービスが含まれているかどうかを確認します。複数のビジネス・サービスが含まれている場合、これらのビューはビジネス・サービスで特定されません。
考えられるケースを絞り込みます。同じビューに複数のビジネス・サービスがあると、1つのビジネス・サービスだけに関連付けられている構成を記述できないためです。
3. ビジネス・サービスで複数の条件が特定される場合、次のように構成を結合します。
複数のビューのそれぞれによってビジネス・サービスの構成に関する何らかのパースペクティブが与えられるため、これらの構成を結合することで、サービスの KPI に関する完全な情報を指定できます。

ビジネス・サービスに対しては、次の2つのタイプの KPI を作成できます。

- ポリシー・コンプライアンス KPI: ビジネス・サービスで特定されるビューの範囲の構成全体で、ポリシー結果の集計として計算されます。ポリシー集計は、ビジネス・サービスの各CIの集計済みポリシー・ステータスで実行されます。
- 認証ステータス KPI: ビジネス・サービスで特定されるビューの範囲の構成全体で、認証ステータスの集計として計算されます。

サポートされている TQL クエリ - KPI

次の図は、UCMDb での KPI のモデリング方法を示します。



レポートの作成

次の定義済みの KPI レポートが用意されています。

- Business Service KPI
- Unix KPI
- Unix with Oracle KPI
- Windows KPI

レポートの作成の詳細については、[「UCMDb での連合ワークフロー」 \(41ページ\)](#)を参照してください。

BSM での KPI の使用

UCMDb で連合機能を使用すると、Configuration Manager で連合されたデータをオプションで他のアプリケーションで使用できます。BSM バージョン 9.10 以降には、このような統合機能が用意されており、Configuration Manager で連合された KPI を BSM で表示できます。統合のセットアップ方法の詳細については、[「HP Business Service Management での KPI の使用」 \(49ページ\)](#)を参照してください。

統合が適切にセットアップされると、MyBSM で CI 用の KPI を使用できます。連合経由で BSM に入力された KPI は、KPI コンポーネントの [外部 KPI] 領域に表示されます。詳細については、「サービス状況の使用」の KPI コンポーネントのユーザ・インタフェースに関する項を参照してください。BSM でコンポーネントを表示する方法の一般情報については、「サービス状況の使用」の「サービス状況でのページとコンポーネントの開き方」を参照してください。

UCMDB での連合ワークフロー

このワークフローでは、Configuration Manager からの連合データを使用するために、UCMDB で実行する必要がある手順の簡単な概要を示します。

本項の内容

- [「前提条件」 \(41ページ\)](#)
- [「ポリシー・コンプライアンス・データを連合するための統合ポイントの作成」 \(41ページ\)](#)
- [「KPI データを連合するための統合ポイントの作成」 \(43ページ\)](#)
- [「ビューまたはカスタム TQL クエリでの CI に基づくポリシー・レポートの作成」 \(44ページ\)](#)
- [「ビューまたはカスタム TQL クエリでの CI に基づくサマリ・ポリシー・レポートの作成」 \(46ページ\)](#)
- [「KPI レポートの作成」 \(48ページ\)](#)
- [「HP Business Service Management での KPI の使用」 \(49ページ\)](#)

前提条件

UCMDB with HP Discovery and Integration Content Pack 12.00 をインストールしていることを確認してください。

ポリシー・コンプライアンス・データを連合するための統合ポイントの作成

1. UCMDB で、データ・フロー管理モジュールにアクセスします。
2.  をクリックして、新しい統合ポイントを作成します。
3. 次のアダプタ・プロパティを設定します。

UI 要素	詳細
アダプタ	<p> をクリックして、[CM New Policy Adapter] を選択します。</p> <p>注: インストーラが [CM New Policy Adapter] を使用したデータを連合させるための統合ポイントを作成するため、以前に作成された [CM Policy Adapter] を使用する統合ポイントは削除する必要があります。何らかの理由 (UCMDB Integration サーバの問題など) によりインストーラによって新しい統合ポイントが作成</p>

UI 要素	詳細
	<p>されない場合は、統合ポイントを手動で作成する必要があります。</p>
<p>その他のプローブ</p>	<p>統合を実行する際に使用する、追加のプローブを選択できます。  をクリックして、追加のプローブを選択します。</p> <p>統合の実行時、追加の Data Flow Probe が定義されている場合、サーバは、最も可用性の高いプローブを使用する。</p>
<p>Configuration Manager アプリケーションの URL</p>	<p>Configuration Manager サーバの URL が表示されます。</p> <p>注: ルート・コンテキストを <code>http://<IP アドレス>:<ポート>//cnc</code> から <code>http://<IP アドレス>:<ポート>/<コンテキスト>/cnc</code> に変更した場合、統合ポイントの構成時にこのルート・コンテキストが含まれている URL を指定する必要があります。</p>
<p>資格情報 ID</p>	<p>次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none">  をクリックします。 [Generic Protocol] を選択し、[OK] をクリックします。  をクリックして、資格情報を追加し、Configuration Manager に接続します。管理、認証、および UI へのアクセスの権限を持つユーザの資格情報を入力します。 完了したら [OK] をクリックします。
<p>Data Flow Probe</p>	<p>統合ジョブの実行に使用する Data Flow Probe の名前。</p>
<p>統合の説明</p>	<p>新しい統合ポイントの説明を入力します。</p>
<p>統合名</p>	<p>新しい統合ポイントの名前を入力します。</p> <p>注: 名前は、45 文字を超えないようにします。</p>
<p>統合はアクティブ化されています</p>	<p>このチェック・ボックスを選択すると、アクティブな統合ポイントが作成されます。インテグレーションを非アクティブ化する場合（リモート・マシンに実際に接続せずに統合ポイントを設定するときなど）は、このチェック・ボックスをクリアします。</p> <p>注: 新しい統合ポイントは標準設定で非アクティブに設定されません。</p>

4. [テスト接続] をクリックして、統合ポイントを正しく構成したことを確認します。テストに失敗した場合は、「[トラブルシューティングおよび制限事項 - UCMDB へのデータ統合](#)」(50 ページ)を参照してください。
5. [OK] をクリックして統合ポイントを保存します。
6. サポートおよび選択されている CI タイプ・ツリーで、Policy および PolicyResult の CI タイプを選択します。
7.  をクリックして統合ポイントを保存します。

統合ポイントの作成の詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の "Integration Studio" on page 1を参照してください。

KPI データを連合するための統合ポイントの作成

1. UCMDB で、データ・フロー管理モジュールにアクセスします。
2.  をクリックして、新しい統合ポイントを作成します。
3. 次のアダプタ・プロパティを設定します。

UI 要素	説明
アダプタ	 をクリックして、[CM KPI Adapter] を選択します。
その他のプローブ	統合を実行する際に使用する、追加のプローブを選択できます。  をクリックして、追加のプローブを選択します。 統合の実行時、追加の Data Flow Probe が定義されている場合、サーバは、最も可用性の高いプローブを使用する。
Configuration Manager アプリケーションの URL	Configuration Manager サーバの URL が表示されます。 注: ルート・コンテキストを <code>http://<IP アドレス>:<ポート>//cnc</code> から <code>http://<IP アドレス>:<ポート>/<コンテキスト>/cnc</code> に変更した場合、統合ポイントの構成時にこのルート・コンテキストが含まれている URL を指定する必要があります。

UI 要素	説明
資格情報 ID	<p>次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none">  をクリックします。 [Generic Protocol] を選択し, [OK] をクリックします。  をクリックして, 資格情報を追加し, Configuration Manager に接続します。管理, 認証, および UI へのアクセスの権限を持つユーザの資格情報を入力します。 完了したら [OK] をクリックします。
Data Flow Probe	統合ジョブの実行に使用する Data Flow Probe の名前。
統合の説明	新しい統合ポイントの説明を入力します。
統合名	新しい統合ポイントの名前を入力します。
統合はアクティブ化されています	<p>このチェック・ボックスを選択すると, アクティブな統合ポイントが作成されます。インテグレーションを非アクティブ化する場合 (リモート・マシンに実際に接続せずに統合ポイントを設定するときなど) は, このチェック・ボックスをクリアします。</p> <p>注: 新しい統合ポイントは標準設定で非アクティブに設定されま</p>

- [テスト接続] をクリックして, 統合ポイントを正しく構成したことを確認します。
- [OK] をクリックして統合ポイントを保存します。
- サポートおよび選択されている CI タイプ・ツリーで, KPI および KPIObjective の CI タイプを選択します。
-  をクリックして統合ポイントを保存します。

統合ポイントの作成の詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の "Integration Studio" on page 1を参照してください。

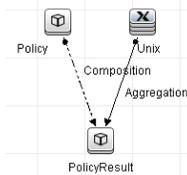
ビューまたはカスタム TQL クエリでの CI に基づくポリシー・レポートの作成

- 統合ポイントが存在しない場合は, 「[ポリシー・コンプライアンス・データを連合するための統合ポイントの作成](#)」(41ページ) の説明に従って, 統合ポイントを作成します。
- UCMDB で, カスタム TQL クエリを使用して新しいビューを作成するか, 既存のビューをコピーします。

注: カスタム TQL クエリを使用する場合, 連合機能使用時のデータ容量の制限を必ず考慮してください。この制限を考慮するには, TQL クエリで CI をフィルタする必要があります。

詳細については、「[トラブルシューティングおよび制限事項 - UCMDB へのデータ統合](#) (50ページ)を参照してください。

3. ポリシーに関連付ける各構成アイテムについて、それぞれ複合と集計のリンクを使用して、Policy CI タイプと選択した CI を PolicyResult CI タイプにアタッチします。関連付けられているポリシー情報がない CI の結果も取得する場合、カーディナリティは 0..* である必要があります。例を次に示します。



4. ポリシーとポリシー結果データを提供するデータ・ソースとして定義した Configuration Manager 統合ポイントを指定します。
5. 階層を設定します。例を次に示します。

階層メソッド: 手動 ルールベース



6. Policy CI タイプのプロパティをレポート・レイアウトに追加します。例を次に示します。

Policy Compliance

Unix

PolicyResult

Policy

属性:

- Allow CI Update
- CI Type
- Consumer Tenants
- Container
- Create Time
- Created By
- Description
- Enable Aging
- Global Id
- Is Candidate For Deletion
- Last Access Time
- LastModifiedTime
- Name
- Note
- Origin

レポートのレイアウト:

- Display Label
- PolicyDefinedBy

7. PolicyResult CI タイプのプロパティをレポート・レイアウトに追加します。例を次に示します。

Policy Compliance

Unix

PolicyResult

Policy

属性:

- Allow CI Update
- CI Type
- ComplianceStatus
- Consumer Tenants
- Container
- Create Time
- Created By
- Description
- Enable Aging
- Global Id
- Is Candidate For Deletion
- Last Access Time
- LastModifiedTime
- Name
- Note
- Origin
- Owner Tenant

レポートのレイアウト:

- Display Label
- ComplianceLevel

8. 必要に応じて、これらのレポートを定期的に作成するようにスケジュールできます。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』を参照してください。

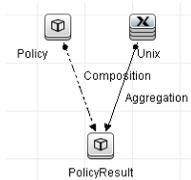
レポートの作成の詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』の"Reports" on page 1 を参照してください。

ビューまたはカスタム TQL クエリでの CI に基づくサマリ・ポリシー・レポートの作成

1. 統合ポイントが存在しない場合は、「[ポリシー・コンプライアンス・データを連合するための統合ポイントの作成](#)」(41 ページ) の説明に従って、統合ポイントを作成します。
2. UCMDDB で、新しいビューを作成するか、既存のビューをコピーします。

注: カスタム TQL クエリを使用する場合、連合機能使用時のデータ容量の制限を必ず考慮してください。この制限を考慮するには、TQL クエリで CI をフィルタする必要があります。詳細については、「[トラブルシューティングおよび制限事項 - UCMDDB へのデータ統合](#)」(50 ページ) を参照してください。

3. ポリシーに関連付ける各構成アイテムについて、それぞれ複合と集計のリンクを使用して、Policy CI タイプと選択した CI を PolicyResult CI タイプにアタッチします。関連付けられているポリシー情報がない CI の結果も取得する場合、カーディナリティは 0..* である必要があります。例を次に示します。

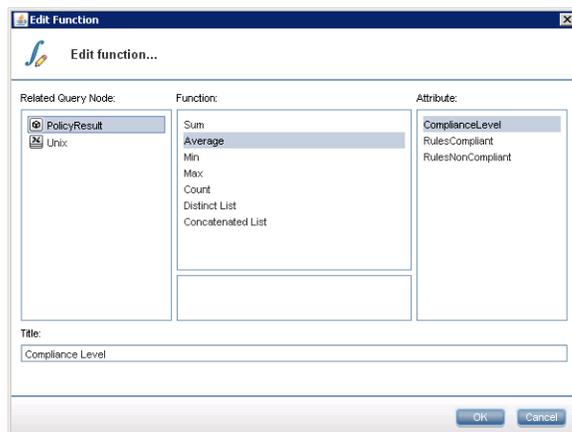


4. ポリシーとポリシー結果データを提供するデータ・ソースとして定義した Configuration Manager 統合ポイントを指定します。
5. 階層を設定します。例を次に示します。

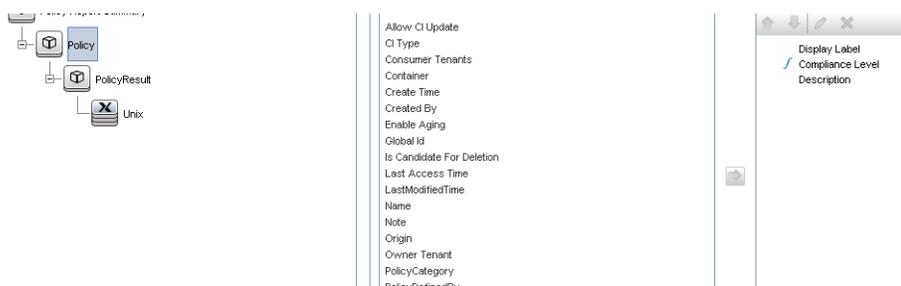
階層メソッド: 手動 ルールベース



6. Policy CI タイプの集計関数を作成します。例を次に示します。



7. Policy CI タイプのプロパティをレポート・レイアウトに追加します。例を次に示します。



8. ConfigurationItem CI タイプのプロパティをレポート・レイアウトに追加します。例を次に示します。



9. レポート形式を棒グラフに変更します。例を次に示します。



10. 必要に応じて、これらのレポートを定期的に作成するようにスケジュールできます。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』を参照してください。

レポートの作成の詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』の "Reports" on page 1 を参照してください。

KPI レポートの作成

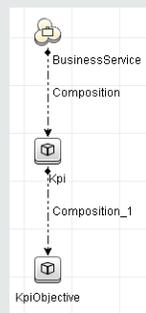
ビュー、カスタム TQL クエリ、またはビジネス・サービスでの CI に基づいて KPI レポートを作成できます。

1. 統合ポイントが存在しない場合は、「[ポリシー・コンプライアンス・データを連合するための統合ポイントの作成](#)」(41 ページ) の説明に従って、統合ポイントを作成します。
2. UCMDB で、カスタム TQL クエリに基づいて新しいビューを作成するか、既存のビューをコピーします。

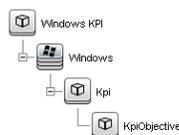
注: カスタム TQL クエリを使用する場合、連合機能使用時のデータ容量の制限を必ず考慮してください。この制限を考慮するには、TQL クエリで CI をフィルタする必要があります。詳細については、[トラブルシューティングおよび制限事項](#)を参照してください。

3. ポリシーに関連付ける各構成アイテムについて、複合リンクを使用して、選択した CI を Kpi CI タイプに、Kpi CI タイプを KpiObjective CI タイプにアタッチします。関連付けられている KPI 情報がない CI の結果も取得する場合、カーディナリティは 0..* である必要があります。

注: ビジネス・サービス・レポートを作成する場合、TQL クエリの作成時に BusinessService CI タイプを選択します。



4. ポリシーとポリシー結果データを提供するデータ・ソースとして定義した Configuration Manager 統合ポイントを指定します。
5. 階層を設定します。例を次に示します。



6. KpiObjective CI タイプのプロパティをレポート・レイアウトに追加します。例を次に示します。



7. 必要に応じて、これらのレポートを定期的に作成するようにスケジュールできます。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』を参照してください。

レポートの作成の詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』の "Reports" on page 1 を参照してください。

HP Business Service Management での KPI の使用

1. 次の操作を実行したことを確認します。

- UC MDB で CM KPI 統合ポイントが構成され、正しく動作していること。
- BSM バージョン 9.10 以降をインストールし、DDM がアクティブ化され、BSM を使用するよう構成されていること。

2. BSM で、**【管理】 > 【RTSM 管理】 > 【データ フロー管理】 > 【Integration Studio】** を選択します。

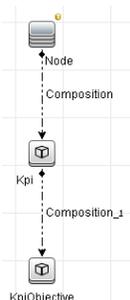
3. **【CMS から RTSM】** 統合ポイントを編集します。必要な UC MDB 設定（ホスト、IP アドレス、資格情報、プローブ設定）を設定します。

4. **【テスト接続】** をクリックし、**【適用】** をクリックします。

5. **【入力】** タブで、関連するすべての統合ジョブをアクティブ化します。

6. **【連合】** タブで、**【KPI】** と **【KPI の目的】** を選択し、 をクリックして、変更を保存します。

Configuration Manager からの KPI データが BSM で取得されたことを検証するには、RTSM で TQL クエリを実行します。例を次に示します。



同期されている CI タイプを選択し、Kpi と KpiObjective の CI タイプのデータ・ソースを **【CMS から RTSM】** に設定する必要があります。

トラブルシューティングおよび制限事項 – UCMDB へのデータ統合

- 連合は実際のステータスの CI でのみ動作します。したがって、次のようになります。
 - ポリシー・コンプライアンスは、実際のステータスの CI にのみ連合されます。
 - 実際のステータスから削除された CI の認証ステータスは表示されません。
- 連合できる CI の最大数は構成可能です。この数を変更するには、UCMDB の [インフラストラクチャ設定マネージャ] で [フェデレートするオブジェクトの最大数] 設定の値を編集します。設定の変更の詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「インフラストラクチャ設定マネージャ」を参照してください。Configuration Manager で大きなビューを有効にしている場合、CI の推奨される数は 20,000 以下となります。大きなビューのサポートの有効化の詳細については、インタラクティブ形式の『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』の大容量計画に関する項を参照してください。
- テスト接続に失敗する場合、詳細については、[詳細] をクリックして、スタック・トレースの最初のエラーを確認してください。
- 複数のビューで CI を管理できるため、同じポリシーを複数のビューの同一 CI に適用できます。また、各種ビューで異なる類似性グループを使用できるため、同じポリシーで異なる類似性の結果を得ることができます。

Configuration Manager での作業

第4章: クイック値

Configuration Manager には、次のようなビューとポリシーの機能を容易に利用するためのウィザードが用意されています。

- インベントリ・ビュー・ウィザードでは、UCMDB を使用せずに単純なビューを作成し、それに関するレポートを作成することができます。詳細については、「[インベントリ・ビュー・ウィザード](#)」(52ページ)を参照してください。
- データ品質ウィザードでは、ベースライン・ポリシーとトポロジ・ポリシーの要素を組み合わせて1つのポリシーにすることによってUCMDB データの整合性を確実なものにする、ポリシーを作成できます。詳細については、「[データ品質ポリシー・ウィザード](#)」(54ページ)を参照してください。
- 類似性ポリシー・ウィザードでは、単純な類似性ポリシーを作成できます。類似性ポリシーは、CIの集合に対して類似性と構成を強制するものです。詳細については、「[類似性ポリシー・ウィザード](#)」(58ページ)を参照してください。

これらのウィザードには、ホーム・ページのリンクからアクセスできます。

インベントリ・ビュー・ウィザード

このウィザードでは、簡単なUCMDB ビューを作成して Configuration Manager で管理します。

このウィザードを使用してビューを作成すると、UCMDB に直接作成された場合と同様のデフォルト設定で新しいビューがUCMDB に保存されます。さらに、同じ名前の管理ビューが Configuration Manager に保存され、計算されます。

利用方法	[ホーム] ページで、 [新規インベントリ ビューの作成] リンクをクリックします。
ウィザード・マップ	「[ビュー定義] ページ 」 > 「[ビュー詳細] ページ 」 > 「[レポート] ページ 」
関連情報	「ビューの概要」 (165ページ)

[ビュー定義] ページ

このページでは、作成中のビューのメインCIタイプを指定します。さらに、フィルターを使用してこのメインCIタイプのCIのサブセットを取得したり、メインCIタイプを別のCIタイプに関連付けたりすることもできます。たとえば、Oracle データベースに接続されたUNIX マシンのグループを含むビューを作成したいとします。この場合、このビューのメインCIタイプはUNIX であり、名前パターンでフィルタすることで特定のグループに属するUNIX マシンだけを抽出し、関連CIタイプとして Oracle データベースを選択します。

ウィザード・マップ	<p>「インベントリ・ビュー・ウィザード」には次のページが含まれていません。</p> <p>「[ビュー定義] ページ」 > 「[ビュー詳細] ページ」 > 「[レポート] ページ」</p>
-----------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
ビューのメイン CI タイプ	<p> ボタンをクリックし、[CI タイプの選択] ダイアログ・ボックスを開きます。CI タイプ・ツリーから CI タイプを選択し、[OK] をクリックします。</p> <p>ビューを作成するために複合 CI のみが表示されます。</p>
メイン CI タイプの属性条件	<p>(任意指定)  アイコンをクリックします。メイン CI タイプのフィルタに使用する属性を属性のリストで指定し、[OK] をクリックします。</p> <p>属性を選択できるのは、ビューのメイン CI タイプとして選択されている CI タイプの場合だけです。</p> <p>注: 属性条件の一部としてワイルドカードを使用するには、* (Configuration Manager で使用) でなく % (UCMDB で使用) を使用します。</p>
関連する CI タイプ	<p> ボタンをクリックし、[CI タイプの選択] ダイアログ・ボックスを開きます。CI タイプ・ツリーから追加の関連 CI タイプを選択し、[OK] をクリックします。</p> <p>注: 選択する CI タイプは、メイン CI タイプと何らかの関係を持つ必要があります。</p>

[ビュー詳細] ページ

このページでは、作成するビューに関する詳細を入力します。

ウィザード・マップ	<p>「インベントリ・ビュー・ウィザード」には次のページが含まれていません。</p> <p>「[ビュー定義] ページ」 > 「[ビュー詳細] ページ」 > 「[レポート] ページ」</p>
-----------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
名前	ビューの名前を入力します。
詳細	(任意指定) ビューの説明を入力します。

[レポート] ページ

このページでは、ビューについて受信する日次レポートをオプションで指定できます。

重要情報	レポートを受信するために、管理者は電子メールを受信できるように設定する必要があります。詳細については、 「電子メール通知の構成」(234ページ) を参照してください。
ウィザード・マップ	「 インベントリ・ビュー・ウィザード 」には次のページが含まれていません。 「 [ビュー定義] ページ 」 > 「 [ビュー詳細] ページ 」 > 「 [レポート] ページ 」
関連情報	「 レポート 」(198ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	詳細
<レポート>	(任意指定) 次の日次レポートのどちらかまたは両方を選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> 検出されたすべての変更 構成比較

データ品質ポリシー・ウィザード

このウィザードでは、データ品質ポリシーを作成できます。データ品質ポリシーは、ベースライン・ポリシーとトポロジ・ポリシーの要素を組み合わせることで1つのポリシーにすることによって、UCMDBデータの整合性を確実なものにするために役立ちます。

利用方法	[ホーム] ページで、 [データの品質を追跡するポリシーの作成] リンクをクリックします。
重要情報	CIタイプを選択して、ベースライン・ポリシーと同様に、データとともにポピュレートされる必要があるそのCIタイプとコンポーネントCIタイプの属性を定義します。次に、トポロジ・ポリシーと同様に、関連するCIタイプを選択します。元のタイプのCIは、ポリシーが適合する状態になるよう、このタイプのCIに関連付けられる必要があります。関連するCI

	が選択されていない場合、結果として生じるポリシーはベースライン・ポリシーのみになります。
ウィザード・マップ	「[ビューの選択] ページ」 > 「[検証のためのCIタイプの選択] ページ」 > 「[必要な属性の選択] ページ」 > 「[必要な関連CIタイプの選択] ページ」 > 「[ポリシー詳細] ページ」
関連情報	「ポリシーの概要」 (175ページ)

「[ビューの選択] ページ

このページでは、ポリシーを強制するCIが含まれているビューを選択します。

ウィザード・マップ	「データ品質ポリシー・ウィザード」には次のページが含まれています。 「[ビューの選択] ページ」 > 「[検証のためのCIタイプの選択] ページ」 > 「[必要な属性の選択] ページ」 > 「[必要な関連CIタイプの選択] ページ」 > 「[ポリシー詳細] ページ」
-----------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
ビュー	<p> ボタンをクリックし、「[ビューの選択] ダイアログ・ボックスを開きます。ビューをダブルクリックして選択するか、ビューを選択して 「OK」 をクリックします。</p> <p> をクリックすると、選択した値がクリアされます。</p>

「[検証のためのCIタイプの選択] ページ

このページでは、ポリシーが適用される対象となるCIタイプを選択します。さらに、フィルタを追加して、ポリシーを指定したCIタイプの特定のサブセットに適用できます（たとえば、特定の命名規則があるすべてのWindowsマシン）。

ウィザード・マップ	「データ品質ポリシー・ウィザード」には次のページが含まれています。 「[ビューの選択] ページ」 > 「[検証のためのCIタイプの選択] ページ」 > 「[必要な属性の選択] ページ」 > 「[必要な関連CIタイプの選択] ページ」 > 「[ポリシー詳細] ページ」
-----------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
CI タイプ	 ボタンをクリックし、 「CI タイプの選択」 ダイアログ・ボックスを開き

UI 要素	詳細
	<p>ます。CI タイプ・ツリーから必要な CI タイプを選択し、[OK] をクリックします。</p> <p>この CI タイプは、「「[ビューの選択] ページ」 (55ページ)」で選択したビューに存在する必要があります。</p> <p> をクリックすると、選択した値がクリアされます。</p>
属性条件でフィルタ	<p>(任意指定)  ボタンをクリックすると、[フィルタのベースラインを指定] ダイアログ・ボックスが開きます。CI タイプ・インスタンスのフィルタに使用する属性を選択し、[OK] をクリックします。</p> <p> をクリックすると、選択した値がクリアされます。</p>

[必要な属性の選択] ページ

このページでは、入力が必要な CI タイプの属性を指定します。

ウィザード・マップ	<p>「データ品質ポリシー・ウィザード」 には次のページが含まれています。</p> <p>「[ビューの選択] ページ」 > 「[検証のための CI タイプの選択] ページ」 > 「[必要な属性の選択] ページ」 > 「[必要な関連 CI タイプの選択] ページ」 > 「[ポリシー詳細] ページ」</p>
-----------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
属性名	<p>データとともにポピュレートされる必要がある属性のチェック・ボックスを選択します。</p> <p>注: データ品質ポリシーを作成する目的においては、Number または String のタイプの属性のみを選択できます。</p>
CI タイプ	<p>選択した CI タイプを表示します。 をクリックして、追加の CI タイプ (複合 CI タイプのコンポーネント CI タイプ) を追加します。CI タイプを選択し、その属性を表示します。</p> <p> をクリックすると、選択した CI タイプが (コンポーネント CI タイプに対してのみ) 削除されます。</p>

[必要な関連 CI タイプの選択] ページ

このページでは、ポリシーについて関連する CI タイプを選択します。元の CI タイプの CI は、ポリシーが適合する状態になるよう、このタイプの CI に関連付けられる必要があります。

重要情報	このウィザード・ページは省略可能です。UCMDB の Configuration Manager フォルダに TQL クエリを作成する権限がない場合、このページは無効になります。
ウィザード・マップ	「データ品質ポリシー・ウィザード」には次のページが含まれています。 「[ビューの選択] ページ」 > 「[検証のための CI タイプの選択] ページ」 > 「[必要な属性の選択] ページ」 > 「 [必要な関連 CI タイプの選択] ページ 」 > 「[ポリシー詳細] ページ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
関連する CI タイプ	 ボタンをクリックし、[CI タイプの選択] ダイアログ・ボックスを開きます。CI タイプ・ツリーから必要な CI タイプを選択し、[OK] をクリックします。  をクリックすると、選択した値がクリアされます。

[ポリシー詳細] ページ

このページでは、データ品質ポリシーの名前と説明を入力します。

重要情報	ウィザードが終了すると、2つの新しいポリシーが次の名前で作成されます。 <ul style="list-style-type: none">・ <ポリシー名> - ベースライン・ポリシー・ <ポリシー名> - トポロジ・ポリシー <ポリシー名>は、[名前] フィールドに入力した名前になります。 関連する CI が見つからなかった場合は、ベースライン・ポリシーのみが作成され、ポリシー名は [名前] フィールドに入力したものになります。
ウィザード・マップ	「データ品質ポリシー・ウィザード」には次のページが含まれています。 「[ビューの選択] ページ」 > 「[検証のための CI タイプの選択] ページ」 > 「[必要な属性の選択] ページ」 > 「 [必要な関連 CI タイプの選択] ページ 」 > 「 [ポリシー詳細] ページ 」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
詳細	(任意指定) ポリシーの説明を入力します。
名前	ポリシーの名前を入力します。

類似性ポリシー・ウィザード

このウィザードでは、グループ化オプションなしで簡単な新しい類似性ポリシーを作成します。グループ化パターンに基づく類似性ポリシーの作成の詳細については、「[類似性ポリシーの定義](#)」(178 ページ)を参照してください。

たとえば、Windows コンピュータのラボが含まれているビューを管理している場合を考えてみましょう。すべてまたは一部の Windows コンピュータで、オペレーティング・システムのバージョンとメモリ量を一致させたいとします。類似性ポリシー・ウィザードで、そのようなポリシーを簡単に作成できます。

利用方法	[ホーム] ページで、 データの構成を標準化するためのポリシーの作成リンク をクリックします。
ウィザード・マップ	「[ビューの選択] ページ」 > 「[CIタイプの選択] ページ」 > 「[定義] ページ」 > 「[ポリシー詳細] ページ」
関連情報	「ポリシーの概要」 (175ページ)

[ビューの選択] ページ

このページでは、ポリシーを強制する CI が含まれているビューを選択します。

ウィザード・マップ	「類似性ポリシー・ウィザード」 には次のページが含まれています。 「[ビューの選択] ページ」 > 「[CIタイプの選択] ページ」 > 「[定義] ページ」 > 「[ポリシー詳細] ページ」
-----------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
ビュー	 ボタンをクリックし、 [ビューの選択] ダイアログ・ボックスを開きます。ダブルクリックして選択します。

[CIタイプの選択] ページ

このページでは、類似性をチェックするCIタイプを選択します。さらに、フィルタを追加して、ポリシーを指定したCIタイプの特定のサブセットに適用できます（たとえば、特定の命名規則があるすべての Windows マシン）。

ウィザード・マップ	「類似性ポリシー・ウィザード」には次のページが含まれています。 「[ビューの選択] ページ」 > 「[CIタイプの選択] ページ」 > 「[定義] ページ」 > 「[ポリシー詳細] ページ」
-----------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
CI タイプ	 ボタンをクリックし、[CIタイプの選択] ダイアログ・ボックスを開きます。類似性をチェックするCIタイプをCIタイプのツリーから選択し、[OK] をクリックします。 このCIタイプは、「[ビューの選択] ページ」(58ページ)で選択したビューに存在する必要があります。
属性条件でフィルタ	(任意指定)  ボタンをクリックすると、[フィルタのベースラインを指定] ダイアログ・ボックスが開きます。CIタイプ・インスタンスのフィルタに使用する属性を選択し、[OK] をクリックします。

[定義] ページ

このページでは、ポリシーで比較されるコンポーネントおよび属性を指定します。すなわち、この類似性ポリシーの範囲内にあるすべてのCIは、ここで選択されたコンポーネントおよび属性の値が一致する必要があります。

ウィザード・マップ	「類似性ポリシー・ウィザード」には次のページが含まれています。 「[ビューの選択] ページ」 > 「[CIタイプの選択] ページ」 > 「[定義] ページ」 > 「[ポリシー詳細] ページ」
-----------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
定義	類似性について比較されるコンポーネントおよび属性を指定します。

[ポリシー詳細] ページ

このページでは、類似性ポリシーの名前と説明を入力します。

ウィザード・マップ	「 類似性ポリシー・ウィザード 」には次のページが含まれています。 「 [ビューの選択] ページ 」 > 「 [CIタイプの選択] ページ 」 > 「 [定義] ページ 」 > 「 [ポリシー詳細] ページ 」
------------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
詳細	(任意指定) ポリシーの説明を入力します。
名前	ポリシーの名前を入力します。

第5章: KPI サマリ

本章の内容

- [KPI サマリの概要](#) 61
- [KPI サマリのユーザ・インタフェース](#) 61

KPI サマリの概要

KPI 統計ページでは、Configuration Manager が監視する主要なデータをダッシュボードで表示します。このページでは、認証ステータス別の管理 CI の数、ポリシー・ステータス別の CI の数、認証済みの変更の数、非準拠 CI の数などのデータについて、時間経過に伴う変化をグラフで表示します。

注: 表示できるのは、ビュー権限を持っているビューの CI のみです。

KPI サマリのユーザ・インタフェース

本項の内容

- [\[KPI サマリ\] ページ](#) 61

[KPI サマリ] ページ

このページでは、管理ビューに関するデータを概要で示します。

注: すべての表示枠で、ユーザがビュー権限を持っているビューの CI のみが表示されます。

利用方法	[統計] > [KPI サマリ] を選択します。
重要情報	<p>[管理 CI] 表示枠には、選択した期間に含まれる認証済み CI と未認証 CI の数が表示されます。</p> <p>[ポリシー サマリ] 表示枠には、ポリシーに適合している CI と違反している CI の数がポリシーとステータスごとに表示されます。</p> <p>[認証済みの変更] 表示枠には、選択した期間に含まれる認証済みの変更の数が表示されます。</p> <p>[非準拠 CI] 表示枠には、ベースライン・ポリシーに適合する CI と違反</p>

	<p>する CI の合計数が表示されます。</p> <p>注: 表示枠のレイアウトは、ドラッグして変更できます。</p>
関連情報	「KPI サマリの概要」(61ページ)

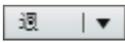
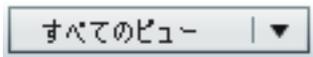
左の表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	お気に入りビューのみを表示する: すべてのビューのデータを表示するか、お気に入りビューのデータのみを表示するかが切り替わります。
	更新: 表示データを更新します。
新規ポリシー違反	CI の合計数に対するポリシー違反の数を、管理ビューごとに一覧表示します。
認証待ち	CI の合計数に対する未認証 CI の数を、管理ビューごとに一覧表示します。

[認証済みの変更] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
	グラフ表示する期間を選択します。次のオプションを選択できません。 <ul style="list-style-type: none"> 週 月 3 か月 年
	グラフで表示するビュー (1 つまたは複数) を選択します。
	凡例: グラフの凡例を表示します。
	表示の変更: 表示をテーブル形式とグラフ形式との間で切り替えます。

UI 要素	説明
<グラフ>	選択した期間に含まれる認証済みの変更の数を表示します。

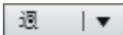
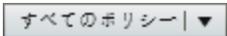
[管理 CI] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	グラフ表示する期間を選択します。次のオプションを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> 週 月 3 か月 年
	凡例 : グラフの凡例を表示します。
	表示の変更 : 表示をテーブル形式とグラフ形式との間で切り替えます。
<グラフ>	選択した期間に含まれる認証済み CI と未認証 CI の数を表示します。緑色の領域は認証済み CI, 青色の領域は未認証 CI を示します。

[非準拠 CI] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	詳細
	グラフ表示する期間を選択します。次のオプションを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> 週 月 3 か月 年
	グラフで表示するビュー（1つまたは複数）を選択します。
	グラフで表示するポリシーを選択します。

UI 要素	詳細
<グラフ>	すべてのベースライン・ポリシーに適合している CI (準拠 CI) の数は緑色のバー, ベースライン・ポリシーに違反している CI (非準拠 CI) は赤色のバーで表示されます。

[ポリシー サマリ] 表示枠

この表示枠では, ポリシーの適合レベルをポリシーごとにサマリで表示します。詳細については, 「[\[ポリシー サマリ\] ページ](#)」(69ページ)を参照してください。

第6章: ビュー・サマリ

本章の内容

- ビュー・サマリの概要 65
- 自動ステータス遷移のステータスのレビュー 65
- ビュー・サマリのユーザ・インタフェース 66

ビュー・サマリの概要

ビュー・サマリでは、すべての管理ビューのサマリ情報として、認証レベル、ポリシー・ステータス、最終認証日時、自動ステータス遷移のステータスなどが表示されます。このページは、管理ビューにアクセスするポータルであり、レビュー/認証モジュールにドリルダウンできます。また、データをレポート形式でエクスポートすることもできます。

ポリシー・ステータス情報では、ビューのポリシー適合レベルを、実際のステータスと認証済みのステータスの両方で追跡します。ポリシーに違反しているビューについては、ドリルダウンによって詳細情報（違反CIとポリシー）を参照できます。外部ポリシーは認証済みのステータスの統計に含まれていないため、認証済みのステータスのCIが含まれている外部ポリシーの詳細までドリルダウンした場合に表示されるのは、実際のステータスのデータだけです。

認証済みのステータスのCIが含まれている外部ポリシーの詳細までドリルダウンできないので注意してください。

自動ステータス遷移情報では、ビュー・レベルの認証を追跡できます。ビューが手動または自動のどちらで管理されているかを確認できます。また、認証が必要なビューを簡単に特定でき、ドリルダウンによって適切な操作を実行できます。

また、ビューが最後に認証された日時、認証したユーザ、認証した変更の数の追跡も可能です。最終認証に関する詳細情報のドリルダウンもできます。これにより、認証待ちビューの関連 RFC の数がはっきりわかります。

注: ビュー サマリには、**ビュー権限**または**CM での認証権限**を持っているビューのみが表示されます。

自動ステータス遷移のステータスのレビュー

特定のビューの【自動ステータス遷移のステータス】列の  をクリックすると、その実行ステータスが表示されます。

それぞれの実行について、変更日時と変更件数が表示されます。適合していないルールがある場合は、それも表示されます。

- すべての実行ルールに適合し、すべての変更が認証されている場合、**【詳細を表示】**リンクをクリックすると認証履歴モジュールが開き、最新の認証の詳細を確認できます。
- 認証ルールに適合しない変更がある場合、または変更を認証しようとして失敗した場合、**【詳細を表示】**リンクをクリックするとレビュー/認証モジュールが開き、変更をレビューして手動で認証できます。
- 一部の変更のみが認証され、すべての認証ルールに適合しない変更がある場合、認証された変更の横にある**【詳細を表示】**リンクをクリックすると認証履歴モジュールが開き、未認証の変更の横にある**【詳細を表示】**リンクをクリックするとレビュー/認証モジュールが開きます。

ビュー・サマリのユーザ・インタフェース

本項の内容

- [【ビュー サマリ】 ページ](#)66

【ビュー サマリ】 ページ

このページでは、すべての管理ビューについて、認証とポリシーへの適合ステータスがサマリで表示されます。

利用方法	【統計】 > 【ビュー サマリ】 を選択します。
重要情報	列ヘッダをクリックすると、その列の順序でビュー・サマリがソートされます。列ヘッダをクリックすると、黒い小さな三角形が表示されます。上向きの三角形は昇順ソート、下向きの三角形は降順ソートを示します。列ヘッダをもう一度クリックすると、降順と昇順を切り替えることができます。
関連タスク	「自動ステータス遷移のステータスのレビュー」 (65ページ)
関連情報	「ビュー・サマリの概要」 (65ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	詳細
	お気に入りビューのみを表示する : すべてのビューを表示するか、お気に入りビューのみを表示するかを切り替えます。
	レポートのエクスポート : 【ビュー サマリ】 のレポート・データで使用するエクスポート形式を選択できます。次のオプションを使用

UI 要素	詳細
	<p>できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Excel : スプレッドシートで表示できる .XLS (Excel) ファイル形式でエクスポートします。 • PDF : テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。 • CSV : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。 <p>レポートへの出力の生成時には、現在適用されているフィルタが考慮されます。</p>
	<p>更新 : ポリシー・リストの表示内容を更新します。</p>
<input type="checkbox"/> 空のビューを非表示	<p>空のビューを非表示 : 選択すると、データがあるビューだけを表示します。</p>
	<p>ビュー名の横に警告アイコンが表示されている場合は、アイコンの上にカーソルを置くとツールチップに警告が表示され、アイコンをクリックするとダイアログ・ボックスが開いて警告が表示されます。</p>
	<p>ビュー名の横に情報アイコンが表示されている場合は、アイコンの上にカーソルを置くとツールチップにメッセージが表示され、アイコンをクリックするとダイアログ・ボックスが開いてメッセージが表示されます。</p>
	<p>ビューの自動ステータス遷移のステータスを表示します。</p>
<p><ビューのフィルタ・ボックス></p>	<p>表示されるビューのリストを、ボックスに入力する文字列でフィルタします。入力した文字列が名前に含まれるビューのみが表示されます。</p>
<p>認証レベル</p>	<p>ビューの認証レベルをグラフ形式と数値 (CI の合計数に対する認証済み CI の数) の両方で表示します。</p> <p>カーソルをグラフの上に置くと、データの割合 (%) がツールチップで表示されます。</p>
<p>認証レベルの凡例</p>	<p>認証レベルのグラフの凡例を表示します。</p> <p>次のカテゴリが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 認証済み CI • 未認証 CI
<p>最終認証日時</p>	<p>ビューが最後に認証された日時を表示します。日付をクリックすると、認証履歴が開き、その時点でのビューのスナップショットが表</p>

UI 要素	詳細
	示されます。
データの最終更新日時	ビューが最後に更新された日時を表示します。
ポリシー・ステータス	<p>ビューのポリシーのステータスを、実際のステータスと認証済みのステータスの両方について棒グラフで表示します。カーソルをグラフの上に置くと、データの割合 (%) がツールチップで表示されます。</p> <p>注: ステータス・バーには、認証済みのステータスの CI を含む連合ポリシーのポリシー適合ステータスが表示されません。</p>
ポリシー・ステータスの凡例	<p>ポリシー・ステータス・グラフの凡例を表示します。</p> <p>次のカテゴリが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• 適合• 違反
関連 RFC	現在のビューの CI に適用される変更要求の数が表示されます。
ビュー名	ビュー名をクリックすることによって、選択したビューの [レビュー/認証] ページに移動できます。

第7章: ポリシー・サマリ

本章の内容

- [ポリシー・サマリの概要](#) 69
- [ポリシー・サマリのユーザ・インタフェース](#) 69

ポリシー・サマリの概要

ポリシー・サマリ・モジュールは、Configuration Manager で定義したすべてのポリシーのサマリ情報を提供します。ポリシーを定義したすべてのCIについて、ポリシー・ステータスを表示します。また、ポリシー・サマリのデータをレポート形式でエクスポートすることもできます。

注: ポリシー統計の計算は、ビュー権限があるビューについてのみ実行されます。

ポリシー・サマリのユーザ・インタフェース

本項の内容

- [\[ポリシー サマリ\] ページ](#) 69

[ポリシー サマリ] ページ

このページでは、ポリシーの適合レベルをポリシーごとにサマリで表示します。

利用方法	[統計] > [ポリシー サマリ] を選択します。
-------------	-------------------------------------

<p>重要情報</p>	<p>各ポリシーについて、適合ステータスごとにビュー内のCIの数を表示します。表示可能なステータスは、[ポリシー ステータスの凡例]で示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> •  適合 •  違反 <p>列ヘッダをクリックすると、その列の順序でポリシー・サマリがソートされます。列ヘッダをクリックすると、黒い小さな三角形が表示されます。上向きの三角形は昇順ソート、下向きの三角形は降順ソートを示します。列ヘッダをもう一度クリックすると、降順と昇順を切り替えることができます。</p>
<p>関連情報</p>	<p>「ポリシー・サマリの概要」(69ページ)</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	<p>お気に入りビューに関連するポリシーのみを表示する : すべてのビューのデータを表示するか、お気に入りビューのデータのみを表示するかが切り替わります。</p>
	<p>レポートのエクスポート : ポリシー・サマリのデータで使用するエクスポート形式を選択できます。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ['ポリシー サマリ' レポートを Excel にエクスポート] : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .XLS (Excel) ファイル形式に整形されます。 • ['ポリシー サマリ' レポートを PDF にエクスポート] : テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。 • ['ポリシー サマリ' レポートを CSV にエクスポート] : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。 <p>レポートへの出力の生成時には、現在適用されているフィルタが考慮されます。</p>
	<p>ユーザ定義のカテゴリでポリシー・サマリのデータをフィルタ処理できます。カテゴリの定義は、[ポリシー] ページの [詳細] 表示枠の [全般] セクションで行えます。詳細については、「[ポリシー] ページ」(189ページ)を参照してください。</p>
	<p>更新 : ポリシー・リストの表示内容を更新します。</p>

UI 要素	詳細
<input type="checkbox"/> アクティブなポリシーのみを表示	アクティブなポリシーのみを表示 : 選択すると、現在アクティブなポリシーだけが表示されます。

左の表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	詳細
	<p>レポートのエクスポート: ポリシー・サマリのデータで使用するエクスポート形式を選択できます。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Excel: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .XLS (Excel) ファイル形式に整形されます。 • PDF: テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。 • CSV: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。 <p>レポートへの出力の生成時には、現在適用されているフィルタが考慮されます。</p>
ポリシー名	<p>ポリシー名を表示します。</p> <p>説明およびルール有効性を含むポリシーの詳細を示したツールチップを表示するには、ポリシー名の上にポインタを置きます。</p>
ソース	<p>ポリシーのソースである製品を表示します。</p>
ポリシー・ステータス	<p>実際の状態と承認された状態のポリシー適合度ステータスを（棒グラフで）表示します。グラフの上にポインタを置くと、CI の割合と数によってデータを要約したツールチップが表示されます。</p> <p>注: 承認状態の CI を含む外部ポリシーの場合、ステータス・バーには実際の状態データのみが表示されます。</p>

右の表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<ビュー・テーブルごとの内訳>	<p>左の表示枠で選択したポリシーについて、ポリシー適合に関するデータをビューごとに表示します。各ビューの CI の数をステータスごとに表示</p>

UI 要素	説明
	<p>します。</p> <p>各ポリシーについては、次の項目をドリルダウンすると、ビューの調査モジュールで詳細を参照できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• ビュー名• 適合 CI (実際のステータス)• 違反 CI (実際のステータス)• 適合 CI (認証済みのステータス)• 違反 CI (認証済みのステータス)

第8章: ビューの調査

本章の内容

- ビューの調査の概要 73
- インパクト分析 74
- 自動化の衝突 74
- レポート 75
- コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行 75
- ポリシー違反を修正するための RFC の作成 77
- 特定 CI の RFC を作成 78
- 複合 CI の折りたたみルールの設定 78
- 外部アプリケーションの起動 79
- ビューの調査のユーザ・インタフェース 79
- トラブルシューティング - Explore Views 104

ビューの調査の概要

ビューの調査モジュールでは、IT 環境の現状を実際のステータスまたは認証済みのステータスのいずれかで調査できます。また、実際のステータスまたは認証済みのステータスの管理ビューについて、保存したスナップショットを表示することもできます。ビューに含まれる CI とポリシーに関する情報を表示し、ビューのポリシーが適合または違反のどちらの状態かをチェックできます。

ビューの CI リストは [複合 CI] 表示枠、トポロジ・マップは [トポロジ] 表示枠に表示されます。トポロジ・マップでは、レイアウト（レイヤまたは分類ごとに CI を表示するオプションなど）を指定できます。また、トポロジ・マップにはビュー内の複合 CI のみが表示されますが、[CI 詳細] ダイアログ・ボックスでコンポーネント CI までドリルダウンすることが可能です。このような機能によって、トポロジ・マップはシンプルでわかりやすい構造になっています。

ポリシーが定義されている CI には、CI のポリシー・ステータスがアイコンで表示されます。ビューの CI にポリシー違反がある場合は、[ポリシー詳細] 表示枠に詳細情報が表示されます。

ビューの調査モジュールのユーザ・インタフェースの詳細については、「[ビューの調査のユーザ・インタフェース](#)」(79ページ)を参照してください。

注: 選択できるのは、**ビュー権限**または**CM での認証権限**があるビューのみです。

インパクト分析

インパクト分析では、自動化がCIに及ぼす影響を計算します。HP Universal CMDBのCIおよび関係情報を使用します。

インパクト分析結果の表示は、[自動化分析] > [インパクト-<ステータス>] 表示枠で行うことができます。この表示枠には、自動化の影響を受けたビジネスおよびシステムCIが表示されます。これには、影響を受けたビジネスまたはシステムCIの一般情報と、自動化のインパクト重大度インジケータが含まれます。詳細については、「[\[自動化分析\] > \[インパクト-<ステータス>\] 表示枠](#) (84ページ)を参照してください。

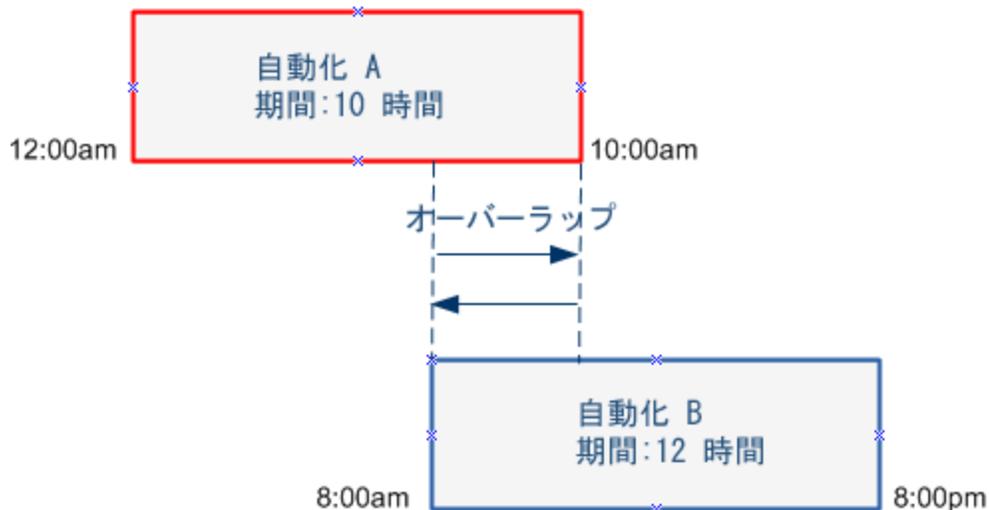
CIのインパクト重大度レベルは、次のルールで決定されます。

- トリガされたCIは自動的に[クリティカル]に設定されます。
- インパクトを受けたCIは、直接接続されているCIの重大度レベルになります。
- インパクトを受けたCIは、間接的に接続されているCIの重大度レベルより1つ下の重大度レベルになります。たとえば、ビジネスCIがMy_CIというCIに間接的に接続されており、My_CIの重大度レベルが[中]の場合、このビジネスCIの重大度レベルは[低い]になります。

自動化の衝突

自動化の衝突は、システムまたはビジネスCIを複数の自動化で使用する場合に、使用期間が重なると発生すると定義されています。

自動化の衝突は、スケジュールの競合に基づいて計算されます。2つ以上の自動化が共通の要素を共有しており、開始時と終了時が重なっている場合、これらの自動化は衝突しているとみなされます。



同時に実行される2つの自動化が必ずしもお互いに影響するとは限りません。衝突が発生するのは、少なくとも1つの共通CIが関わっている場合のみです。衝突には2つのタイプがあります。

- **直接衝突**: 2つ以上の自動化が同じCIに直接影響する場合に発生します。
- **間接衝突**: 自動化のいずれかが同じCIに間接的に影響する場合に発生します。たとえば、自動化によってサーバAのメモリが増加する場合、サーバAは影響を直接受けています。アプリケーションBがサーバAに接続されていても、自動化に直接関わっていない場合は、自動化によって間接的に影響を受けているだけです。

注: 衝突タイプは、インパクトを受けるCIの重大度レベルのうち最も高いものによって決まります。

衝突の詳細の表示については、「[\[自動化分析\] > \[衝突\] 表示枠](#) (88ページ)を参照してください。

レポート

Configuration Manager には、定義済みポリシーに違反しているCIに関する情報を含むビューのポリシー情報をエクスポートする機能があります。違反CIの原因として次の理由が考えられます。

- ベースライン条件を満たさないCI
- 欠落CI
- 複合CI内の追加CI

注: 違反CIに関する情報は、.pdf形式でエクスポートされるレポートには含められません。

レポートには、特定の時点での特定のステータス（実際または認証済み）のCIオン分析が含まれています。レポートには、違反しているCI（属性レベルまで）とそれらの違反の原因が表示されます。

コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行

このタスクでは、コントロールされた実行またはコントロールされない自動化の実行方法を説明します。

本項の内容

- [「管理対象ビューの追加」 \(76ページ\)](#)
- [「フローの追加と自動化パラメータの構成」 \(76ページ\)](#)
- [「コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行」 \(76ページ\)](#)

注: また、コントロールされた自動化機能は、自動的なリスクの可視化とも呼ばれます。

1. 管理対象ビューの追加

UCMDB のビュー・モジュールで、管理対象のビューを追加します。詳細については、「[ビューを管理ビュー・リストに追加](#)」(169ページ)を参照してください。

2. フローの追加と自動化パラメータの構成

【管理】 > 【自動化設定】 で、次の手順を実行します。

- a.  をクリックして【フローの選択】 ウィンドウを開きます。
- b. 左の表示枠でフロー・ツリーをクリックして展開し、Configuration Manager で自動化として実行する HP Operations Orchestration のフローを選択します。
- c. 【OK】 をクリックして【自動化設定】 ウィンドウに戻ります。
- d. 【自動化の詳細】 表示枠で、【関連する CI タイプ】 リストから、自動化を実行する CI タイプを指定します。
- e. 【実行の詳細】 表示枠で【コントロールされた実行】 チェック・ボックスを選択し、選択したフローをコントロールされた自動化として実行します。コントロールされない自動化は、システムによる介入なしで実行されます。コントロールされない自動化を実行するには、【コントロールされた実行】 チェック・ボックスの選択を解除します。デフォルトでは、自動化はコントロールされた状態で実行されるように設定されています。
その他の自動化パラメータの構成方法の詳細については、「[【自動化設定】 ページ](#)」(223 ページ)を参照してください。

3. コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行

- a. 【エクスプローラ】 > 【ビューの調査】 を選択します。
- b. 【ビューの調査】 ツールバーで、次の手順を実行します。
 - 【ステータス】 ボックスで、【実際のステータス】 または【認証済みのステータス】 を選択します。
 - 【スナップショットの選択】 ボックスで、【最新】 を選択します。
- c. 【複合 CI】 表示枠で、自動化設定モジュールの【管理 CI タイプ】 ボックスで選択したものと同一タイプか、そのサブクラスの CI タイプを選択します。詳細については、「[【自動化設定】 ページ](#)」(223ページ)を参照してください。
- d. 【複合 CI】 表示枠で【自動化の実行】  ボタンをクリックし、【自動化実行】 ダイアログ・ボックスを開きます。
- e. 【自動化】 表示枠で、目的の自動化を選択します。
- f. 【実行パラメータ】 表示枠で、選択した自動化に必要な実行パラメータを入力します。必須パラメータはアスタリスクが付いているもののみです。
 - 選択した自動化がコントロールされない自動化である場合、ダイアログ・ボックスの下部に【実行】 ボタンが表示されます。【実行】 をクリックすると、自動化が実行されます。

注: 必須パラメータには赤のアスタリスクが付いています。必要な値を入力しないと、**【実行】** ボタンは無効です。

- 選択した自動化がコントロールされた自動化である場合、ダイアログ・ボックスの下部に**【次へ】** ボタンが表示されます。**【次へ】** をクリックすると、**【自動化プランナ】** ページが開きます。

注: 必須パラメータには赤のアスタリスクが付いています。自動化を実行するには、必要な値を入力する必要があります。必要な値を入力しないと、**【次へ】** ボタンは無効です。

自動化をコントロールされた状態またはコントロールされない状態として定義する方法の詳細については、[「<自動化>表示枠 - 【実行の詳細】領域」\(225ページ\)](#)を参照してください。

注: 次の手順は、コントロールされた自動化でのみ実行します。

- g. **【自動化プランナ】** ダイアログ・ボックスの**【実施の詳細】** 表示枠で、カレンダーを使って自動化の日時を設定します。現在または将来の日付の選択が可能です。デフォルトでは、現在の日時に設定されています。
- h. 自動化を実行する前に、**【ポリシー】** 表示枠でポリシーのステータスをチェックします。ポリシー違反がある場合、その違反がIT環境にとってクリティカルかどうかを調べる必要があります。たとえば、自動化によってサーバ・ダウンタイムが発生することがあります。自動化分析情報については、[「【自動化分析】>【自動化】表示枠」\(87ページ\)](#)を参照してください。

違反によってリスクが発生しない場合は、ポリシー違反を無視して自動化を実行してかまいません。ポリシーへの違反があるかどうかにかかわらず、自動化は実行されます。詳細については、[「【実施の詳細】表示枠」\(82ページ\)](#)および[「【ポリシー】表示枠」\(83ページ\)](#)を参照してください。

- i. **【実行】** をクリックすると、自動化が実行されます。
 - コントロールされた自動化を実行した場合、**【コントロールされた自動化】** タブで自動化結果の詳細を表示できます。詳細については、[「【コントロールされた自動化】タブ」\(98ページ\)](#)を参照してください。
 - コントロールされない自動化を実行した場合、ウィンドウが開き、次のメッセージが表示されます。自動化が起動されました。詳細なレポートを表示するにはここをクリックしてください。この部分はリンクになっており、クリックすると、HP Operations Orchestration が開いて自動化結果を表示できます。

ポリシー違反を修正するための RFC の作成

このタスクでは、以前に定義した構成ポリシーに違反するCIを変更するRFCを作成できます。複数のCIを選択できますが、選択したCIが複数のポリシーに違反する場合、修復する特定のポリシーの

選択が求められ、他のポリシーに違反する CI がこの手順のために破棄されます。

1. ビューの調査モジュールで、**【ビューの選択】**  をクリックして、ポリシーに違反する CI を含むビューを開きます。
2. **【複合 CI】** 表示枠でポリシーに違反する CI を選択します。
3.  をクリックすると、ポリシー違反を修復する RFC を作成できます。**【ポリシー ルールの選択】** ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[【ポリシー ルールの選択】ダイアログ・ボックス](#)」(101ページ)を参照してください。
4. ドロップダウン・リストから、修復する違反ポリシーを選択します。
この時点では、**【複合 CI】** 表示枠で以前にその CI を選択していない場合でも、選択したポリシーに違反するビュー内のすべての CI を選択できます。それには、**【ポリシーに違反するすべての CI を選択】** チェック・ボックスを選択します。
5. **【続行】** をクリックします。**【ポリシー修復用の RFC の作成】** ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[【ポリシー修復用の RFC の作成】ダイアログ・ボックス](#)」(92ページ)を参照してください。
必要な情報を入力して **【送信】** をクリックします。

特定 CI の RFC を作成

このタスクでは、特定の CI に対する RFC を作成できます。

1. ビューの調査モジュールで、**【ビューの選択】**  をクリックして、ビューを開きます。
2. **【複合 CI】** 表示枠で、RFC を作成する CI を選択します。
3.  をクリックします。**【新規 RFC の作成】** ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[【新規 RFC の作成】ダイアログ・ボックス](#)」(91ページ)を参照してください。
必要な情報を入力して **【送信】** をクリックします。

複合 CI の折りたたみルールの設定

折りたたみルールによって、Configuration Manager に表示される複合 CI が定義され、管理ビューのコンテンツが構成されます。複合 CI の折りたたみルールの設定は HP Universal CMDB で行います。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』の「複合 CI の折りたたみルールの設定」を参照してください。

注: 前のバージョンの Configuration Manager では、折りたたみルール of 定義は Configuration Manager で行っていました。前のバージョンからアップグレードした場合、以前に定義した折りたたみルールが HP Universal CMDB に自動的にインポートされます。

外部アプリケーションの起動

Configuration Manager には、UCMDB CI または UCMDB ビューのコンテキストで任意のアプリケーション・ユーザ・インタフェースを起動することができる、汎用 UI 統合を設定するメカニズムが追加されています。たとえば、一部の CI で検出された問題に関連した新しいディスカッションを開いたり、UCMDB を起動して選択した CI の CI プロパティを表示したりするために、HP Enterprise Collaboration ユーザ・インタフェースを起動できます。この機能は [検証 / 承認] と [Explore Views] モジュールで利用できます。

注: 外部アプリケーションと統合できるようにするため、すべてのアプリケーションを LW-SSO で設定し、同じユーザ管理システムを使用することをお勧めします。これにより、外部アプリケーションごとにユーザ名を入力してログインする必要がなくなります。

外部アプリケーションを起動するには、次の手順を実行します。

1. 開くアプリケーションの URL を指定します。例:

```
http://<UCMDB サーバ・マシンまたは IP アドレス>:8080/ucmdb-ui/cms/  
directAppletLogin.do?cmd=ShowProperties&objectId=  
${ucmdbid}&navigation=false&interfaceVersion=9.0.0
```

この例の場合、\${ucmdbid} は選択した (UCMDB に表示される) 複合 CI の ID で置き換えられます。

詳細については、「[UI 統合](#)」(219ページ)を参照してください。

注: ボタンが表示されるようにするには、この手順を実行する必要があります。

2. 検証 / 承認モジュールまたは Explore Views モジュールで をクリックします。

設定したアプリケーションがブラウザ・ウィンドウで開かれます。

ビューの調査のユーザ・インタフェース

本項の内容

- [\[自動化実行\] ダイアログ・ボックス](#)80
- [ベースライン・ポリシー・ウィザード](#)89
- [\[CI 詳細\] ダイアログ・ボックス](#)90
- [\[新規 RFC の作成\] ダイアログ・ボックス](#)91
- [\[ポリシー修復用の RFC の作成\] ダイアログ・ボックス](#)92
- [\[ビューの調査\] ページ](#)93
- [\[ポリシー詳細\] ダイアログ・ボックス](#)100

- [\[ポリシー ルールの選択\] ダイアログ・ボックス](#)101
- [\[表示するスナップショットの選択\] ダイアログ・ボックス](#) 101
- [\[CI のソート\] ダイアログ・ボックス](#) 102
- [トポロジ・ページ](#)103

[自動化実行] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、コントロールされた実行またはコントロールされない自動化を実行します。

利用方法	<p>[エクスプローラ] > [ビューの調査] を選択します。[複合 CI] 表示枠で目的の CI を選択し、[自動化の実行]  ボタンをクリックします。</p>
重要情報	<ul style="list-style-type: none"> • [自動化の実行]  ボタンを有効にするには、次のことを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> • ツールバーから [実際のステータス] または [認証済みのステータス] を選択していること。 • 自動化設定モジュールに、[複合 CI] 表示枠で選択した CI の CI タイプと同じ CI タイプにマッピングされている、管理された自動化があること。詳細については、「[自動化設定] ページ」(223ページ)を参照してください。 • 自動化を実行できるのは、自動化実行権限を持っているユーザのみです。
関連タスク	<p>「コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行」 (75ページ)</p>
関連情報	<ul style="list-style-type: none"> • 「インパクト分析」 (74ページ) • 「自動化ポリシー」 (227ページ) • 「システム操作の自動化」 (16ページ)

[自動化実行] ページ

このページでは、実行する自動化を選択できます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
自動化の詳細	<p>名前: [管理] > [自動化設定] で定義した自動化の名前。</p> <p>フロー UUID: Configuration Manager によって使用されている HP Operations Orchestration インスタンスを一意に識別する、HP Operations Orchestration インスタンスの名前。</p> <p>フロー・パス: HP Operations Orchestration でのフローのフル・パスと元の名前。</p> <p>詳細: [管理] > [自動化設定] で定義した自動化の説明。</p>
自動化	<p>実行できる自動化のリストを表示します。[自動化] > [自動化設定] からインポートすると、自動化が表示されます。詳細については、「次からのフローのインポート: HP Operations Orchestration」(222ページ)を参照してください。</p> <p>表示される自動化は、[ビューの調査] ページの [複合 CI] 表示枠で選択した CI タイプに関連しています。</p>
実行パラメータ	<p>フローの実行に必要な実行パラメータを示します。必須フィールドには赤のアスタリスクが付いています。</p> <p>注: Configuration Manager では、必要な実行パラメータ値が構成されていない自動化を実行することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none">• コントロールされない自動化を実行する場合、必須パラメータを構成しないと、[自動化の実行] ボタンは無効です。• コントロールされた自動化を実行する場合、必須パラメータを構成しないと、[次へ] ボタンは無効です。
実行タイプ	<p>[管理] > [自動化設定] で、コントロールされた自動化として定義されているか、コントロールされない自動化として定義されているかを表示します。</p>

UI 要素	詳細
[次へ] / [実行]	<ul style="list-style-type: none"> このボタンは、コントロールされた自動化では[次へ]と表示されず。このボタンをクリックすると、自動化プランナが表示されます。 このボタンは、コントロールされない自動化では[実行]と表示されます。必須フィールドが入力されていない場合、このボタンは無効です。 <p>コントロールされない自動化を実行した場合、ウィンドウが開き、次のメッセージが表示されます。自動化の実行中です。詳細なレポートを表示するにはここをクリックしてください。この部分はリンクになっており、クリックすると、HP Operations Orchestration が開いて自動化結果レポートが表示されます。</p>

[自動化プランナ] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

重要情報	<p>このページを使用できるのは、コントロールされた自動化を実行している場合のみです。</p> <p>次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「[実施の詳細] 表示枠」(82ページ) 「[ポリシー] 表示枠」(83ページ) 「[自動化分析] > [インパクト - <ステータス>] 表示枠」(84ページ) 「[自動化分析] > [自動化] 表示枠」(87ページ) 「[自動化分析] > [衝突] 表示枠」(88ページ)
-------------	--

[実施の詳細] 表示枠

この表示枠では、自動化の開始予定日時を設定できます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
予想終了時刻	<p>自動化プロセスの終了が予想される時刻を表示します。</p> <p>予想終了時刻の上にポインタを置くと、自動化プロセスの予想時間がツールチップに表示されます。自動化を初めて実行するときの時間は10分です。</p> <p>自動化を初めて実行した後、Configuration Manager は個々の自動化にかかった平均時間を計算して安全バッファを足し、時間を更新します。</p>

UI 要素	説明
フローのプロパティ	<p>自動化パラメータを表示します。</p> <p>注: 必要な実行パラメータを削除すると、[OK] ボタンが無効になります。</p>
計画開始時刻	<p>カレンダーを使用して、自動化の実行を開始する日時を設定できます。デフォルトの現在の日時を使用するか、将来の日付を選択して自動化が後で実行されるように再スケジュールできます。</p> <p>将来の日付を選択すると、Configuration Manager は [自動化プランナ] ページのすべての自動化分析およびポリシー情報を再計算します。</p>

[ポリシー] 表示枠

この表示枠では、自動化ポリシー・モジュールで定義したポリシーのステータスを表示できます。

関連情報	「ポリシー」 (175ページ)
------	---------------------------------

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
◀▶	<p>ポリシー詳細の表示/非表示を切り替えることができます。ポリシー名にポインタを置いて ▶ をクリックすると、[管理] > [ポリシー] > [自動化ポリシー] に定義されているポリシー情報が表示されます。詳細については、「[自動化ポリシー] ページ」 (230ページ)を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 詳細: ポリシーの説明。 ● 関連するビュー: ポリシーに割り当てられているビュー。 ● 関連する CI タイプ: ポリシーが関連付けられている CI タイプ。 ● 制限: ポリシーに定義されている条件。 <ul style="list-style-type: none"> ● 条件のタイプ: オプションは [関連する自動化] , [関連する CI] です。 ● 条件: このポリシーに定義されている自動化/CI 条件。 ● 自動化分析: その制限に定義されている条件値。このポリシーに対して定義されているすべての条件に自動化が適合する場合のみ、ポリシー違反となります。 <p>◀ をクリックすると、ポリシー詳細が非表示になります。</p>

UI 要素	説明
<p><自動化ポリシー・リスト></p>	<p>自動化ポリシー・モジュールで定義した自動化ポリシーのリストを表示します。各ポリシーの違反または適合が判断されます。</p> <p> 自動化がこのポリシーに定義されているすべての条件を満たしてはいないことを示します。</p> <p> 自動化がこのポリシーに定義されているすべての条件を満たしていることを示します。</p> <p>違反によって IT 環境にリスクが発生しないことがわかっている場合は、ポリシー違反を無視して自動化を実行できます。違反がクリティカルな場合は、自動化を実行しない決定も可能です。また、自動化が後で実行されるように再スケジュールすることもできます。</p> <p>たとえば、違反ポリシーの定義により、最終実行からの経過時間が1か月を超える自動化で違反が発生する場合、サーバ・ダウンタイムが発生する違反とは異なるため、これによるリスクはないと判断することができます。</p> <p>注: Configuration Manager では、自動化ポリシーへの違反があっても自動化を実行できます。</p>

[自動化分析] > [インパクト - <ステータス>] 表示枠

この表示枠には、自動化のインパクト分析の計算結果を表示する方法があります。この表示枠には、自動化の影響を受けたビジネスおよびシステム CI が表示されます。これには、影響を受けたビジネスまたはシステム CI の一般情報と、自動化のインパクト重大度インジケータが含まれます。

<p>重要情報</p>	<p>表示枠のタイトルは、分析時に自動化が CI に与える影響を計算する際に、[実際] または [認証済み] のどちらかのステータスのビューの CI を対象にするかを示します。デフォルトでは [実際] です。</p> <p>ビューを管理するステータスを選択するには、[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [インパクト] に移動します。</p>
<p>関連情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「ポリシー」 (175ページ) • 「インパクト分析」 (74ページ) • 「データ管理 - 実際のステータスと認証済みのステータス」 (15ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<p>ビジネス上の重要性が最高の CI</p>	<p>自動化によるインパクトを受けた CI のうち、ビジネス上の重要性レベルが最大の CI を表示します。</p> <p>ビジネス重要度の属性は、HP Universal CMDB で定義されます。ここでは、重要度レベルがビジネス CI に割り当てられます。各 CI には、1 ~ 10 の重要度レベルを割り当てることができます。</p> <p>HP Universal CMDB における CI のビジネス上の重要性レベルは、次のようにマッピングされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HP Universal CMDB の 0 ~ 2 ---> Configuration Manager の [低い] • HP Universal CMDB の 3 ~ 5 ---> Configuration Manager の [中] • HP Universal CMDB の 6 ~ 8 ---> Configuration Manager の [高い] • HP Universal CMDB の 9 ~ 10 ---> Configuration Manager の [最高] <p>ビジネス上の重要性レベルは次のアイコンで示されます。</p> <p> 最高</p> <p> 高い</p> <p> 中</p> <p> 低い</p> <p>ドリルダウン矢印  をクリックすると、ビジネス上の重要性レベルが最大の CI のリストを含む表が表示されます。この表には、各 CI の CI 名、CI タイプ、インパクトの重大度レベル、ビジネス上の重要性レベルがあります。</p> <p>CI のインパクト重大度およびビジネス・クリティカル度レベルを示すツールチップは、重大度およびクリティカル度のアイコンにポインタを置くと表示されます。</p> <p>この矢印  をクリックすると、表が非表示になります。</p>
<p>ビジネス CI の合計数</p>	<p>自動化のインパクトを受けたビジネス CI の合計数を表示します。</p> <p>ドリルダウン矢印  をクリックすると、インパクトを受けたビジネス CI のリストを含む表が表示されます。この表には、各 CI の CI 名、CI タイプ、インパクトの重大度レベル、ビジネス上の重要性レベルがあります。</p> <p>インパクトの重大度レベルを示すアイコンの詳細については、この表の [インパクトの重大度が最悪の CI] を参照してください。</p>

UI 要素	説明
	<p>CI のインパクト重大度およびビジネス・クリティカル度レベルを示すツールチップは、重大度およびクリティカル度のアイコンにポインタを置くと表示されます。</p> <p>この矢印  をクリックすると、表が非表示になります。</p>
<p>システム CI の合計数</p>	<p>自動化のインパクトを受けたシステム CI の合計数を表示します。</p> <p>ドリルダウン矢印  をクリックすると、インパクトを受けた CI のリストを含む表が表示されます。この表には、各 CI の CI 名、CI タイプ、インパクトの重大度レベルがあります。</p> <p>CI のインパクトの重大度を示すツールチップは、重大度のアイコンにポインタを置くと表示されます。</p> <p>この矢印  をクリックすると、表が非表示になります。</p>
<p>インパクトの重大度が最悪の CI</p>	<p>インパクトを受けたビジネス CI のうち、インパクトの重大度が最悪の CI を表示します。</p> <p>インパクトの重大度レベルは次のアイコンで示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">  最高  高い  中  低い  最低 <p>ドリルダウン矢印  をクリックすると、インパクトの重大度レベルが最高のビジネス CI のリストを含む表が表示されます。この表には、各 CI の CI 名、CI タイプ、インパクトの重大度レベル、ビジネス上の重要性レベルがあります。</p> <p>CI のインパクト重大度およびビジネス・クリティカル度レベルを示すツールチップは、重大度およびクリティカル度のアイコンにポインタを置くと表示されます。</p> <p>この矢印  をクリックすると、表が非表示になります。</p>

[自動化分析] > [自動化] 表示枠

この表示枠には、過去の自動化の実行に関する一般情報が表示されます。

重要情報	コントロールされた自動化とコントロールされない自動化について統計が計算されますが、[自動化分析] > [自動化] 表示枠に表示されるのは、コントロールされた実行の統計のみです。
関連情報	「ポリシー」 (175ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
構成変更の原因	自動化によって HP Universal CMDB の CI の変更が発生するかどうかを指定します。
ダウンタイムの原因	管理された自動化によって実行中に CI が使用できない状態になるかどうかを指定します。
実行率	この自動化の実行成功率および失敗率を表示します。成功率は緑で表示されます。失敗率は赤で表示されます。
予想される期間	自動化プロセスの予想時間を表示します。自動化を初めて実行するときの予想時間は 10 分です。 自動化を初めて実行した後、Configuration Manager は個々の自動化にかかった平均時間を計算して安全バッファを足し、時間を更新します。
最終実行日時	前回の自動実行の日時または日付を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> 自動化が過去 48 時間に実行された場合、日付と時刻の両方が表示されます。 現在から 48 時間以上前に実行された場合は、日付のみが表示されません。
実行回数	自動化が実行された回数を表示します。
リスク評価	管理された自動化のリスク・レベルを表示します。有効な値： <ul style="list-style-type: none"> 不明 なし 低い 中 高い
成功した連続実行数	自動化の実行が連続して成功した回数を表示します。

[自動化分析] > [衝突] 表示枠

この表示枠には、自動化の衝突原因の詳細が表示されます。

関連タスク	「コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行」(75ページ)
関連情報	<ul style="list-style-type: none"> • 「自動化の衝突」(74ページ) • 「変更要求」(27ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
 <衝突が存在する >  <衝突が存在しない>	<p>自動化が別の自動化/RFC と衝突しているかどうかを示します。</p> <p>衝突が発生するのは、共通の CI が、実行機関が重なる複数の自動化/RFC の影響を受けた場合です。</p> <p>衝突は次の条件を満たす自動化によって発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Configuration Manager で現在実行中、または実行がスケジュールされている他の自動化と衝突している または • HP Service Manager で現在実施されている、または実施がスケジュールされている RFC と衝突している
CI の合計衝突数	<p>衝突に関わり、影響を受けやすいすべてのビジネス CI およびシステム CI を表示します。</p> <p>ドリルダウン矢印  をクリックすると、衝突に関わった CI のリストを含む表が表示されます。表には CI 名、CI タイプ、衝突タイプ が示されません。</p> <p>次のアイコンは衝突タイプを示します。</p> <p> 直接衝突: ビジネス CI およびシステム CI は衝突の影響を直接受けません。</p> <p> 間接衝突: ビジネス CI およびシステム CI は衝突の影響を間接的に受けません。</p> <p>衝突タイプのアイコンの上にマウスを置くと、CI の衝突タイプを示すツールチップが表示されます。</p> <p>システム CI に関する注記: トップ・レベル (複合) CI のみが表示されません。</p> <p>衝突している自動化が原因となって複数の CI で衝突が発生する場合、そ</p>

UI 要素	説明
	<p>の重大度は最高のものとして決定されます。</p> <p>矢印  をクリックすると、表が非表示になります。</p>
<p>衝突しているアクティビティの合計数</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 【衝突している自動化】 : Configuration Manager で実行中、または実行がスケジュールされている、衝突している自動化の合計数を示します。 • 【衝突している RFC】 : Configuration Manager は、HP Service Manager で発生した HP Universal CMDB 変更要求 (RFC) をインポートします。RFC は、それぞれが1つ以上の CI に関連付けられています。 衝突している RFC は、Configuration Manager で現在実行中、または実行がスケジュールされている自動化のうち、HP Service Manager で現在実行中、または実行がスケジュールされている RFC と衝突するものの合計数を示します。 Configuration Manager が RFC を受け取る方法の詳細については、「変更要求」 (27ページ)を参照してください。

ベースライン・ポリシー・ウィザード

ベースライン・ポリシー・ウィザードでは、特定のビューに基づいて、CIをゴールド・マスタとして定義するベースライン・ポリシーを作成できます。

このウィザードでは、ビューの調査モジュールでCIを選択し、選択したCIをビューにおける同じタイプのすべてのCIに対するゴールド・マスタとして使用することができます。ウィザードを閉じるとすぐに結果のポリシーが計算され、ビューの調査モジュールが更新されます。

注: ベースライン・ポリシーを作成するには、ポリシー管理権限および書き込み権限が必要です。

<p>利用方法</p>	<p>ビューの調査モジュールで  をクリックします。</p>
<p>重要情報</p>	<p>選択したビューには、ウィザードを有効にするために、1つ以上のCIが含まれていなければなりません。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「ベースライン・ポリシーまたはトポロジ・ポリシーの定義」 (178ページ)</p>
<p>ウィザード・マップ</p>	<p>「ベースライン・ポリシー・ウィザード」 には次のページが含まれています。 「 [ベースライン定義] ページ」 > 「 [ポリシー詳細] ページ」</p>

関連情報	「ポリシーの概要」(175ページ)
------	-----------------------------------

[ベースライン定義] ページ

このページでは、ベースラインに使用される CI タイプとその属性を指定できます。

標準設定では、ウィザードを開いた際に選択された CI の CI 構造と属性値は、ベースラインで使用されるように指定されています。

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	詳細
<CI タイプのリスト>	<p>選択した CI タイプと属性がマークされた状態で、全体的な複合 CI 構造が表示されます。</p> <p> をクリックすると、ベースライン定義にその他の CI タイプを追加できます。ベースライン定義に含める属性について、属性の横にあるチェック・ボックスを選択します。各属性に対して、次の項目を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• 含めるか除外するか ([Not] 列)• 必要な演算子 ([演算子] 列)• 特定の属性値 ([属性値] 列) <p> をクリックすると、ベースライン定義から CI タイプを削除できます。</p>

[ポリシー詳細] ページ

このページでは、ベースライン定義の名前と説明を入力します。

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
名前	ベースライン・ポリシーに割り当てる名前。
詳細	(任意指定) ベースライン・ポリシーの簡単な説明。

[CI 詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI の詳細情報を表示します。

利用方法	<p>[複合 CI の詳細の表示]  をクリックするか、[複合 CI] 表示枠または [トポロジ] 表示枠で CI をダブルクリックします。</p>
------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	次の相違 : リスト内にある次の複合 CI に移動します。
	[属性] タブでは、選択した CI の属性すべての表示と、管理属性のみの表示を切り替えることができます。
【属性】 タブ	左の表示枠に CI 名が表示されます。複合 CI の場合は、CI エントリを展開して個々のコンポーネント CI を表示できます。 右の表示枠には、この CI の属性名と値が表示されます。
【内向きの関係】 タブ	選択した CI について、内向きの関係をすべて表示します。 複合 CI の場合は、CI エントリを展開して個々のコンポーネント CI を表示できます。コンポーネント CI を 1 つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログ・ボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。
【外向きの関係】 タブ	選択した CI について、外向きの関係をすべて表示します。 複合 CI の場合は、CI エントリを展開して個々のコンポーネント CI を表示できます。コンポーネント CI を 1 つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログ・ボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。

[新規 RFC の作成] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、特定の CI に関する RFC を作成します。この変更は Service Manager で検証されます。

利用方法	CI を 1 つ以上選択し、ビューの調査モジュールの [複合 CI] 表示枠にある  をクリックします。[続行] をクリックします。
重要情報	タイトルを入力し、作成中の RFC の関連情報を選択します。 [送信] をクリックすると、RFC が作成されるので、手動で選択した CI に関連付けます。
関連タスク	「特定 CI の RFC を作成」 (78ページ)
関連情報	「Service Manager」 (216ページ) 「変更要求」 (27ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
影響を受ける CI	[複合 CI] 表示枠で承認を得るためにマークされた変更のリストです。
カテゴリ	表示されるカテゴリ値のリスト（[設定] モジュールで設定）からカテゴリを選択します。詳細については、 「RFC 作成」(215ページ) を参照してください。
説明	CI と、各 CI で実行する必要がある必須アクションのリストです。
影響	表示される値のリスト（[設定] モジュールで設定）から、変更が及ぼす影響の最大範囲を選択します。詳細については、 「RFC 作成」(215ページ) を参照してください。
要求終了日	RFC の実行期限となる日付です。
リスク評価	表示される値のリスト（[設定] モジュールで設定）から、変更された CI のリスク・レベルを選択します。詳細については、 「RFC 作成」(215ページ) を参照してください。
サービス	CI で利用可能なサービスのリストです。
タイトル	RFC のタイトルを入力します（たとえば、要求された変更の短いサマリ）。
緊急度	表示される値のリスト（[設定] モジュールで設定）から、CI の変更の緊急度レベルを選択します。詳細については、 「RFC 作成」(215ページ) を参照してください。

[ポリシー修復用の RFC の作成] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、構成ポリシーに違反する CI を修復する RFC を作成します。この違反は Service Manager で検証されます。

利用方法	ポリシー違反がある CI を 1 つ以上選択し、ビューの調査モジュールの [複合 CI] 表示枠にある  をクリックします。ポリシーを選択し、 [続行] をクリックします。
重要情報	タイトルを入力し、ポリシーを修復するために作成中の RFC の関連情報を選択します。 [送信] をクリックすると、RFC が作成されるので、手動で選択した CI に関連付けます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
影響を受ける CI	[複合 CI] 表示枠で承認を得るためにマークされた変更のリストです。
カテゴリ	表示されるカテゴリ値のリスト ([設定] モジュールで設定) からカテゴリを選択します。詳細については、 「RFC 作成」 (215ページ) を参照してください。
詳細	CI と、各 CI で実行する必要がある必須アクションのリストです。 CI を1つ選択した場合は、自動生成される説明が表示されます。
影響	表示される値のリスト ([設定] モジュールで設定) から、変更が及ぼす影響の最大範囲を選択します。詳細については、 「RFC 作成」 (215ページ) を参照してください。
要求終了日	RFC の実行期限となる日付です。
リスク評価	表示される値のリスト ([設定] モジュールで設定) から、変更された CI のリスク・レベルを選択します。詳細については、 「RFC 作成」 (215ページ) を参照してください。
Service	CI で利用可能なサービスのリストです。
タイトル	RFC のタイトルを入力します (たとえば、要求された変更の短いサマリ)。
緊急度	表示される値のリスト ([設定] モジュールで設定) から、CI の変更の緊急度レベルを選択します。詳細については、 「RFC 作成」 (215ページ) を参照してください。

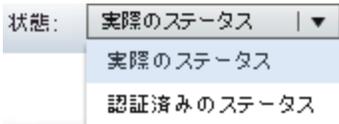
[ビューの調査] ページ

このページでは、実際のステータスまたは認証済みのステータスのビューのスナップショットが表示されます。

利用方法	[エクスプローラ] > [ビューの調査] を選択します。
重要情報	<p>[ビューの調査] ページには次の表示枠やタブがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [複合 CI] 表示枠: CI を一覧表示し、各 CI にポリシー・ステータスをアイコンで表示します。 • [トポロジ] 表示枠: CI をトポロジ・マップで表示し、各 CI のポリシー・ステータスをアイコンで表示します。トポロジ・マップ内の各ノードには、名前、CI タイプ、管理ステータス、ポリシー・ステータス、選択した CI に関連する RFC が存在するかどうかが表示されます。

	<p>注: インベントリ・モードでの [トポロジ] 表示枠は, 【関連CI】 と呼ばれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 【ポリシー詳細】 タブ: 選択した CI について, ポリシーの適合と違反の詳細を表示します。 • 【コントロールされた自動化】 タブ: 現在実行中のコントロールされた自動化と, 将来の実行がスケジュールされた自動化を表示します。 • 【フィルタ】 表示枠: インベントリ・モードでは, 【フィルタ】 表示枠で複合 CI リストをフィルタできます。 <p>【複合 CI】 表示枠と 【トポロジ】 表示枠は相互に連携しています。一方の表示枠で CI を選択すると, もう一方でも自動的に選択されます。</p>
<p>関連タスク</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行」 (75ページ) • 「ポリシー違反を修正するための RFC の作成」 (77ページ) • 「特定 CI の RFC を作成」 (78ページ) • 「複合 CI の折りたたみルールの設定」 (78ページ) • 「外部アプリケーションの起動」 (79ページ)
<p>関連情報</p>	<p>「ビューの調査の概要」 (73ページ)</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	<p>ビューの選択: 別のビューを選択して 【ビューの調査】 ページで開くことができます。</p>
	<p>表示をインベントリ・モードに変更: 選択したビューの表示をインベントリ・モードに変更します。</p>
	<p>表示をトポロジ・モードに変更: 選択したビューの表示をトポロジ・モードに変更します。</p>
<p>状態: </p>	<p>表示するビューのステータスを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 【実際のステータス】: ビューの実際のステータスに含まれる CI と関係をすべて表示します。 • 【認証済みのステータス】: ビューの認証済みのステータスに含まれる CI と関係をすべて表示します。
	<p>スナップショットの選択: 【表示するスナップショットの選択】 ダイアログ・ボックスを開きます。ここでは, ビューの保存済みのスナップショットを選択できます。</p>

UI 要素	詳細
	<p>コメントの編集: 選択したスナップショットのコメントを編集できます。</p> <p>注: 255 文字より長いコメントをスナップショットに追加することはできません。</p>
	<p>レポートのエクスポート: ポリシー分析レポートのデータをエクスポートする形式を選択できます。次のオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Excel: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .XLS (Excel) ファイル形式に整形されます。 • PDF: テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。 • CSV: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。 <p>レポートへの出力の生成時には、現在適用されているフィルタが考慮されます。</p>
	<p>更新: CI リストを更新します。</p>

[複合 CI] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
	<p>複合 CI のソート: [CI のソート] ダイアログ・ボックスが開きます。ここでは、さまざまなソート・フィールドで CI リストをソートできます。</p>
	<p>複合 CI の詳細の表示: [CI 詳細] ダイアログ・ボックスを開きます。ここでは、選択した CI の管理対象属性が表示されます。詳細については、「[CI 詳細] ダイアログ・ボックス」(90ページ)を参照してください。</p>
	<p>選択した CI を使用して、このタイプのすべての CI のゴールド・マスタになる: ベースライン・ポリシーを作成できます。詳細については、「ベースライン・ポリシー・ウィザード」(89ページ)を参照してください。</p>
	<p>ポリシー違反を修復する RFC を作成: 選択した変更のポリシー違反を修復する RFC を作成できます。</p>
	<p>強調表示された CI の RFC を作成: 強調表示されている CI に対する RFC</p>

UI 要素	説明
	を作成できます。
	選択した CI を UCMDB Browser で調査 : 選択した CI のコンテキストで UCMDB Browser が開きます。
	起動 : 選択した CI またはビューのコンテキストで開く外部アプリケーションを選択できます。外部アプリケーションを選択するには  をクリックします。[設定] ページで、表示する URL を指定する必要があります。詳細については、 「UI 統合」(219ページ) を参照してください。
	自動化の実行 : [自動化実行] ダイアログ・ボックスが開きます。ここでは、コントロールされた、またはコントロールされない自動化を実行できます。
	現在、CI が 1 つ以上のポリシーに違反していることを示します。
	現在、CI がすべてのポリシーに適合していることを示します。
	この CI に関連する 1 つ以上の変更要求 (RFC) があることを示します。
<CI のリスト>	ビュー内の現在または以前の CI すべてが表示されます。 リスト内の CI の上にポインタを置くと、CI の名前とタイプを含んだツールチップが表示されます。 CI の横にアイコンがない場合、その CI にはポリシーが定義されていないことを示します。

[トポロジ] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
	トポロジ概要を表示 : トポロジ概要表示の表示/非表示を切り替えます。
	凡例 : トポロジ表示におけるノード間の接続の説明を表示します。
	レイヤ・レイアウト : CI をレイヤごとにまとめてトポロジ・マップを表示します。
	階層レイヤ・レイアウト : CI をレイヤの階層ごとにまとめてト

UI 要素	説明
	ポロジ・マップを表示します。
	分類レイアウト : CI を分類ごとにまとめてトポロジ・マップを表示します。
	【円形レイアウト】 円形レイアウトでトポロジ・マップを表示します。
	トポロジ・マップをズームインまたはズームアウトできます。
	ウィンドウに合わせる : トポロジ・マップのサイズを [トポロジ] 表示枠のサイズに合わせて変更します。
	トポロジ・ノードを強調表示 : 実際のステータスのノードのみ、認証済みのステータスのノードのみ、または両方のステータスのノードを強調表示するかどうかを指定します。
	トポロジ マップを全画面表示 : トポロジ・マップを [トポロジ表示] ボックスに表示します。
<トポロジ概要表示>	<p>[トポロジ概要表示] は、表示枠の右上隅に表示されます。 [トポロジ] 表示枠のどの部分にトポロジ・マップを表示するかを示します。これは大型表示の場合、または表示をズームインする場合に有効です。</p> <p>ノードでポリシー・ステータス・インジケータをクリックすると、そのCIのポリシー詳細情報（ポリシー名、ポリシーのソース、そのポリシーに選択したCIのステータスを含む）が表示されます。</p>

[ポリシー詳細] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	<p>[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックスを開きます。</p> <p>注: このボタンは、ポリシー・リストでベースライン・ルールを選択しないと表示されません。</p>
[詳細] 表示枠	[ポリシー リスト] 表示枠で選択したポリシー・ルールの詳細（ルールの名前、説明、タイプ、検証日など）が表示されます。

UI 要素	説明
【ポリシー リスト】 表示枠	選択した CI で定義されているポリシー・ルールがすべて表示されます。各ルールについて、名前、ポリシーのソース、選択したステータスの状態、関連 CI が表示されます。

【コントロールされた自動化】 タブ

このタブは、現在実行中のコントロールされた自動化と、将来の実行がスケジュールされた自動化を表示します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
【計画されているコントロールされた自動化】 表示枠	<p>将来の日付で実行がスケジュールされているすべての自動化を表示します。自動化の実行が開始された後は、[Recent Automations (最近の自動化)] 表示枠に表示されます。</p> <p>それぞれの自動化について、次のデータがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動化の名前。 • 自動化の開始日時と予想される期間。 • キャンセル: クリックすると、計画されている自動化をキャンセルできます。自動化をキャンセルすると、 アイコンが表示されます。自動化は、スケジュールされた開始日時に [最近のコントロールされた自動化] 表示枠に表示され、スケジュールされた実行開始日時の 24 時間後に表示されなくなります。
【最近のコントロールされた自動化】 表示枠	<p>過去 24 時間に実行したすべての自動化を表示します。実行開始後 24 時間経った自動化は、この表示枠には表示されません。</p> <p>それぞれの自動化について、次のデータがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動化の名前。 自動化の名前は、HP Operations Orchestration のフロー実行レポートへのリンクになっています。 • 自動化の開始日時と期間。 <ul style="list-style-type: none"> • 自動化の実行が開始された日時と期間（自動化の実行が完了している場合）。 • 自動化の実行が開始された日時と予想される期間（自動化がまだ実行中の場合）。 • 自動化ステータスを示すアイコン: <ul style="list-style-type: none"> •  不明: ステータス・データが使用できないか、HP Operations

UI 要素	説明
	<p>Orchestration で示されているステータスをシステムが認識できないことを示します。このアイコンは自動化を初めて実行したときに表示され、HP Operations Orchestration から更新ステータスを受け取ると置き換えられます。</p> <ul style="list-style-type: none">  実行中: 自動化の実行中です。  成功: 自動化の実行が成功しました。  成功 (問題あり): 自動化の実行が成功しましたが、問題が発生しました。  失敗: 自動化が失敗しました。  キャンセル済み: 自動化がキャンセルされました。  エラー: 一般エラーを示します。たとえば、HP Operations Orchestration に接続せずに自動化を実行した場合に発生します。

[フィルタ] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
<p>変更された CI</p>	<p>変更ステータスに基づいて CI をフィルタします。【はい】を選択すると、変更のある CI のみがビューに表示されます。【いいえ】を選択すると、変更のない CI のみがビューに表示されます。</p> <p>利用可能な対象: モジュールの検証 / 承認</p>
<p>CI 名</p>	<p>CI 名に基づいて CI をフィルタします。選択した CI のみがビューに表示されます。</p> <p>値ボックスに CI 名を手動で入力するか、【詳細...】をクリックしてダイアログ・ボックスを開き、リストから CI を選択します。</p>
<p>CI タイプ</p>	<p>CI タイプに基づいて CI をフィルタします。選択した CI タイプの CI のみがビューに表示されます。</p> <p>【詳細...】をクリックしてダイアログ・ボックスを開き、リストから利用可能な CI タイプを選択できます。</p>
<p>Has RFCs</p>	<p>選択された CI に RFC が関連付けられているかどうかに従ってフィルタします。</p> <p>利用可能な対象: モジュールの検証 / 承認</p>

UI 要素	詳細
Managed Status	管理ステータスに基づいて CI をフィルタします。選択したステータスの CI のみがビューに表示されます。 [管理対象] または [Not Managed] を選択します。
ポリシー名	それぞれのポリシー名に基づいて CI をフィルタします。選択したポリシーの適用対象となる CI のみがビューに表示されます。 [詳細...] をクリックしてダイアログ・ボックスを開き、リストから利用可能なポリシーを選択できます。
Policies Status	それぞれのポリシー・ステータスに基づいて CI をフィルタします。選択したステータスの CI のみがビューに表示されます。 [ポリシー名] フィールドでポリシーを指定しないと、ビュー内の CI に割り当てられるすべてのポリシーに選択したポリシー・ステータス条件が適用されます。指定した場合は、名前で指定されたポリシーに対してのみ、選択したポリシー・ステータス条件が適用されます。 [違反] または [適合] を選択します。
Related RFCs	特定の RFC タイトルに基づいて CI をフィルタします。 [詳細...] をクリックしてダイアログ・ボックスを開き、リストから関連する RFC 値を選択できます。 利用可能な対象 : モジュールの検証 / 承認

[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ベースライン・ポリシー・ルールに関する CI のポリシー違反の詳細情報が表示されます。

利用方法	下部表示枠の [ポリシー詳細] タブにある [スナップショットのポリシー詳細の表示]  ボタンをクリックします。
重要情報	[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックスが開くのは、ベースライン・ポリシーが適用された CI を選択した場合のみです。このダイアログ・ボックスには、選択したステータス (実際または認証済み) のポリシーの詳細情報が表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	選択した CI について、すべての属性の表示と違反した属性のみの表示を

UI 要素	詳細
	切り替えます。
	リスト内で、次の違反に移動します。
<左の表示枠>	<p>CI の名前とベースラインが表示されます。複合 CI の場合は、矢印をクリックして展開し、コンポーネント CI を表示します。ベースライン値のある CI については、ポリシー違反かどうかアイコンが表示されます。</p> <p>注: CI の属性の中で違反しているものが1つでもある場合や、ベースライン内の CI と一致しない場合、その CI はポリシー違反とみなされます。</p>
<右の表示枠>	左の表示枠で選択した CI について、属性の名前と値、およびベースライン値が表示されます。ベースライン値が指定されている属性については、アイコンによって、選択した CI がその属性に関してポリシーに違反しているかどうか示されます。

[ポリシー ルールの選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、修復する違反ポリシーを選択します。

利用方法	[複合 CI] 表示枠の [ポリシーの修復]  ボタンをクリックします。
関連タスク	「ポリシー違反を修正するための RFC の作成」 (77ページ)
関連情報	「Service Manager」 (216ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
ポリシー名	ドロップダウン・リストから修復対象の違反ポリシーの名前を選択します。選択したポリシーに違反しない CI は破棄されます。
ポリシーに違反するすべての CI の選択	[複合 CI] 表示枠で選択されていない場合でも、選択したポリシーに違反するすべての CI を含めるようにチェック・ボックスを選択します。

[表示するスナップショットの選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、表示するスナップショットを選択します。

利用方法	ツールバーで、スナップショットの選択ボックスのいずれかをクリックします。
-------------	--------------------------------------

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	詳細
<カレンダー>	カレンダーで日付を選択します。
<スナップショットのリスト>	リストには、選択した日付に、選択したビューで取得された、すべてのスナップショットが表示されます。
Authorized By	<p>スナップショットを承認したユーザの名前が表示されます。</p> <p>リストをフィルタし、選択したユーザによって承認されたスナップショットのみを表示するには、ドロップダウン・リストを使用します。</p> <p>【作成者】 フィールドには、ユーザ「Internal Process」が表示されることがあります。これは、内部 Configuration Manager のプロセスによって（ユーザではない）承認が実行され、次のいずれかの状況で発生したことを意味します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビューが管理され、いくつかの CI が承認された最初のとき。 • ユーザがポリシーを追加したとき。 • いくつかの CI を選択したビューと共有する別のビューでユーザが承認を実行したとき。 <p>注: このフィールドは、承認状態のスナップショットの場合にのみ表示されます。</p>
Change Details	スナップショットの簡単な説明です。
コメント	スナップショットに関する注記です。
作成日時	スナップショットを取得した日時です。

[CI のソート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、[複合 CI] 表示枠の CI リストをソートします。

利用方法	[複合 CI のソート]  ボタンを [複合 CI] 表示枠のツールバーでクリックします。
重要情報	CI をソートした後に [更新]  ボタンをクリックすると、変更内容が有効になります。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	[利用可能なソートフィールド] 表示枠から [選択したソートフィールド] 表示枠に、すべてのフィールドを移動します。
	[利用可能なソートフィールド] 表示枠から [選択したソートフィールド] 表示枠に、選択したフィールドを移動します。
	[選択したソートフィールド] 表示枠から選択したフィールドを削除します。
	[選択したソートフィールド] 表示枠からすべてのフィールドを削除します。
	選択したフィールドを [選択したソートフィールド] 内で上下に移動します。
	選択したフィールドごとに [昇順] または [降順] を選択すると、ソートの方向を変更できます。
利用可能なソート・フィールド	CIをソートするフィールドとして選択可能なすべてのフィールド。
選択したソート・フィールド	CIをソートするフィールドとして選択したフィールド。リスト内の順序に基づいてソートされます。

トポロジ・ページ

このページでは、トポロジ・マップを大きな領域に表示します。

利用方法	[トポロジ マップを全画面表示] ボタンを [トポロジ] 表示枠のツールバーでクリックします。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
<トポロジ表示枠のツールバー・ボタン>	[トポロジ] 表示枠のツールバー・ボタンは、[トポロジの表示] ダイアログ・ボックスにもあります。詳細については、「 [トポロジ] 表示枠 (96ページ) 」を参照してください。

トラブルシューティング – Explore Views

- **問題:** RFC を作成するためのボタンが無効化されている。

考えられる理由:

- アクティブ化された構成に対する変更管理統合が無効になっている。
- 変更管理統合が定義されているか、保存されているか、アクティブ化されている状態で、ユーザが Configuration Manager に再度ログインしなかった。

解決策: 次の操作を実行します。

- a. **【管理】 > 【統合】 > 【変更管理】** に移動します。統合を設定するには、チェック・ボックスをオンにして、Service Manager の構成の詳細情報を入力します。
 - b. 構成内容を保存してアクティブ化します。
 - c. 変更内容を有効にするには、いったんログアウトして再度ログインします。
- **問題:** RFC の作成に失敗する。

- **理由 1:** **【管理】 > 【統合】 > 【変更管理】 > 【Service Manager】** で、統合ユーザに対して不正な資格情報が定義されていた。

解決策 1: Service Manager で、統合ユーザが存在していることを検証します。必要に応じて、パスワードを更新します（詳細については、Service Manager のマニュアルを参照してください）。

- **理由 2:** ユーザが Service Manager の Web サービスを呼び出すための適切な資格情報を持っていない。

解決策 2: この統合ユーザに対して、SOAP API を実行するための機能を有効にします（詳細は、Service Manager のマニュアルを参照してください）。

- **理由 3:** この統合の UNL ファイルが Service Manager に読み込まれていない。

解決策 3: UNL ファイルがアップロードされているかを検出するには、次の Service Manager URL を呼び出します。

```
<host>:<port example:13080>/sm/7/ucmdcm.wsdl
```

この呼び出しが XML ファイルを返す場合、web サービスはオンになり、UNL ファイルがアップロードされたことを意味します。そうでない場合は、「[UNL ファイルの Service Manager へのインポート](#)」(125ページ)の指示に従ってください。

- **理由 4:** 少なくとも次の不一致の1つが生じている状態で RFC が作成されている
 - サービスが Service Manager に存在しない。
 - 1つまたは複数の選択した CI が Service Manager に存在しない。
 - カテゴリ値が Service Manager の有効な値と一致しない。
 - リスク・アセスメントの値が Service Manager の有効な値と一致しない。

- インパクトの値が Service Manager の有効な値と一致しない。
- 緊急度の値が Service Manager の有効な値と一致しない。

解決策 4: **【管理】 > 【アプリケーション管理】 > 【RFC】 > 【RFC 作成】** で上記の不一致の可能性のある値をそれぞれ修正し、Service Manager での対応する値と一致するようにします。設定に対する構成を反映するには、保存して、アクティブ化します。

- **問題:** Configuration Manager が RFC を表示しない。

ヒント: 問題が UCMDB にあるのか Service Manager にあるのかを特定するための最初の手順として、UCMDB ですべての RFC を Service Manager から取得する TQL クエリを実行します。RFC が期待されていながらクエリの結果に表れない場合は、UCMDB と Service Manager との間の統合に何らかの問題があることになります。

この TQL クエリを実行するには、次の手順を実行します。UCMDB にログインして **【モデリング】 > 【モデリング スタジオ】 > 【リソース】** タブに移動して (**【リソースタイプ】** として **【クエリ】** を選択) > **【Configuration Manager】 > 【Configuration Manager - Do not modify】 > 【Generate RFC Queries】** で `amber_rfc_by_id` を実行します。

- **理由 1:** UCMDB と Service Manager の間の統合ポイントが正しく構成されていないか存在しない。

解決策 1: UCMDB と Service Manager との間の統合をセットアップする方法の詳細については、UCMDB ドキュメントを参照してください。

- **理由 2:** Configuration Manager 設定の RFC 変更フェースの値が、Service Manager の RFC フェースの定義と一致しない。

解決策 2: Configuration Manager 設定で、RFC 変更フェースのフィールドの値を有効な値 (Service Manager で定義されたもの) に変更します。 **【管理】 > 【アプリケーション管理】 > 【RFC】 > 【取得される RFC 基準】 > 【RFC フィルタ】** に移動して設定を変更します。変更フェースのフィールドには、コンマ区切りで複数の値を含めることができます。設定に対する構成を反映するには、保存して、アクティブ化します。

- **理由 3:** RFC が、RFC を取得するための Configuration Manager 設定で定義された時間ウィンドウの条件を満たしていない。

解決策 3: RFC が Configuration Manager 設定の時間ウィンドウの条件に合致していることを確認するか、RFC が時間ウィンドウに合致するよう条件を変更します。設定に対する構成を反映するには、保存して、アクティブ化します。

- **理由 4:** この統合のために Configuration Manager によって使用された統合ユーザの日付と時間の形式が、Service Manager の対応するユーザの形式と異なっている。

解決策 4: 定義されている時間の形式が両方のユーザ・インスタンスで同じであることを確認します。Configuration Manager では、日付形式の定義が **【管理】 > 【統合】 > 【変更管理】 > 【Service Manager】 > 【日付形式】** で見つかります。

第9章: ベースライン分析

本章の内容

- [ベースライン分析の概要](#) 106
- [比較用の構成モデルの定義](#) 107
- [ベースライン分析のユーザ・インタフェース](#) 108

ベースライン分析の概要

ベースライン分析モジュールでは、管理ビューの複合CIを構成モデルと比較するための環境を作ることができます。構成モデルとは複合CIを記述したもので、トポロジ/階層、複合CIの属性を含んでいます。構成モデルは次のいずれかの方法で作成できます。

- 任意（ユーザが完全に自由にモデリング可能）
- 複合CIから作成（その複合CIが実際にモデル比較の候補かどうかは無関係）
- ベースライン・ポリシーからインポート
- 類似する複合CIのグループに基づく

比較を行うと、この表示枠には複合CIごとにモデルとの一致率が棒グラフで表示されます。一致率は、トポロジおよび各複合CIの属性について、複合CIとモデルを比較することで決定されます。モデルCIで比較項目として属性が選択されていないと、モデルのトポロジのみに基づいて比較を行います。

CI階層のいずれかの属性がモデルの要件に適合しない場合、その複合CIはモデルに違反しているとみなされます。また、どのようなトポロジがモデルに適合しているとみなされるのかを、2つのオプションから選択できます。

- 複合CIのトポロジがモデルのトポロジと同じである場合
- 複合CIのトポロジにモデルのトポロジが含まれる場合

ベースライン分析モジュールの詳細については、「[\[ベースライン分析\] ページ](#) (108ページ)を参照してください。

注:

- このモジュールを使用するには、**ビュー CI** 権限が必要です。
- 選択できるのは、**ビュー**権限、**CM** での**認証**権限または**CM** での**管理**権限があるCIのみです。

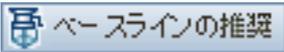
比較用の構成モデルの定義

このタスクでは、選択した複合 CI と比較する構成モデルを定義する方法を説明します。

1. **【分析】 > 【ベースライン分析】** に移動します。次のいずれかの方法で、モデルを作成できます。

- 類似する CI の特定のグループに基づいてモデルを作成するには、次の手順を実行します。
 - 複合 CI を選択するビューのステータスを選択します。選択できるオプションは、**【実際のステータス】** または **【認証済みのステータス】** のいずれかです。
 - **【複合 CI の追加】**  をクリックし、**【複合 CI の追加】** ダイアログ・ボックスを開きます。比較する CI を含むビューを選択し、矢印を使用して CI を **【選択した CI】** 列に移動します。必要に応じて操作を繰り返して CI を追加し、完了したら **【OK】** をクリックします。選択したビューに含まれる CI が 1,000 を超える場合、一番上の矢印ボタンで CI を無作為に選択できます（最大 1,000）。

注: **【分析範囲】** 表示枠で CI を選択してからモデルを作成する場合、選択した CI の中にモデルのタイプと一致しない CI タイプがあると、Configuration Manager によって自動的に削除されます。

- **【ベースライン分析】** のメイン・ツールバーで  **ベースラインの推奨** をクリックします。作成されたモデルは、範囲内のすべての複合 CI に適合しようとします。

注: 選択した CI が十分でなかったり、属性または階層の差が大きすぎたりする場合、選択内容の変更が求められます。

- 特定の CI タイプに基づいてモデルを作成するには、**【構成モデル】** ツールバーで  をクリック（空のベースラインを作成）するか、**【分析範囲】** 表示枠で CI を選択して **【構成モデル】** 表示枠にドラッグ（完全指定のベースラインを作成）して、CI タイプを選択します。
- 管理 CI（必ずしも分析範囲内の CI とは限らない）に基づいてモデルを作成するには、**【構成モデル】** 表示枠で **【事前定義された構成の選択】**  をクリックして、**【管理 CI からモデルを作成】** を選択します。
- ポリシー・モジュールで作成したポリシーに基づいてモデルを作成するには、**【構成モデル】** 表示枠で **【事前定義された構成の選択】**  をクリックし、**【既存のベースライン ポリシーからモデル定義を作成】** を選択します。

2. 属性の横のチェック・ボックスを選択すると、その属性が比較項目として追加されます。選択した属性の値を **【属性値】** 列、演算子を **【演算子】** 列に入力します。属性条件を定義するために使用される演算子のリストについては、**「属性演算子」(188ページ)** を参照してください。

3. メイン・ツールバーで **【分析】**  をクリックすると、比較が実行されます。

ベースライン分析のユーザ・インタフェース

本項の内容

- [\[複合 CI の追加\] ダイアログ・ボックス](#) 108
- [\[ベースライン分析\] ページ](#) 108
- [\[比較詳細\] ダイアログ・ボックス](#) 112
- [\[ベースライン ポリシーの選択\] ダイアログ・ボックス](#) 112
- [\[複合 CI の選択\] ダイアログ・ボックス](#) 113

[複合 CI の追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデル定義で使用する CI を選択します。

利用方法	[複合 CI の追加]  を [分析範囲] 表示枠でクリックします。
重要情報	ビュー権限を持っているビューのみが表示されます。
関連タスク	「比較用の構成モデルの定義」 (107ページ)
関連情報	「ベースライン分析の概要」 (106ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	詳細
<CI のリスト>	左の表示枠には CI 名が表示されます。複合 CI の場合は、CI エントリを展開して個々のコンポーネント CI を表示できます。 右の表示枠には、この CI の属性名と値が表示されます。
フィルタ	リストの CI をフィルタする文字列を入力します。
状態	[Analysis Scope] 表示枠で選択した CI の状態が表示されます。
ビュー	ドロップダウン・リストからビューを選択します。

[ベースライン分析] ページ

このページでは、複合 CI との比較対象となる構成モデルを、管理ビューから作成します。

利用方法	[分析] > [ベースライン分析] を選択します。
------	---

[分析結果] 表示枠

重要情報	分析の実行後、この表示枠の円グラフに、適合する CI の割合と、違反 CI の適合度の内訳が表示されます。
-------------	---

[分析範囲] 表示枠

重要情報	この表示枠では、構成モデルとの比較対象となる複合 CI を選択します。
関連情報	「[比較詳細] ダイアログ・ボックス」(112ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	複合 CI の追加: [複合 CI の追加] ダイアログ・ボックスを開きます。ここでは、複合 CI を選択して分析範囲に追加できます。
	リストから複合 CI を削除: 選択した複合 CI を分析範囲から削除します。
	すべての複合 CI を削除: すべての複合 CI を分析範囲から削除します。
	比較詳細の表示: [比較詳細] ダイアログ・ボックスを開きます。ここでは、ポリシーに違反している CI の属性が表示されます。
<複合 CI 名>	分析範囲に含まれる管理 CI の名前。
類似性の結果	モデルと CI の類似レベルを棒グラフで表示します。
状態	複合 CI が含まれるビューのステータスを選択します。 CI は、ビューの実際のステータスと認証済みのステータスの両方から選択できますが、比較は選択したステータスのみで実行されます。選択したビューのステータスの CI が存在しない場合、テキストが淡色表示になり、分析対象にはなりません。

[構成モデル] 表示枠

重要情報	この表示枠では、構成モデルを作成します。手順としては、モデルに CI タイプを追加し、選択した複合 CI との比較項目となる属性を選択します。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	<p>クリックすると、定義済みの構成を選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 【管理 CI からモデルを作成】 : 既存の CI を選択し、構成モデルとして使用できます。 • 【既存のベースライン ポリシーからモデル定義を作成】 : ポリシーで定義済みの構成モデルを選択できます。
	<p>構成モデルの作成 : [構成モデルに CI タイプを追加] ダイアログ・ボックスを開きます。ここでは、構成モデルに追加できる CI タイプのリストが示されます。CI カウント機能を使用すると、同じタイプの CI を複数追加できます。</p> <p>注: CI は現在選択している CI の下の階層に追加されます。</p>
	<p>選択したアイテムを構成モデルから削除 : 選択した CI を構成モデルから削除できます。</p>
	<p>一致する CI の結果 : 比較した CI が適合と違反に分類されます。</p>
	<p>属性が比較項目であることを示します。</p>
	<p>属性が比較項目であり、システムの照合アルゴリズムで順位が付けられていることを示します。</p>
<p>【属性名】列</p>	<p>選択した CI タイプの属性名。</p>
<p>【属性値】列</p>	<p>選択した CI タイプの属性の値。各属性の値を選択または入力してください。推奨値を表示するには、入力を開始するか下矢印キーを押します。</p>
<p>CI タイプ</p>	<p>選択した CI タイプ。</p> <p>モデルでは、同じタイプの CIT を複数選択することができます。このモードは、共通定義モードと呼ばれます。このモードでは、選択した CIT のうちの 1 つを変更すると、変更内容がすべての CIT に適用されます。</p>
<p>追加の内部 CI を違反とみなす</p>	<p>【追加の内部 CI を違反とみなす】 を選択すると、この構成モデルと比較する CI に追加の内部 CI が存在する場合、ポリシー違反とみなされます。</p>
<p>【一致する CI の結果】列</p>	<p>適合 CI、違反 CI、欠落している CI の数が CI タイプごとに棒グラフで表示されます。カーソルをグラフの上に置くと、割合 (%) がツールチップで表示されます。</p>
<p>【一致の結果】列</p>	<p>モデル内で指定した属性値と一致する複合 CI の数が、選択した属性ごと</p>

UI 要素	説明
	に割合 (%) で表示されます。
【演算子】 列	属性のベースライン値と実際値に必要な関係を定義する演算子を選択します。詳細については、 「属性演算子」(188ページ) を参照してください。

[比較詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI の比較結果に関する詳細情報を表示します。

利用方法	[分析範囲] 表示枠にある 【比較詳細の表示】  をクリックします。
関連タスク	「比較用の構成モデルの定義」(107ページ)
関連情報	「ベースライン分析の概要」(106ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	すべての CI とすべての属性の表示と、選択した複合 CI に違反する属性と CI のみの表示を交互に切り替えます。
	現在の複合 CI 内の次の違反に移動します。
<左の表示枠>	CI 名と CI それぞれのモデルが表示されます。複合 CI の場合は、矢印をクリックして展開し、コンポーネント CI を表示します。モデル値が指定されている各 CI については、アイコンによって、ポリシーに違反しているかどうかを示されます。 注: CI は、その属性の 1 つがポリシーに違反している場合やモデル内の CI と一致しない場合に、ポリシー違反とみなされます。
<右の表示枠>	左の表示枠で選択した CI について、属性の名前と値、およびベースライン値が表示されます。ベースライン値が指定されている属性については、アイコンによって、選択した CI がその属性に関してポリシーに違反しているかどうかを示されます。

[ベースラインポリシーの選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデル定義に使用するベースラインを持つ既存のベースライン・ポリシーを選択できます。

利用方法	[構成モデル] 表示枠で  をクリックして、[既存のベースラインポリシーからモデル定義を作成] を選択します。
関連タスク	「比較用の構成モデルの定義」 (107ページ)
関連情報	「ベースライン分析の概要」 (106ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
ポリシー名	モデルのベースラインに使用できる定義済みベースライン・ポリシーのリストを表示します。
ポリシー・ステータス	リストの各ポリシーについて、ポリシーに適合または違反する CI の割合を表示します。

[複合 CI の選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデル定義で使用する CI を選択します。

利用方法	[構成モデル] 表示枠で  をクリックし、[管理 CI からモデルを作成] を選択します。
重要情報	モデル定義のために特定の CI を選択すると、範囲内の CI のタイプが選択した CI のタイプと一致しない場合、その範囲の CI は削除されます。 ユーザがビュー権限を持っているビューのみが表示されます。
関連タスク	「比較用の構成モデルの定義」 (107ページ)
関連情報	「ベースライン分析の概要」 (106ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
<CI のリスト>	選択しビュー内の CI の名前およびタイプのリスト。モデル CI として使用する CI を 1 つ選択します。
フィルタ	リストの CI をフィルタする文字列を入力します。
状態	[実際] または [承認] を選択します。
ビュー	ドロップダウン・リストからビューを選択します。

第10章: セグメント分析

本章の内容:

- [セグメント分析の概要](#)114
- [類似するCIのグループを含むCIの選択](#) 115
- [セグメント分析のユーザ・インタフェース](#) 115

セグメント分析の概要

セグメント分析モジュールでは、CIセグメント（類似する構成を持つCIのグループ）を作成できません。

関連するCI一致ルールを定義するために、HP Universal CMDBのCIタイプ・マネージャを使用します。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』の「[一致ルール] ページ」を参照してください。属性が必須の一致する属性として指定されていて、厳密な一致が見つからない場合、コンポーネントCIは同じセグメントの一部としては見なされません。

CIを入力として選択し、作成した各セグメントのCI間の類似性レベルを指定します。CIを入力として選択する際に、それらのCI間に特定の類似性が存在する必要はありません。セグメントのリストは自動的に生成され、各セグメントの構成モデルが作成されます。入力として選択した各CIは、作成されたセグメントのいずれかの構成要素になります。

セグメントを選択してベースライン分析モジュールで分析したり、その中に含まれているCIを別のモデルのベースとして使用したりすることができます。

セグメント分析モジュールの詳細については、「[\[セグメント分析\] ページ](#) (118ページ)を参照してください。

注:

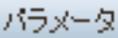
- Advanced ライセンスを購入しない限り、このモジュールにはアクセスできません。適切なライセンスを入手するには、HPの営業担当またはHP ソフトウェア・ビジネス・パートナーに連絡してください。
- このモジュールを使用するには、**ビュー CI** 権限が必要です。
- **ビュー** 権限を持っているビューのみが表示されます。

類似する CI のグループを含む CI の選択

このタスクでは、類似する CI のグループを検索する際の CI の選択方法を説明します。

1. **【分析】 > 【セグメント分析】** に移動します。
2. 比較用に CI を選択するビューのステータスを選択します。選択できるオプションは、**【実際のステータス】** または **【認証済みのステータス】** のいずれかです。
3. **【複合 CI の追加】**  をクリックし、**【複合 CI の選択】** ダイアログ・ボックスを開きます。手順 2 で選択したステータスから CI が選択されます。最大 1,000 の複合 CI を選択できます。

注: 同じタイプの CI を選択する必要があります。

4. **パラメータ**  をクリックして、セグメント・サイズのパラメータを目的の値に設定し、セグメントの範囲を定義します。
 - 低い値を選択すると多数の小さいセグメントが作成され、それらのセグメントの中の複合 CI の類似性が高くなります。
 - 高い値を選択すると少数の大きなセグメントが作成され、それらのセグメントの中の複合 CI の差異が大きくなります。
5. **セグメントの分析**  をクリックし、セグメントを作成します。
6. 結果をレビューします。セグメント・リストに、各セグメントの名前、セグメント内の複合 CI の数とモデルに対する平均的な類似性レベルが表示されます。リスト (**【セグメントリスト】** 表示枠) または円グラフ (**【セグメント結果】** 表示枠) でセグメントをクリックし、**【構成モデル】** 表示枠でモデルを表示します。
7. セグメントの内容をさらに分析するには、セグメント・リストでセグメントを選択して **【選択したセグメントのベースライン分析の表示】**  をクリックします。ベースライン分析モジュールが表示され、選択したセグメントがモデルとして使用されています。

注: この時点でベースライン分析モジュールで変更を加えても、セグメント分析モジュールには反映されません。たとえば、ベースライン分析モジュールの分析範囲で CI の削除や追加を行っても、セグメント分析モジュールのセグメントや範囲では削除も追加もされません。

セグメント分析のユーザ・インタフェース

本項の内容

- **【複合 CI の追加】** ダイアログ・ボックス 116

- [\[CI 詳細\] ダイアログ・ボックス](#)116
- [\[比較詳細\] ダイアログ・ボックス](#) 117
- [\[セグメント分析\] ページ](#) 118
- [\[セグメントパラメータ\] ダイアログ・ボックス](#)120

[複合 CI の追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデル定義で使用する CI を選択します。

利用方法	[複合 CI の追加]  を [分析範囲] 表示枠でクリックします。
重要情報	<ul style="list-style-type: none"> • ビュー権限を持っているビューのみが表示されます。 • 定義には、同じタイプの CI のみ選択できます。
関連タスク	「類似する CI のグループを含む CI の選択」 (115ページ)
関連情報	「セグメント分析の概要」 (114ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	詳細
<CI のリスト>	左の表示枠には CI 名が表示されます。複合 CI の場合は、CI エントリを展開して個々のコンポーネント CI を表示できます。 右の表示枠には、この CI の属性名と値が表示されます。
フィルタ	リストの CI をフィルタする文字列を入力します。
状態	[Analysis Scope] 表示枠で選択した CI の状態が表示されます。
ビュー	ドロップダウン・リストからビューを選択します。

[CI 詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI の比較結果に関する詳細情報を表示します。

利用方法	[分析範囲] 表示枠にある [CI 詳細の表示]  をクリックします。
関連タスク	「類似する CI のグループを含む CI の選択」 (115ページ)
関連情報	「セグメント分析の概要」 (114ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	選択した CI の属性すべての表示と、管理属性のみの表示と、選択した CI の属性すべての表示を切り替えます。デフォルトでは、管理属性のみ表示されます。
CI 名	選択した CI の名前が表示されます。
属性名	選択した CI 用にモデリングされている属性が一覧表示されます。
値	選択した属性に現在割り当てられている値が表示されます。

[比較詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI の比較結果に関する詳細情報を表示します。

利用方法	[分析範囲] 表示枠にある [比較詳細の表示]  をクリックします。
関連タスク	「類似する CI のグループを含む CI の選択」 (115ページ)
関連情報	「セグメント分析の概要」 (114ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

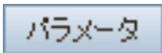
UI 要素	詳細
	すべての CI とすべての属性の表示と、選択した複合 CI に違反する属性と CI のみの表示を交互に切り替えます。
	現在の複合 CI 内の次の違反に移動します。
<左の表示枠>	CI 名と CI それぞれのモデルが表示されます。複合 CI の場合は、矢印をクリックして展開し、コンポーネント CI を表示します。モデル値が指定されている各 CI については、アイコンによって、ポリシーに違反しているかどうかを示されます。 注: CI は、その属性の 1 つがポリシーに違反している場合やモデル内の CI と一致しない場合に、ポリシー違反とみなされます。
<右の表示枠>	左の表示枠で選択した CI について、属性の名前と値、およびベースライン値が表示されます。ベースライン値が指定されている属性については、アイコンによって、選択した CI がその属性に関してポリシーに違反しているかどうかを示されます。

[セグメント分析] ページ

このページでは、環境内の類似するCIのグループを検索できます。

利用方法	[分析] > [セグメント分析] を選択します。
重要情報	<p>[セグメント分析] ページには次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分析範囲 セグメント・リストおよびセグメント結果 (グラフ形式) 構成モデル <p>[分析範囲] 表示枠では、セグメントの作成に使用する複合CIを選択します。完了したら、[セグメントの分析] をクリックします。</p> <p>データを変更しても、分析結果は動的には更新されません。分析範囲または次に示すパラメータに変更を加えるたびに、[セグメントの分析] を再度クリックしてグループを作成し直す必要があります。</p>
関連タスク	「類似するCIのグループを含むCIの選択」 (115ページ)
関連情報	「セグメント分析の概要」 (114ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	新しいモデルの作成 : 選択したすべての値とセグメントをクリアします。
	パラメータ : [セグメントパラメータ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、 「[ビューの調査] ページ」 (93ページ) を参照してください。
	セグメントの分析 : 選択したCIに基づいてセグメントを作成します。

[分析範囲] 表示枠

重要情報	この表示枠で、セグメントの作成に使用する複合CIを選択します。
関連情報	「[CI詳細] ダイアログ・ボックス」 (116ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	複合 CI の追加: [CI 詳細] ダイアログ・ボックスが開き、分析範囲に追加する複合 CI を選択できます。
	リストから複合 CI を削除: 選択した複合 CI を分析範囲から削除します。
	すべての複合 CI を削除: すべての管理 CI を分析範囲から削除します。
	CI 詳細の表示: [CI 詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択した CI の詳細を表示します。
<複合 CI 名>	[分析範囲] に含まれる複合 CI の名前。
セグメント ID	複合 CI の割り当て先セグメントの名前を表示します。
状態	複合 CI が含まれるビューのステータスを選択します。 CI は、ビューの実際のステータスと認証済みのステータスの両方から選択できますが、セグメント化は選択したステータスのみで実行されます。選択したビューのステータスの CI が存在しない場合、テキストが淡色表示になり、セグメント化対象にはなりません。

[構成モデル] 表示枠

重要情報	この表示枠には、選択したセグメントのために生成された構成モデルが表示されます。モデルの CI を選択して、定義されている属性を表示します。モデルに対して選択されていない属性はグレー表示されます。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
属性名	選択した CI タイプの属性名。
属性値	選択した CI タイプの属性の値。
CI タイプ	選択した CI タイプ。
演算子	モデルの属性と複合 CI の属性に必要な関係。詳細については、「 属性演算子 」(188ページ)を参照してください。

[セグメント リスト] 表示枠

重要情報	セグメントの作成後、この表示枠に作成されたセグメントが一覧表示さ
-------------	----------------------------------

	れます。
--	------

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	選択したセグメントのベースライン分析の表示: [ベースライン分析] ページに移動します。ここでは、モデルを編集したり保存したりすることができます。
平均類似性	セグメントの CI とそのセグメントの構成モデルの類似性の平均割合。
CI 数	各セグメントの CI 数。
【演算子】列	属性と属性値の関係を定義する属性です。詳細については、 「属性演算子」(188ページ) を参照してください。

[セグメント結果] 表示枠

重要情報	セグメントの作成後、この表示枠の円グラフに、作成された CI のグループが選択したセグメント・サイズに基づいて表示されます。
-------------	--

[セグメントパラメータ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、推奨されるセグメントの構成要素になる選択した CI の詳細レベルと範囲を指定します。

利用方法	[セグメント分析] ページの [パラメータ] をクリックします。
関連タスク	「類似する CI のグループを含む CI の選択」(115ページ)
関連情報	「セグメント分析の概要」(114ページ)

UI 要素	詳細
類似性レベル	<p>[類似性レベル] 設定には、セグメント内の CI の類似性レベルを指定します。次のスケールが表示されます。</p> <div data-bbox="532 1556 1260 1654" data-label="Figure"> </div> <p>値を小さくするとセグメントに含まれる CI の差異が大きくなり、値を大きくするとセグメントに含まれる CI の類似性が高くなります。</p>
構成モデル範囲の定義	モデルに表示する必要がある CI タイプと属性を指定します。デフォルトでは、選択した CI のすべてのコンポーネントと属性がモデルの構成要素

UI 要素	詳細
	<p>になります。特定のコンポーネントをモデルの構成要素にしない場合は、そのコンポーネントの横にあるチェック・ボックスの選択を解除します。</p> <p>コンポーネントをモデルから削除すると、そのすべての属性も自動的にモデルから削除されます。[属性名]の横にあるタイトル・バーのチェック・ボックスの選択を解除すると、コンポーネントをモデルに含めることができますが、そのすべての属性が削除されます。また、これらのチェック・ボックスの選択を解除すると、選択した属性を削除できます。</p>

第11章: レビュー/認証

本章の内容

- [レビュー/認証の概要](#) 122
- [Service Manager との統合](#) 123
- [レポート](#) 124
- [CI の変更の認証](#) 124
- [UNL ファイルの Service Manager へのインポート](#) 125
- [外部アプリケーションの起動](#) 126
- [レビュー/認証のユーザ・インタフェース](#) 126
- [トラブルシューティング - レビュー/認証](#) 139

レビュー/認証の概要

レビュー/認証モジュールでは、ビューのレビューや変更の認証を行うことができます。レビュー/認証では、実際のステータスまたは認証済みのステータスのビューに現在含まれている CI がすべて表示されます。たとえば、アプリケーション所有者がアプリケーション・サービス・ツリーで発生した変更を追跡して確認しようとする場合があります。[複合 CI] 表示枠と [トポロジ] 表示枠では、ビューに追加された CI、ビューから削除された CI、2つのステータス間で更新された CI がそれぞれのアイコンで示されます。アイコンの詳細については、「[\[複合 CI\] 表示枠](#) (132ページ)を参照してください。

認証プロセスでは、まず認証する変更を分析 (レビュー) します。変更のタイプと性質、新規ポリシー違反の有無、関連する RFC の有無を確認します。変更済みのマークが付いている CI から認証する変更を選択します。[認証] をクリックすると、選択したすべての変更の認証が行われます。認証が終わると、選択した変更によって認証ステータスが更新され、ビューのスナップショットが保存されます。手動による認証の詳細については、「[CI の変更の認証](#) (124ページ)を参照してください。

自動ステータス遷移機能を使用すると、ビューを自動的に認証できます。ビューのすべての管理 CI に対して自動ステータス遷移ルールが検証され、これらのルールに適合する場合は CI の変更が自動的に認証されます。詳細については、「[自動ステータス遷移](#) (168ページ)を参照してください。

変更の認証 (手動または自動のステータス遷移) 前に、Configuration Manager では、変更の認証結果として削除される可能性がある CI に他の CI が依存していないかが確認されます。次の場合、認証中に警告通知が表示されます。

- あるビュー内の CI の削除によって別のビュー内の依存する CI が削除される場合。
- CI の削除によって別のビュー内の複合 CI のコンポーネントである CI が削除される場合。

- 削除対象の CI が別のビューに関係を持っている場合。
- あるビュー内の変更の認証によって別のビューにポリシー違反が発生する場合。

注: レビュー/認証モジュールにアクセスするには、次のいずれかの権限が必要です。

- [ビュー] 権限では、変更を選択してレビューできます。
- **CM での認証**権限では、変更をレビューして認証できます。

Service Manager との統合

Configuration Manager では、UCMDB から Service Manager に認証済みステータスまたは実際のステータスの CI をプッシュできます。ServiceManagerAdapter9.x アダプタを使用して UCMDB に新しい統合ポイントを作成する場合、どのステータス・データからプッシュするかを選択できます。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[新規統合ポイント] / [統合ポイントの編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。ただし、UCMDB のデータ・フロー・モジュールにアクセスできるのは、実際のステータスで Configuration Manager にログインしているときのみです。

統合をセットアップする場合、**cm4sm.unl** ファイルを Service Manager に読み込む必要があります。このファイルを使用すると、Service Manager と Configuration Manager 間の統合を可能にするサービスを有効にできます。詳細については、「[UNL ファイルの Service Manager へのインポート](#)」(125 ページ)を参照してください。

計画変更と計画外変更の両方が、認証前に考慮されます。次のいずれかのシナリオが可能です。

- 計画変更 - 検出された変更用に 1 つ以上の関連する RFC がすでに開かれています。認証すると、関連する RFC が検証されます。
- 計画外変更 - 変更用にまだ RFC が開かれていません。
 - 変更が CI に影響を与えない場合（この CI の検出パターンが変更された場合など）、RFC を作成せずに変更を認証できます。
 - CI またはその属性に実際の変更が行われている場合、Configuration Manager を使用して RFC を作成できます。

オフライン分析プロセスの一環として、Configuration Manager では、変更された CI に関連する RFC がチェックおよび格納されます。次の CI が RFC に対してチェックされます。

- 変更された CI
- 変更された CI のコンテナ
- 変更された CI の関係

管理ビュー内の各 CI について、分析プロセスでは、CI に関連する RFC があるかどうかチェックされます。CI に関連する RFC がない場合、上位 CI で RFC のクエリが行われ、上位 CI に RFC がない場合、接続されている CI がチェックされます。

同じ RFC を複数の CI に関連付けることができ、1 つの CI を複数の RFC に関連付けることもできます。たとえば、あるビューのホストに RFC があった場合、同じ RFC が他のビューのそのホストに関連付けられます。

Configuration Manager の CI と Service Manager の RFC 間では、次の 4 つの関係が考えられます。

- 直接 - CI に RFC との直接関係があります。
- コンテナ - CI のコンテナに RFC に対する関係があります。
- 手動 - RFC が変更された CI に対して手動で作成されています。
- 関係 - お互いに関連する複数の CI が同じ RFC に関連付けられています。

RFC の作成の詳細については、次を参照してください。

- [「特定 CI の RFC を作成」 \(78ページ\)](#)
- [「ポリシー違反を修正するための RFC の作成」 \(77ページ\)](#)
- [「\[変更をロールバックするための RFC の作成\] ダイアログ・ボックス」 \(128ページ\)](#)

レポート

Configuration Manager には、定義済みポリシーに違反している CI に関する情報を含むビューのポリシー情報をエクスポートする機能があります。違反 CI の原因として次の理由が考えられます。

- ベースライン条件を満たさない CI
- 欠落 CI
- 複合 CI 内の追加 CI

注: 違反 CI に関する情報は、.pdf 形式でエクスポートされるレポートには含まれません。

レポートでは、ビューの 2 つのステータス間の CI のポリシー・ステータスを比較します。少なくとも 1 つのステータスに違反がある場合、詳細情報が属性レベルまで表示されます。レポートには、違反の原因、各ステータスでの違反 CI または属性のステータスが表示されます。

CI の変更の認証

このタスクでは、複合 CI の変更を認証する方法を説明します。

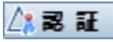
CI の変更には、次のものがあります。

- CI のすべての属性の変更 (個々の属性の変更は認証できません)
- CI の追加または削除
- 内向きの関係の変更
- 外向きの関係の変更

変更を認証するには、次の手順を実行します。

1. レビュー/認証モジュールの [複合 CI] 表示枠に、変更が発生した CI のエントリが表示されます。各チェック・ボックスの左にある小さな矢印をクリックすると CI エントリが展開し、CI の変更が1行ずつ表示されます。
2. 変更内容をレビューしたら、認証する変更のチェック・ボックスを選択します。

注: CI のチェック・ボックスを選択すると、その CI の変更内容がすべて自動的に選択されます。

3. 変更のレビューを完了したら、次のいずれかの操作を実行します。
 - [認証]  をクリックして選択した計画変更を認証し、既存の RFC を検証します。変更の認証が開始されることを示すメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。
 - [選択した変更のロールバック RFC を作成]  をクリックして、選択した各 CI に対する RFC インシデント・チケットを作成します。
必要な情報を入力して [送信] をクリックします。詳細については、「[\[変更をロールバックするための RFC の作成\] ダイアログ・ボックス](#) (128ページ)を参照してください。

注: 認証には時間がかかる場合があります。認証中も、他のビューの作業は続行できます。

ビューを更新すると、認証済みのステータスになります。

UNL ファイルの Service Manager へのインポート

このタスクでは、Service Manager と Configuration Manager 間の統合を有効にするサービスをアクティブ化するために、**cm4sm.unl** UNL ファイルを Service Manager にアップロードする方法を説明します。

UNL ファイルをインポートするには、次の手順を実行します。

1. Service Manager で、**[メニュー ナビゲーション] > [カスタマイズ] > [データベース マネージャ]** をクリックします。
2. **[詳細]** ボタンをクリックして、**[インポート/ロード]** を選択します。
3. HP Service Manager の **[ファイルのロード/インポート]** ページで、**[ファイルを指定]** をクリックし、**<Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>/adapters/sm/cm4sm.unl** を選択します。
ファイル・ブラウザ経由でファイルが読み込まれます。
4. **[インポートの説明]** ボックスに説明を入力します。
5. **[ファイル タイプ]** リストで **winnt** を選択します。
6. 表示オプションを選択します。
7. **[フォアグラウンドでロード]** をクリックして、読み込みを開始します。

外部アプリケーションの起動

Configuration Manager には、UCMDB CI または UCMDB ビューのコンテキストで任意のアプリケーション・ユーザ・インタフェースを起動することができる、汎用 UI 統合を設定するメカニズムが追加されています。たとえば、一部の CI で検出された問題に関連した新しいディスカッションを開いたり、UCMDB を起動して選択した CI の CI プロパティを表示したりするために、HP Enterprise Collaboration ユーザ・インタフェースを起動できます。この機能は [検証 / 承認] と [Explore Views] モジュールで利用できます。

注: 外部アプリケーションと統合できるようにするため、すべてのアプリケーションを LW-SSO で設定し、同じユーザ管理システムを使用することをお勧めします。これにより、外部アプリケーションごとにユーザ名を入力してログインする必要がなくなります。

外部アプリケーションを起動するには、次の手順を実行します。

1. 開くアプリケーションの URL を指定します。例:

```
http://<UCMDB サーバ・マシンまたは IP アドレス>:8080/ucmdb-ui/cms/  
directAppletLogin.do?cmd=ShowProperties&objectId=  
${ucmdbid}&navigation=false&interfaceVersion=9.0.0
```

この例の場合、\${ucmdbid} は選択した (UCMDB に表示される) 複合 CI の ID で置き換えられます。

詳細については、[「UI 統合」\(219ページ\)](#)を参照してください。

注: ボタンが表示されるようにするには、この手順を実行する必要があります。

2. 検証 / 承認モジュールまたは Explore Views モジュールで をクリックします。

設定したアプリケーションがブラウザ・ウィンドウで開かれます。

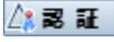
レビュー/認証のユーザ・インタフェース

本項の内容

- [\[選択した差異の認証\] ダイアログ・ボックス](#) 127
- [\[CI 詳細\] ダイアログ・ボックス](#) 127
- [\[変更をロールバックするための RFC の作成\] ダイアログ・ボックス](#) 128
- [\[ポリシー詳細\] ダイアログ・ボックス](#) 130
- [\[レビュー/認証\] ページ](#) 130
- [\[CI のソート\] ダイアログ・ボックス](#) 137
- [\[トポロジの表示\] ダイアログ・ボックス](#) 138

[選択した差異の認証] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、認証する特定の変更を選択します。

利用方法	[レビュー/認証] モジュールの左の表示枠にある [認証]  をクリックします。
重要情報	<p>[送信] をクリックすると、提案された変更が認証されます。これにより、CI の実際のステータスが認証済みのステータスになります。</p> <p>[設定] ページの [変更管理統合を有効にする] チェック・ボックスが有効になっている場合、選択した RFC の検証が変更管理システムにログ記録されます。このチェック・ボックスが選択されていない場合、変更はレポートの作成時にのみ記録され、RFC は変更管理システムで検証されません。</p> <p>注: CI の親がビューに含まれていないと、CI は認証できません。</p>
関連タスク	「CI の変更の認証」 (124ページ)
関連情報	<ul style="list-style-type: none"> • 「レビュー/認証の概要」 (122ページ) • 「変更管理」 (211ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	詳細
<提案された変更付きの CI のリスト>	<p>[複合 CI] 表示枠で認証の対象として表示した変更のリスト。</p> <p>リスト内の各 CI について、関連する RFC のリストが表示されます。変更管理システムにログ記録する特定の変更について、関連する RFC チェック・ボックスを選択します。</p>

[CI 詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI の詳細情報を表示します。

利用方法	[複合 CI の詳細の表示]  をクリックするか、[複合 CI] 表示枠または [トポロジ] 表示枠で CI をダブルクリックします。
関連タスク	「CI の変更の認証」 (124ページ)
関連情報	「レビュー/認証の概要」 (122ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	差異のみを表示 : 2つのステータス間で値が異なる属性のみを表示します。
	次の相違 : リスト内にある次の複合 CI に移動します。
	すべての詳細を表示 : [属性] タブでは、管理属性のみの表示と、選択した CI の属性すべての表示を切り替えることができます。デフォルトでは、管理属性のみ表示されます。
	値が一致しません : 2つのステータス間で異なる値を示します。
【属性】 タブ	左の表示枠に CI 名を表示します。複合 CI の場合は、CI エントリを展開して個々のコンポーネント CI を表示できます。 右の表示枠には、この CI の属性名と値が表示されます。実際の属性値と認証済みの属性値の両方が表示されます。
【内向きの関係】 タブ	選択した CI について、内向きの関係をすべて表示します。 複合 CI の場合は、CI エントリを展開して個々のコンポーネント CI を表示できます。コンポーネント CI を 1 つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログ・ボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。
【外向きの関係】 タブ	選択した CI について、外向きの関係をすべて表示します。 複合 CI の場合は、CI エントリを展開して個々のコンポーネント CI を表示できます。コンポーネント CI を 1 つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログ・ボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。

[変更をロールバックするための RFC の作成] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、計画外変更と不要な変更に関する RFC を作成します。この変更は Service Manager で検証されます。

利用方法	CI を 1 つ以上選択し、レビュー/認証モジュールの [複合 CI] 表示枠にある  をクリックします。
重要情報	タイトルを入力し、計画外変更用に作成中の RFC の関連情報を選択します。

	[送信] をクリックすると、RFC が作成されるので、手動で選択した CI に関連付けます。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> 「CI の変更の認証」(124ページ) 「UNL ファイルの Service Manager へのインポート」(125ページ)
関連情報	<ul style="list-style-type: none"> 「レビュー/認証の概要」(122ページ) 「Service Manager」(216ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
影響を受ける CI	[複合 CI] 表示枠で承認を得るためにマークされた変更のリストです。
カテゴリ	表示されるカテゴリ値のリスト（[設定] モジュールで設定）からカテゴリを選択します。詳細については、「RFC 作成」(215ページ)を参照してください。
詳細	CI と、各 CI で実行する必要がある必須アクションのリストです。 CI を1つ選択した場合は、自動生成される説明が表示されます。
影響	表示される値のリスト（[設定] モジュールで設定）から、変更が及ぼす影響の最大範囲を選択します。詳細については、「RFC 作成」(215ページ)を参照してください。
要求終了日	RFC の実行期限となる日付です。
リスク評価	表示される値のリスト（[設定] モジュールで設定）から、変更された CI のリスク・レベルを選択します。詳細については、「RFC 作成」(215ページ)を参照してください。
Service	CI で利用可能なサービスのリストです。
タイトル	RFC のタイトルを入力します（たとえば、要求された変更の短いサマリ）。
緊急度	表示される値のリスト（[設定] モジュールで設定）から、CI の変更の緊急度レベルを選択します。詳細については、「RFC 作成」(215ページ)を参照してください。

[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ベースライン・ポリシー・ルールに関するCIのポリシー違反の詳細情報が表示されます。

利用方法	[比較詳細] 表示枠にある [複合 CI の詳細の表示]  をクリックします。
重要情報	[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックスが開くのは、ベースライン・ポリシーが適用されたCIを選択した場合のみです。 アイコンの横にある小さな矢印をクリックし、ポリシー詳細として実際のステータスまたは承認済みのステータスのいずれかを選択します。
関連情報	「ポリシー」(12ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	違反のみ表示 : 選択したCIについて、すべての属性の表示と違反した属性のみの表示を切り替えます。
	次のコンポーネント違反 : リスト内で、次の違反に移動します。
<左の表示枠>	CIの名前とベースラインが表示されます。複合CIの場合は、矢印をクリックして展開し、コンポーネントCIを表示します。ベースライン値のあるCIについては、ポリシー違反かどうかアイコンで表示されます。 注: CIの属性の中で違反しているものが1つでもある場合や、ベースライン内のCIと一致しない場合、そのCIはポリシー違反とみなされます。
<右の表示枠>	左の表示枠で選択したCIについて、属性の名前と値、およびベースライン値が表示されます。ベースライン値が指定されている属性については、アイコンによって、選択したCIがその属性に関してポリシーに違反しているかどうか示されます。

[レビュー/認証] ページ

このページでは、実際のステータスのビューを表示し、認証する変更を選択します。

利用方法	[変更] > [レビュー/認証] を選択します。
-------------	--

<p>重要情報</p>	<p>[レビュー/認証] ページには次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 複合 CI: ビューに含まれる CI のリストを表示します。リスト内では、実際のステータスと認証済みのステータスを比較し、各 CI で発生した変更のタイプをアイコンで示します。 • トポロジ: ビューに含まれる CI のトポロジ・マップを表示します。マップ内では、実際のステータスと認証済みのステータスを比較し、各 CI で発生した変更のタイプをアイコンで示します。トポロジ・マップ内の各ノードには、名前、CI タイプ、管理ステータス、変更タイプ、現在と前回のポリシー・ステータス（関連する場合）が表示されます。 <p>注: インベントリ・モードでの [トポロジ] 表示枠は、[関連 CI] と呼ばれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 比較詳細: 選択した CI の変更の詳細が表示されます。タブをクリックすると、選択した CI の変更の詳細情報が表示されます。 • フィルタ: インベントリ・モードでは、[フィルタ] 表示枠で複合 CI リストをフィルタできます。詳細については、「[フィルタ] 表示枠 (99ページ)」を参照してください。 <p>[複合 CI] 表示枠で CI の横にあるチェック・ボックスをクリックして、認証する変更を選択します。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「CI の変更の認証」 (124ページ)</p>
<p>関連情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「レビュー/認証の概要」 (122ページ) • 「[CI 詳細] ダイアログ・ボックス」 (127ページ)

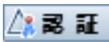
ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	<p>ビューの選択: 別のビューを [レビュー/認証] ページで開くことができます。</p>
	<p>表示をインベントリ・モードに変更: 選択したビューの表示をインベントリ・モードに変更します。</p>
	<p>表示をトポロジ・モードに変更: 選択したビューの表示をトポロジ・モードに変更します。</p>
	<p>レポートのエクスポート: エクスポートするレポートとデータのエクスポート形式を選択します。</p> <p>次のレポートを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 変更レポート

UI 要素	詳細
	<ul style="list-style-type: none"> • ポリシー分析レポート 次の形式オプションを選択できます。 • Excel : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .XLS (Excel) ファイル形式に整形されます。 • PDF : テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。 • CSV : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。 <p>レポートへの出力の生成時には、現在適用されているフィルタが考慮されます。</p>
	更新 : CI リストを更新します。

[複合 CI] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
	すべて選択 : 選択したビューのすべての CI エントリを選択します。
	すべてクリア : 選択したビューのすべての CI エントリをクリアします。
	複合 CI のソート : [CI のソート] ダイアログ・ボックスが開きます。ここでは、さまざまなソート・フィールドで CI リストをソートできます。
	複合 CI の詳細の表示 : [CI 詳細] ダイアログ・ボックスを開きます。ここでは、選択した CI の管理対象属性が表示されます。
	<p>選択した変更を認証 : 選択した変更が認証され、ステータスが「認証済み」に変わります。</p> <p>注 : リスト内で CI (変更済み) を選択しないと、このボタンは有効になりません。</p>
	起動 : 選択した CI またはビューのコンテキストで開く外部アプリケーションを選択できます。外部アプリケーションを選択するには  をクリックします。[設定] ページで、表示する URL を指定する必要があります。詳細については、 「UI 統合」(219ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
	強調表示された CI の RFC を作成します。
	選択した変更に対するロールバック RFC を作成します。
	選択した CI のコンテキストで UCMDB Browser が開きます。
	選択した CI がビューに追加されたことを示します。
	選択した CI がビューから削除されたことを示します。
	選択した CI が更新されたことを示します。
	実際のステータスで、CI が1つ以上のポリシーに違反していることを示します。
	認証済みのステータスで、CI が1つ以上のポリシーに違反していることを示します。
	実際のステータスで、CI がすべてのポリシーに適合していることを示します。
	認証済みのステータスで、CI がすべてのポリシーに適合していることを示します。
	この CI に関連する1つ以上の変更要求 (RFC) があることを示します。
<CI のリスト>	<p>ビュー内に現在含まれている CI と、これまでに含まれていた CI がすべて一覧表示されます。CI の右に表示されるアイコンは、CI とポリシー・ステータスに変更が発生したことを示します。CI の横の三角形をクリックすると、変更の内容が別の行に表示されます。</p> <p>リスト内の CI の上にポインタを置くと、CI の名前とタイプを含んだツールチップが表示されます。</p> <p>CI の横にアイコンがない場合、その CI には変更が発生していないことを示します。</p> <p>変更を選択してから横のチェック・ボックスを選択すると、認証の対象としてマークされます。</p>

[比較詳細] 表示枠

重要情報	[複合 CI] 表示枠または [トポロジ] 表示枠で CI を選択すると、その CI のデータを含むタブにはアスタリスク (*) が表示されます。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<p>【変更された属性】 タブ</p>	<p>左の表示枠には、CI名と変更タイプのアイコンが表示されます。複合CIの場合は、属性が変更された複合CIが表示されます。</p> <p>右の表示枠には、左の表示枠で選択したCIの属性名と、実際の属性値および認証済みの属性値が表示されます。</p>
<p>【変更された外向きの関係】 タブ</p>	<p>左の表示枠には、選択したCIが外向きの関係を持っているCIが表示されます。矢印をクリックすると各エントリが展開し、複合CIの関係が表示されます。各関係のタイプと、変更のタイプを示すアイコンが表示されます。</p> <p>右の表示枠には、左の表示枠で選択した関係について、ソース、ターゲット、方向が表示されます。</p>
<p>【ポリシー詳細】 タブ</p>	<p>【Policy List】 表示枠には、ポリシー・ルールごとに次のデータが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシー・ルールの名前 • ポリシーのソースである外部製品（存在する場合） • 実際のステータスでのルール・ステータス • 認証済みのステータスでのルール・ステータス • 関連CI <p>【詳細】 表示枠には、ルール名、説明、タイプ、検証日付など、【Policy List】 表示枠で選択したポリシー・ルールの詳細が表示されます。</p> <p>注: ステータス・バーは、認証済みのステータスのCIを含む連合ポリシーには表示されません。</p>

UI 要素	説明
<p>【関連 RFC】 タブ</p>	<p>左の表示枠には、オフライン分析プロセス中に選択した CI に関連付けられた RFC ID またはユーザによって手動でアタッチされた RFC ID、タイトル、関係タイプも表示されます。</p> <p>右の表示枠には、左の表示枠で選択した RFC ID のプロパティが表示されます。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>注: オフライン・プロセスが実行されている場合、ビューの CI に対して次の RFC のみが検出されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 【取得される RFC 基準】 の設定で指定されているステータスの RFC • 計画開始日が本日から X 日間引いた日付（設定で定義されている）よりも後になっている RFC • 計画終了日が当日よりも早い RFC <p>したがって、RFC が複数の CI にアタッチされているときに、複数の CI がこれらの基準に適合しない場合、一部の CI が RFC に接続されているものとして示されない可能性があります。</p> </div>

[フィルタ] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

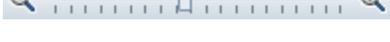
UI 要素	詳細
<p>変更された CI</p>	<p>変更ステータスに基づいて CI をフィルタします。【はい】を選択すると、変更のある CI のみがビューに表示されます。【いいえ】を選択すると、変更のない CI のみがビューに表示されます。</p> <p>利用可能な対象: モジュールの検証 / 承認</p>
<p>CI 名</p>	<p>CI 名に基づいて CI をフィルタします。選択した CI のみがビューに表示されます。</p> <p>値ボックスに CI 名を手動で入力するか、【詳細...】をクリックしてダイアログ・ボックスを開き、リストから CI を選択します。</p>
<p>CI タイプ</p>	<p>CI タイプに基づいて CI をフィルタします。選択した CI タイプの CI のみがビューに表示されます。</p> <p>【詳細...】をクリックしてダイアログ・ボックスを開き、リストから利用可能な CI タイプを選択できます。</p>

UI 要素	詳細
Has RFCs	<p>選択された CI に RFC が関連付けられているかどうかに従ってフィルタします。</p> <p>利用可能な対象 : モジュールの検証 / 承認</p>
Managed Status	<p>管理ステータスに基づいて CI をフィルタします。選択したステータスの CI のみがビューに表示されます。</p> <p>[管理対象] または [Not Managed] を選択します。</p>
ポリシー名	<p>それぞれのポリシー名に基づいて CI をフィルタします。選択したポリシーの適用対象となる CI のみがビューに表示されます。</p> <p>[詳細...] をクリックしてダイアログ・ボックスを開き、リストから利用可能なポリシーを選択できます。</p>
Policies Status	<p>それぞれのポリシー・ステータスに基づいて CI をフィルタします。選択したステータスの CI のみがビューに表示されます。</p> <p>[ポリシー名] フィールドでポリシーを指定しないと、ビュー内の CI に割り当てられるすべてのポリシーに選択したポリシー・ステータス条件が適用されます。指定した場合は、名前指定されたポリシーに対してのみ、選択したポリシー・ステータス条件が適用されます。</p> <p>[違反] または [適合] を選択します。</p>
Related RFCs	<p>特定の RFC タイトルに基づいて CI をフィルタします。</p> <p>[詳細...] をクリックしてダイアログ・ボックスを開き、リストから関連する RFC 値を選択できます。</p> <p>利用可能な対象 : モジュールの検証 / 承認</p>

[トポロジ] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
	トポロジ概要を表示 : トポロジ概要表示の表示/非表示を切り替えます。
	凡例 : トポロジ表示におけるノード間の接続の説明を表示します。
	レイヤ・レイアウト : CI をレイヤごとにまとめてトポロジ・マップを表示します。

UI 要素	詳細
	階層レイヤ・レイアウト : CI をレイヤの階層ごとにまとめてトポロジ・マップを表示します。
	分類レイアウト : CI を分類ごとにまとめてトポロジ・マップを表示します。
	【円形レイアウト】 円形レイアウトでトポロジ・マップを表示します。
	トポロジ・マップをズームインまたはズームアウトできます。
	ウィンドウに合わせる : トポロジ・マップのサイズを [トポロジ] 表示枠のサイズに合わせて変更します。
	トポロジ・ノードを強調表示 : 実際のステータスのノードのみ、認証済みのステータスのノードのみ、または両方のステータスのノードを強調表示するかどうかを指定します。
	トポロジ マップを全画面表示 : トポロジ・マップを [トポロジ表示] ボックスに表示します。
<トポロジ概要表示>	<p>【トポロジ概要表示】は、表示枠の右上隅に表示されます。 【トポロジ】表示枠のどの部分にトポロジ・マップを表示するかを示します。これは大型表示の場合、または表示をズームインする場合に有効です。</p> <p>ノードでポリシー・ステータス・インジケータをクリックすると、そのCIのポリシー詳細情報（ポリシー名、ポリシーのソース、そのポリシーに選択したCIのステータスを含む）が表示されます。</p>

【CIのソート】ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、[複合 CI] 表示枠のCIリストをソートします。

利用方法	【複合 CI のソート】  を [複合 CI] 表示枠のツールバーでクリックします。
重要情報	変更を反映するには、新しいソート・フィールドを保存します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	すべて追加: [利用可能なソートフィールド] 表示枠から [選択したソートフィールド] 表示枠に、すべてのフィールドを移動します。
	追加: [利用可能なソートフィールド] 表示枠から [選択したソートフィールド] 表示枠に、選択したフィールドを移動します。
	[削除]: [選択したソートフィールド] 表示枠から選択したフィールドを削除します。
	すべて削除: [選択したソートフィールド] 表示枠からすべてのフィールドを削除します。
	上 / 下: 選択したフィールドを [選択したソートフィールド] 内で上下に移動します。
	昇順 / 降順: 選択した各フィールドに対して検索方向を指定できます。
利用可能なソート・フィールド	CI をソートするフィールドとして選択可能なすべてのフィールド。
選択したソート・フィールド	CI をソートするフィールドとして選択したフィールド。リスト内の順序に基づいてソートされます。

[トポロジの表示] ダイアログ・ボックス

このページでは、トポロジ・マップを大きな領域に表示します。

利用方法	[トポロジ] 表示枠のツールバーで [トポロジ マップを全画面表示]  ボタンをクリックします。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
	<p>トポロジ・ノードを強調表示: リストが表示され、次のトポロジ・マップの表示モードを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実際のステータスを強調表示 • 認証済みのステータスを強調表示 • 両方を強調表示

UI 要素	詳細
<トポロジ表示枠の ツールバー・ボタン>	【トポロジ】表示枠のツールバー・ボタンは、【トポロジの表示】ダイアログ・ボックスにもあります。詳細については、「 【トポロジ】表示枠 (96ページ)を参照してください。

トラブルシューティング – レビュー/認証

- **問題:** RFC を作成するためのボタンが無効化されている。

考えられる理由:

- アクティブ化された構成に対する変更管理統合が無効になっている。
- 変更管理統合が定義されているか、保存されているか、アクティブ化されている状態で、ユーザが Configuration Manager に再度ログインしなかった。

解決策: 次の操作を実行します。

- a. **【管理】 > 【統合】 > 【変更管理】** に移動します。統合を設定するには、チェック・ボックスをオンにして、Service Manager の構成の詳細情報を入力します。
- b. 構成内容を保存してアクティブ化します。
- c. 変更内容を有効にするには、いったんログアウトして再度ログインします。

- **問題:** RFC の作成に失敗する。

- **理由 1:** **【管理】 > 【統合】 > 【変更管理】 > 【Service Manager】** で、統合ユーザに対して不正な資格情報が定義されていた。

解決策 1: Service Manager で、統合ユーザが存在していることを検証します。必要に応じて、パスワードを更新します（詳細については、Service Manager のマニュアルを参照してください）。

- **理由 2:** ユーザが Service Manager の Web サービスを呼び出すための適切な資格情報を持っていない。

解決策 2: この統合ユーザに対して、SOAP API を実行するための機能を有効にします（詳細は、Service Manager のマニュアルを参照してください）。

- **理由 3:** この統合の UNL ファイルが Service Manager に読み込まれていない。

解決策 3: UNL ファイルがアップロードされているかを検出するには、次の Service Manager URL を呼び出します。

```
<host>:<port example:13080>/sm/7/ucmdcm.wsdl
```

この呼び出しが XML ファイルを返す場合、web サービスはオンになり、UNL ファイルがアップロードされたことを意味します。そうでない場合は、「[UNL ファイルの Service Manager へのインポート](#)」 (125ページ) の指示に従ってください。

- **理由 4:** 少なくとも次の不一致の1つが生じている状態で RFC が作成されている

- サービスが Service Manager に存在しない。
- 1 つまたは複数の選択した CI が Service Manager に存在しない。
- カテゴリ値が Service Manager の有効な値と一致しない。
- リスク・アセスメントの値が Service Manager の有効な値と一致しない。
- インパクトの値が Service Manager の有効な値と一致しない。
- 緊急度の値が Service Manager の有効な値と一致しない。

解決策 4: 【管理】 > 【アプリケーション管理】 > 【RFC】 > 【RFC 作成】 で上記の不一致の可能性のある値をそれぞれ修正し、Service Manager での対応する値と一致するようにします。設定に対する構成を反映するには、保存して、アクティブ化します。

- **問題:** Configuration Manager が RFC を表示しない。

ヒント: 問題が UCMDB にあるのか Service Manager にあるのかを特定するための最初の手順として、UCMDB ですべての RFC を Service Manager から取得する TQL クエリを実行します。RFC が期待されいながらクエリの結果に表れない場合は、UCMDB と Service Manager との間の統合に何らかの問題があることになります。

この TQL クエリを実行するには、次の手順を実行します。UCMDB にログインして【モデリング】 > 【モデリング スタジオ】 > 【リソース】 タブに移動して（【リソースタイプ】として【クエリ】を選択）> 【Configuration Manager】 > 【Configuration Manager - Do not modify】 > 【Generate RFC Queries】 で `amber_rfc_by_id` を実行します。

- **理由 1:** UCMDB と Service Manager の間の統合ポイントが正しく構成されていないか存在しない。

解決策 1: UCMDB と Service Manager との間の統合をセットアップする方法の詳細については、UCMDB ドキュメントを参照してください。

- **理由 2:** Configuration Manager 設定の RFC 変更フェースの値が、Service Manager の RFC フェースの定義と一致しない。

解決策 2: Configuration Manager 設定で、RFC 変更フェースのフィールドの値を有効な値（Service Manager で定義されたもの）に変更します。【管理】 > 【アプリケーション管理】 > 【RFC】 > 【取得される RFC 基準】 > 【RFC フィルタ】に移動して設定を変更します。変更フェースのフィールドには、コンマ区切りで複数の値を含めることができます。設定に対する構成を反映するには、保存して、アクティブ化します。

- **理由 3:** RFC が、RFC を取得するための Configuration Manager 設定で定義された時間ウィンドウの条件を満たしていない。

解決策 3: RFC が Configuration Manager 設定の時間ウィンドウの条件に合致していることを確認するか、RFC が時間ウィンドウに合致するよう条件を変更します。設定に対する構成を反映するには、保存して、アクティブ化します。

- **理由 4:** この統合のために Configuration Manager によって使用された統合ユーザの日付と時間の形式が、Service Manager の対応するユーザの形式と異なっている。

解決策 4: 定義されている時間の形式が両方のユーザ・インスタンスで同じであることを確認します。Configuration Manager では、日付形式の定義が【管理】 > 【統合】 > 【変更管理】 > 【Service Manager】 > 【日付形式】で見つかります。

第12章: 変更履歴

本章の内容

- [変更履歴の概要](#) 142
- [レポート](#) 143
- [スナップショットの比較](#) 143
- [変更履歴のユーザ・インタフェース](#) 143

変更履歴の概要

ビューのスナップショットとは、ある時点でのビューのステータスを示したものであり、ビューの履歴の一部として記録されます。Configuration Manager は、認証時にビューの実際のステータスと認証済みのステータスを示すスナップショットを自動的に記録します。さらに、管理ビューに変更が発生していないかどうかを定期的にチェックし、実際のステータスまたは認証済みのステータスのいずれかで変更が発生した場合はスナップショットを取得します。スナップショットを使用することによって、問題が発生した時点でのシステム情報を正確に把握できるので、問題解決に便利です。

スナップショットの使用法の一例として、インストールの後にスナップショットを取得することにより、オリジナルの構成ベースラインとして比較できます。

変更履歴モジュールでは、実際のステータスのビューで取得された2つのスナップショットを比較し、結果を表示します。このモジュールでは、認証済みのステータスの2つのスナップショットの比較を表示します。どちらのモジュールでも、トポロジ・マップとCIリストには、いずれかのスナップショットのビューに含まれるCIがすべて表示されます。スナップショットの比較で差異が検出されたCIには、変更がアイコンで表示されます。

比較するスナップショットは、これまでに保存したスナップショットや、現在のステータス（実際または認証済み）のビューから選択できます。スナップショットの選択の詳細については、「[\[表示するスナップショットの選択\] ダイアログ・ボックス](#)」(161ページ)を参照してください。

注: 変更履歴モジュールにアクセスするには、次のいずれかの権限が必要です。

- ビュー権限では、ビューを選択できます。
- CM での認証権限では、ビューを選択し、スナップショットを保存できます。

レポート

Configuration Manager には、定義済みポリシーに違反している CI に関する情報を含むビューのポリシー情報をエクスポートする機能があります。違反 CI の原因として次の理由が考えられます。

- ベースライン条件を満たさない CI
- 欠落 CI
- 複合 CI 内の追加 CI

注: 違反 CI に関する情報は、.pdf 形式でエクスポートされるレポートには含まれません。

レポートでは、2つの時点間の CI のポリシー・ステータスを比較します。少なくとも1つのステータスに違反がある場合、詳細情報が属性レベルまで表示されます。レポートには、違反の原因、各時点での違反 CI または属性のステータスが表示されます。

スナップショットの比較

このタスクでは、実際のステータスのビューのスナップショットを2つ選択し、比較する方法を説明します。

1. 変更履歴モジュールで、ツールバーにある最初の選択ボックスか、**【スナップショットの選択】** ボタンをクリックします。**【表示するスナップショットの選択】** ダイアログ・ボックスが開きます。
2. リストからスナップショットを選択し、**【OK】** をクリックします。
3. 2番目の選択ボックスをクリックして別のスナップショットを選択し、**【OK】** をクリックします。
選択した2つのスナップショットの差異がトポロジ・マップに表示されます。

変更履歴のユーザ・インタフェース

本項の内容

- [【変更履歴】 ページ](#) 144
- [【CI 詳細】 ダイアログ・ボックス](#) 148
- [【ポリシー詳細】 ダイアログ・ボックス](#) 149
- [【表示するスナップショットの選択】 ダイアログ・ボックス](#) 150
- [【CI のソート】 ダイアログ・ボックス](#) 151
- [トポロジ・ページ](#) 152

[変更履歴] ページ

このページでは、実際のステータスのビューのスナップショット2つを比較します。

利用方法	[変更] > [変更履歴] を選択します。
重要情報	<p>[変更履歴] ページには次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 複合 CI: 2つの選択したスナップショット間に各 CI で発生した変更のタイプを示すアイコンと一緒に、ビュー内の CI のリストを表示します。 • トポロジ: 2つの選択したスナップショット間に各 CI で発生した変更のタイプを示すアイコンと一緒に、ビュー内の CI のトポロジ・マップを表示します。トポロジ・マップ内の各ノードには、名前、CI タイプ、管理ステータス、および両方のスナップショットに関する変更タイプと現在および前回のポリシー・ステータスが表示されます。 <p>注: インベントリ・モードでの [トポロジ] 表示枠は、[関連 CI] と呼ばれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 比較詳細: 選択した CI の変更の詳細が表示されます。タブをクリックすると、選択した CI の変更の詳細情報が表示されます。 • フィルタ: インベントリ・モードでは、[フィルタ] 表示枠で複合 CI リストをフィルタできます。詳細については、「[フィルタ] 表示枠 (99ページ)」を参照してください。
関連タスク	「スナップショットの比較」 (143ページ)
関連情報	「変更履歴の概要」 (142ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	ビューの選択 : [変更履歴] ページ上で別のビューを選択して開くことができます。
	表示をインベントリ・モードに変更 : 選択したビューの表示をインベントリ・モードに変更します。
	表示をトポロジ・モードに変更 : 選択したビューの表示をトポロジ・モードに変更します。

UI 要素	詳細
	<p><スナップショット>間の比較:スナップショット選択ボックスをクリックして [表示するスナップショットの選択] ダイアログ・ボックスを開くことにより、2つのスナップショットを比較できます。</p> <p>注: 最初に選択されたスナップショットの時刻から、2番目のスナップショットの時刻（その時刻を含む）までの間にCIで発生した変更すべてについて実行されます。</p>
	<p>コメントの編集: 選択したスナップショットのコメントを編集できます。</p>
	<p><次の/前の>スナップショット日に移動: 次の、または前のスナップショットのペアに移動できます。</p>
	<p>レポートのエクスポート: エクスポートするレポートとデータのエクスポート形式を選択できます。</p> <p>次のレポートを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 変更レポート: 選択したスナップショット間にCIとその属性で発生した変更（追加、削除、または更新）を表示します。 • Policy Analysis Report: 各スナップショットの時刻における、CI、その関連ポリシー、各ポリシーのステータスを表示します。 <p>次の形式オプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Excel: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .XLS (Excel) ファイル形式に整形されます。 • PDF: テーブルのデータは、PDF形式でエクスポートされます。 • CSV: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。 <p>レポートへの出力の生成時には、現在適用されているフィルタが考慮されます。</p>
	<p>更新: CI リストを更新します。</p>

[複合 CI] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	複合 CI のソート: [CI のソート] ダイアログ・ボックスが開きます。ここでは、さまざまなソート・フィールドで CI リストをソートできます。
	複合 CI の詳細の表示: [CI 詳細] ダイアログ・ボックスを開きます。ここでは、選択した CI の管理対象属性が表示されます。
	選択した CI がビューに追加されたことを示します。
	選択した CI がビューから削除されたことを示します。
	選択した CI が更新されたことを示します。
	プライマリ・スナップショット内の CI が少なくとも 1 つのポリシーに違反していることを示します。
	セカンダリ・スナップショット内の CI が少なくとも 1 つのポリシーに違反していることを示します。
	プライマリ・スナップショット内の CI がそのすべてのポリシーに適合していることを示します。
	セカンダリ・スナップショット内の CI がそのすべてのポリシーに適合していることを示します。
<CI のリスト>	<p>このリストには、ビュー内の現在または以前の CI すべてが表示されます。CI の右側に表示されるアイコンは、この CI およびそのポリシー・ステータスに加えられた変更を示します。CI の横にある三角形をクリックすると、各変更が別の行に表示されます。</p> <p>リスト内の CI の上にポインタを置くと、CI の名前とタイプを含んだツールチップが表示されます。</p> <p>CI の後にアイコンが何も表示されない場合は、その CI に加えられた変更はないことを示します。</p>

[Comparison Details] 表示枠

重要情報	<p>【Composite CIs】表示枠または【トポロジ】表示枠で CI を選択すると、その CI のデータが含まれるタブにはアスタリスク (*) のマークが付きます。</p>
-------------	---

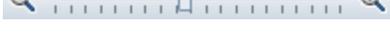
ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
[Changed Attributes] タブ	<p>左表示枠には、CI 名と変更タイプ・アイコンが表示されます。複合 CI の場合は、属性に変更があるコンポーネント CI が表示されます。</p> <p>右表示枠には、左表示枠で選択した CI の名前およびプライマリとセカンダリ・スナップショットの属性値が表示されます。</p>
[Changed Outgoing Relationships] タブ	<p>左表示枠には、選択した CI が進行中の関係によって関連付けられている CI が表示されます。各エントリを展開してコンポーネント CI の関係を表示するには、矢印をクリックします。関係ごとに関係タイプが表示され、アイコンにより変更の関連タイプが示されます。</p> <p>右表示枠には、左表示枠で選択した関係のソース、ターゲット、方向が表示されます。</p>
[Policy Details] タブ	<p>[Policy List] 表示枠には、ポリシー・ルールごとに次のデータが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシー・ルール名 • プライマリ・スナップショットのルール・ステータス（[ステータス]） • セカンダリ・スナップショットのルール・ステータス（[前のステータス]） • 関連 CI <p>[詳細] 表示枠には、ルール名、説明、タイプ、検証日付など、[Policy List] 表示枠で選択したポリシー・ルールの詳細が表示されます。</p>

[トポロジ] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	詳細
	トポロジ概要を表示 ：トポロジ概要表示の表示/非表示を切り替えます。
	凡例 ：トポロジ表示におけるノード間の接続の説明を表示します。
	レイヤ・レイアウト ：CI をレイヤごとにまとめてトポロジ・マップを表示します。

UI 要素	詳細
	階層レイヤ・レイアウト : CI をレイヤの階層ごとにまとめてトポロジ・マップを表示します。
	分類レイアウト : CI を分類ごとにまとめてトポロジ・マップを表示します。
	【円形レイアウト】 円形レイアウトでトポロジ・マップを表示します。
	トポロジ・マップをズームインまたはズームアウトできます。
	ウィンドウに合わせる : トポロジ・マップのサイズを [トポロジ] 表示枠のサイズに合わせて変更します。
	トポロジ・ノードを強調表示 : 実際のステータスのノードのみ, 認証済みのステータスのノードのみ, または両方のステータスのノードを強調表示するかどうかを指定します。
	トポロジ マップを全画面表示 : トポロジ・マップを [トポロジ表示] ボックスに表示します。
<トポロジ概要表示>	<p>【トポロジ概要表示】は、表示枠の右上隅に表示されます。 【トポロジ】表示枠のどの部分にトポロジ・マップを表示するかを示します。これは大型表示の場合、または表示をズームインする場合に有効です。</p> <p>ノードでポリシー・ステータス・インジケータをクリックすると、そのCIのポリシー詳細情報（ポリシー名、ポリシーのソース、そのポリシーに選択したCIのステータスを含む）が表示されます。</p>

[CI 詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択したCIの詳細情報を表示します。

利用方法	【複合 CI の詳細の表示】  をクリックするか、【複合 CI】表示枠または【トポロジ】表示枠でCIをダブルクリックします。
関連タスク	「スナップショットの比較」(143ページ)
関連情報	「変更履歴の概要」(142ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	差異のみを表示 : 2つのステータス間で値が異なる属性のみを表示します。
	次の相違 : クリックすると ([属性] タブの) リスト内にある次の複合 CI に移動できます。
	すべての詳細を表示 : ([属性] タブで) 選択した CI の属性すべての表示と、管理属性のみの表示を切り替えることができます。
	2つのステータス間で異なる値を示します。
[属性] タブ	左の表示枠には CI 名が表示されます。複合 CI の場合は、CI エントリを展開して個々のコンポーネント CI を表示できます。 右の表示枠には、この CI の属性名と値が表示されます。比較対象となる2つのスナップショットの属性値が表示されます。
[内向きの関係] タブ	選択した CI について、内向きの関係をすべて表示します。 複合 CI の場合は、CI エントリを展開して個々のコンポーネント CI を表示できます。コンポーネント CI を1つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログ・ボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。
[外向きの関係] タブ	選択した CI について、外向きの関係をすべて表示します。 複合 CI の場合は、CI エントリを展開して個々のコンポーネント CI を表示できます。コンポーネント CI を1つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログ・ボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。

[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ベースライン・ポリシー・ルールに関する CI のポリシー違反の詳細情報が表示されます。

利用方法	<p>[比較詳細] 表示枠の [ポリシー詳細] タブにある [スナップショットのポリシー詳細の表示]  ボタンをクリックします。</p> <p>[スナップショットのポリシー詳細の表示] または [前回のスナップショットのポリシー詳細の表示] を選択できます。</p>
重要情報	[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックスが開くのは、ベースライン・ポリシーが適用された CI を選択した場合のみです。

	アイコンの横にある小さな矢印をクリックし、選択したスナップショットのいずれかのポリシー詳細を表示するダイアログ・ボックスを選択します。
関連タスク	「スナップショットの比較」 (143ページ)
関連情報	「変更履歴の概要」 (142ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	違反のみ表示 : 選択した CI について、すべての属性の表示と違反した属性のみの表示を切り替えます。
	次のコンポーネント違反 : リスト内で、次の違反に移動します。
<左の表示枠>	CI の名前とベースラインが表示されます。複合 CI の場合は、矢印をクリックして展開し、コンポーネント CI を表示します。ベースライン値のある CI については、ポリシー違反かどうかアイコンが表示されます。 注: CI の属性の中で違反しているものが1つでもある場合や、ベースライン内の CI と一致しない場合、その CI はポリシー違反とみなされます。
<右の表示枠>	左の表示枠で選択した CI について、属性の名前と値、およびベースライン値が表示されます。ベースライン値が指定されている属性については、アイコンによって、選択した CI がその属性に関してポリシーに違反しているかどうか示されます。

[表示するスナップショットの選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、比較対象となるスナップショットを2つ選択します。

利用方法	ツールバーで、スナップショットの選択ボックスのいずれかをクリックします。
重要情報	最初の選択ボックスでスナップショットを選択し、2番目の選択ボックスで別のスナップショットを選択します。この2つのスナップショットの比較結果が表示されます。
関連タスク	「スナップショットの比較」 (143ページ)
関連情報	「変更履歴の概要」 (142ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	詳細
<カレンダー>	カレンダーで日付を選択します。
<スナップショットのリスト>	リストには、選択した日付に、選択したビューで取得された、すべてのスナップショットが表示されます。
Authorized By	<p>スナップショットを承認したユーザの名前が表示されます。</p> <p>リストをフィルタし、選択したユーザによって承認されたスナップショットのみを表示するには、ドロップダウン・リストを使用します。</p> <p>【作成者】 フィールドには、ユーザ「Internal Process」が表示されることがあります。これは、内部 Configuration Manager のプロセスによって（ユーザではない）承認が実行され、次のいずれかの状況で発生したことを意味します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビューが管理され、いくつかの CI が承認された最初のとき。 • ユーザがポリシーを追加したとき。 • いくつかの CI を選択したビューと共有する別のビューでユーザが承認を実行したとき。 <p>注: このフィールドは、承認状態のスナップショットの場合にのみ表示されます。</p>
Change Details	スナップショットの簡単な説明です。
コメント	スナップショットに関する注記です。
作成日時	スナップショットを取得した日時です。

[CI のソート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、[複合 CI] 表示枠の CI リストをソートします。

利用方法	[複合 CI] 表示枠のツールバーで [複合 CI のソート]  ボタンをクリックします。
重要情報	CI をソートした後に [更新]  をクリックすると、変更内容が有効になります。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	すべて追加: [利用可能なソートフィールド] 表示枠から [選択したソートフィールド] 表示枠に、すべてのフィールドを移動します。
	追加: [利用可能なソートフィールド] 表示枠から [選択したソートフィールド] 表示枠に、選択したフィールドを移動します。
	[削除]: [選択したソートフィールド] 表示枠から選択したフィールドを削除します。
	すべて削除: [選択したソートフィールド] 表示枠からすべてのフィールドを削除します。
	上 / 下: 選択したフィールドを [選択したソートフィールド] 内で上下に移動します。
	昇順 / 降順: 選択した各フィールドに対して検索方向を指定できます。
利用可能なソート・フィールド	CI をソートするフィールドとして選択可能なすべてのフィールド。
選択したソート・フィールド	CI をソートするフィールドとして選択したフィールド。リスト内の順序に基づいてソートされます。

トポロジ・ページ

このページでは、トポロジ・マップを大きな領域に表示します。

利用方法	[トポロジ] 表示枠のツールバーで [トポロジ マップを全画面表示]  ボタンをクリックします。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
	<p>トポロジ・ノードを強調表示: リストが表示され、次のトポロジ・マップの表示モードを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <第 1 スナップショット> を強調表示 ・ <第 2 スナップショット> を強調表示 ・ 両方を強調表示

UI 要素	詳細
<p><トポロジ表示枠の ツールバー・ボタン></p>	<p>【トポロジ】表示枠のツールバー・ボタンは，【トポロジの表示】ダイアログ・ボックスにもあります。詳細については，「【トポロジ】表示枠 (96ページ)を参照してください。</p>

第13章: 認証履歴

本章の内容

- [認証履歴の概要](#) 154
- [レポート](#) 155
- [スナップショットの比較](#) 155
- [認証履歴のユーザ・インタフェース](#) 155

認証履歴の概要

ビューの**スナップショット**とは、ある時点でのビューのステータスを示したものであり、ビューの履歴の一部として記録されます。Configuration Manager は、認証時にビューの実際のステータスと認証済みのステータスを示すスナップショットを自動的に記録します。さらに、管理ビューに変更が発生していないかどうかを定期的にチェックし、実際のステータスまたは認証済みのステータスのいずれかで変更が発生した場合はスナップショットを取得します。スナップショットを使用することによって、問題が発生した時点でのシステム情報を正確に把握できるので、問題解決に便利です。

スナップショットの使用法の一例として、インストールの後にスナップショットを取得することにより、オリジナルの構成ベースラインとして比較できます。

認証履歴モジュールでは、実際のステータスのビューで取得された2つのスナップショットを比較し、結果を表示します。このモジュールでは、認証済みのステータスの2つのスナップショットの比較を表示します。どちらのモジュールでも、トポロジ・マップとCIリストには、いずれかのスナップショットのビューに含まれるCIがすべて表示されます。スナップショットの比較で差異が検出されたCIには、変更がアイコンで表示されます。

比較するスナップショットは、これまでに保存したスナップショットや、現在のステータス（実際または認証済み）のビューから選択できます。スナップショットの選択の詳細については、「[\[表示するスナップショットの選択\] ダイアログ・ボックス](#)」(161ページ)を参照してください。

注: 認証履歴モジュールにアクセスするには、次のいずれかの権限が必要です。

- ビュー権限では、ビューを選択できます。
- CM での認証権限では、ビューを選択し、スナップショットを保存できます。

レポート

Configuration Manager には、定義済みポリシーに違反している CI に関する情報を含むビューのポリシー情報をエクスポートする機能があります。違反 CI の原因として次の理由が考えられます。

- ベースライン条件を満たさない CI
- 欠落 CI
- 複合 CI 内の追加 CI

注: 違反 CI に関する情報は、.pdf 形式でエクスポートされるレポートには含まれません。

レポートでは、2つの時点間の CI のポリシー・ステータスを比較します。少なくとも1つのステータスに違反がある場合、詳細情報が属性レベルまで表示されます。レポートには、違反の原因、各時点での違反 CI または属性のステータスが表示されます。

スナップショットの比較

このタスクでは、認証済みのステータスのビューのスナップショットを2つ選択し、比較する方法を説明します。

1. 認証履歴モジュールで、ツールバーにある最初の選択ボックスか、**【スナップショットの選択】**  ボタンをクリックします。**【表示するスナップショットの選択】** ダイアログ・ボックスが開きます。
2. リストからスナップショットを選択し、**【OK】** をクリックします。
3. 2番目の選択ボックスをクリックして別のスナップショットを選択し、**【OK】** をクリックします。
選択した2つのスナップショットの差異がトポロジ・マップに表示されます。

認証履歴のユーザ・インタフェース

本項の内容

- [【認証履歴】 ページ](#) 156
- [【CI 詳細】 ダイアログ・ボックス](#) 159
- [【ポリシー詳細】 ダイアログ・ボックス](#) 160
- [【表示するスナップショットの選択】 ダイアログ・ボックス](#) 161
- [【CI のソート】 ダイアログ・ボックス](#) 162
- [トポロジ・ページ](#) 163

[認証履歴] ページ

このページでは、認証済みのステータスのビューのスナップショット2つを比較します。

利用方法	[変更] > [認証履歴] を選択します。
重要情報	<p>[認証履歴] ページには次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Composite CIs : 2つの選択したスナップショット間に各CIで発生した変更のタイプを示すアイコンと一緒に、ビュー内のCIのリストを表示します。 • トポロジ : 2つの選択したスナップショット間に各CIで発生した変更のタイプを示すアイコンと一緒に、ビュー内のCIのトポロジ・マップを表示します。トポロジ・マップ内の各ノードには、名前、CIタイプ、管理ステータスに加えて、両方のスナップショットの変更タイプおよび現在と前のポリシー・ステータスが表示されます。詳細については、「[トポロジ] 表示枠 (96ページ)を参照してください。 <p>注: インベントリ・モードでの [トポロジ] 表示枠は、[関連CI] と呼ばれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Comparison Details : 選択したCIの変更の詳細が表示されます。選択したCIの変更の詳細を表示するには、関連するタブをクリックします。 • フィルタ : インベントリ・モードでは、[フィルタ] 表示枠で複合CIリストをフィルタできます。詳細については、「[フィルタ] 表示枠 (99ページ)を参照してください。
関連タスク	「スナップショットの比較」 (155ページ)
関連情報	「認証履歴の概要」 (154ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	ビューの選択 : [変更履歴] ページ上で別のビューを選択して開くことができます。
	表示をインベントリ・モードに変更 : 選択したビューの表示をインベントリ・モードに変更します。
	表示をトポロジ・モードに変更 : 選択したビューの表示をトポロジ・モードに変更します。

UI 要素	詳細
	<p><スナップショット>間の比較:スナップショット選択ボックスをクリックして「表示するスナップショットの選択」ダイアログ・ボックスを開くことにより、2つのスナップショットを比較できます。</p> <p>注: 最初に選択されたスナップショットの時刻から、2番目のスナップショットの時刻（その時刻を含む）までの間にCIで発生した変更すべてについて実行されます。</p>
	<p>コメントの編集: 選択したスナップショットのコメントを編集できます。</p>
	<p><次の/前の>スナップショット日に移動: 次の、または前のスナップショットのペアに移動できます。</p>
	<p>レポートのエクスポート: エクスポートするレポートとデータのエクスポート形式を選択できます。</p> <p>次のレポートを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 変更レポート: 選択したスナップショット間にCIとその属性で発生した変更（追加、削除、または更新）を表示します。 • Policy Analysis Report: 各スナップショットの時刻における、CI、その関連ポリシー、各ポリシーのステータスを表示します。 <p>次の形式オプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Excel: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる.XLS (Excel) ファイル形式に整形されます。 • PDF: テーブルのデータは、PDF形式でエクスポートされます。 • CSV: テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。 <p>レポートへの出力の生成時には、現在適用されているフィルタが考慮されます。</p>
	<p>更新: CI リストを更新します。</p>

[複合 CI] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	複合 CI のソート: [CI のソート] ダイアログ・ボックスが開きます。ここでは、さまざまなソート・フィールドで CI リストをソートできます。
	複合 CI の詳細の表示: [CI 詳細] ダイアログ・ボックスを開きます。ここでは、選択した CI の管理対象属性が表示されます。
	選択した CI がビューに追加されたことを示します。
	選択した CI がビューから削除されたことを示します。
	選択した CI が更新されたことを示します。
	プライマリ・スナップショット内の CI が少なくとも 1 つのポリシーに違反していることを示します。
	セカンダリ・スナップショット内の CI が少なくとも 1 つのポリシーに違反していることを示します。
	プライマリ・スナップショット内の CI がそのすべてのポリシーに適合していることを示します。
	セカンダリ・スナップショット内の CI がそのすべてのポリシーに適合していることを示します。
<CI のリスト>	<p>このリストには、ビュー内の現在または以前の CI すべてが表示されます。CI の右側に表示されるアイコンは、この CI およびそのポリシー・ステータスに加えられた変更を示します。CI の横にある三角形をクリックすると、各変更が別の行に表示されます。</p> <p>リスト内の CI の上にポインタを置くと、CI の名前とタイプを含んだツールチップが表示されます。</p> <p>CI の後にアイコンが何も表示されない場合は、その CI に加えられた変更はないことを示します。</p>

[Comparison Details] 表示枠

重要情報	<p>【Composite CIs】表示枠または【トポロジ】表示枠で CI を選択すると、その CI のデータが含まれるタブにはアスタリスク (*) のマークが付きます。</p>
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
[Changed Attributes] タブ	<p>左表示枠には、CI 名と変更タイプ・アイコンが表示されます。複合 CI の場合は、属性に変更があるコンポーネント CI が表示されます。</p> <p>右表示枠には、左表示枠で選択した CI の名前およびプライマリとセカンダリ・スナップショットの属性値が表示されます。</p>
[Changed Outgoing Relationships] タブ	<p>左表示枠には、選択した CI が進行中の関係によって関連付けられている CI が表示されます。各エントリを展開してコンポーネント CI の関係を表示するには、矢印をクリックします。関係ごとに関係タイプが表示され、アイコンにより変更の関連タイプが示されます。</p> <p>右表示枠には、左表示枠で選択した関係のソース、ターゲット、方向が表示されます。</p>
[Policy Details] タブ	<p>[Policy List] 表示枠には、ポリシー・ルールごとに次のデータが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシー・ルール名 • プライマリ・スナップショットのルール・ステータス（[ステータス] • セカンダリ・スナップショットのルール・ステータス（[前のステータス] • 関連 CI <p>[詳細] 表示枠には、ルール名、説明、タイプ、検証日付など、[Policy List] 表示枠で選択したポリシー・ルールの詳細が表示されます。</p>

[CI 詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI の詳細情報を表示します。

利用方法	<p>[複合 CI の詳細の表示]  をクリックするか、[複合 CI] 表示枠または [トポロジ] 表示枠で CI をダブルクリックします。</p>
関連タスク	<p>「スナップショットの比較」 (143ページ)</p>
関連情報	<p>「変更履歴の概要」 (142ページ)</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	<p>差異のみを表示 : 2つのステータス間で値が異なる属性のみを表示しま</p>

UI 要素	詳細
	す。
	次の相違 : クリックすると ([属性] タブの) リスト内にある次の複合 CI に移動できます。
	すべての詳細を表示 : ([属性] タブで) 選択した CI の属性すべての表示と、管理属性のみの表示を切り替えることができます。
	2つのステータス間で異なる値を示します。
[属性] タブ	左の表示枠には CI 名が表示されます。複合 CI の場合は、CI エントリを展開して個々のコンポーネント CI を表示できます。 右の表示枠には、この CI の属性名と値が表示されます。比較対象となる2つのスナップショットの属性値が表示されます。
[内向きの関係] タブ	選択した CI について、内向きの関係をすべて表示します。 複合 CI の場合は、CI エントリを展開して個々のコンポーネント CI を表示できます。コンポーネント CI を1つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログ・ボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。
[外向きの関係] タブ	選択した CI について、外向きの関係をすべて表示します。 複合 CI の場合は、CI エントリを展開して個々のコンポーネント CI を表示できます。コンポーネント CI を1つ選択すると、[内部関係パス詳細] 表示枠がダイアログ・ボックスの下に開き、関係の詳細情報が表示されます。

[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ベースライン・ポリシー・ルールに関する CI のポリシー違反の詳細情報が表示されます。

利用方法	<p>[比較詳細] 表示枠の [ポリシー詳細] タブにある [スナップショットのポリシー詳細の表示]  ボタンをクリックします。</p> <p>[スナップショットのポリシー詳細の表示] または [前回のスナップショットのポリシー詳細の表示] を選択できます。</p>
重要情報	<p>[ポリシー詳細] ダイアログ・ボックスが開くのは、ベースライン・ポリシーが適用された CI を選択した場合のみです。</p> <p>アイコンの横にある小さな矢印をクリックし、選択したスナップショットのいずれかのポリシー詳細を表示するダイアログ・ボックスを選択し</p>

	ます。
関連タスク	「スナップショットの比較」 (143ページ)
関連情報	「変更履歴の概要」 (142ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	違反のみ表示 : 選択した CI について、すべての属性の表示と違反した属性のみの表示を切り替えます。
	次のコンポーネント違反 : リスト内で、次の違反に移動します。
<左の表示枠>	CI の名前とベースラインが表示されます。複合 CI の場合は、矢印をクリックして展開し、コンポーネント CI を表示します。ベースライン値のある CI については、ポリシー違反かどうかアイコンが表示されます。 注: CI の属性の中で違反しているものが1つでもある場合や、ベースライン内の CI と一致しない場合、その CI はポリシー違反とみなされます。
<右の表示枠>	左の表示枠で選択した CI について、属性の名前と値、およびベースライン値が表示されます。ベースライン値が指定されている属性については、アイコンによって、選択した CI がその属性に関してポリシーに違反しているかどうか示されます。

[表示するスナップショットの選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、比較対象となるスナップショットを2つ選択します。

利用方法	ツールバーで、スナップショットの選択ボックスのいずれかをクリックします。
重要情報	最初の選択ボックスでスナップショットを選択し、2 番目の選択ボックスで別のスナップショットを選択します。この2つのスナップショットの比較結果が表示されます。
関連タスク	「スナップショットの比較」 (143ページ)
関連情報	「変更履歴の概要」 (142ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	詳細
<カレンダー>	カレンダーで日付を選択します。
<スナップショットのリスト>	リストには、選択した日付に、選択したビューで取得された、すべてのスナップショットが表示されます。
Authorized By	<p>スナップショットを承認したユーザの名前が表示されます。</p> <p>リストをフィルタし、選択したユーザによって承認されたスナップショットのみを表示するには、ドロップダウン・リストを使用します。</p> <p>【作成者】 フィールドには、ユーザ「Internal Process」が表示されることがあります。これは、内部 Configuration Manager のプロセスによって（ユーザではない）承認が実行され、次のいずれかの状況で発生したことを意味します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビューが管理され、いくつかの CI が承認された最初のとき。 • ユーザがポリシーを追加したとき。 • いくつかの CI を選択したビューと共有する別のビューでユーザが承認を実行したとき。 <p>注: このフィールドは、承認状態のスナップショットの場合にのみ表示されます。</p>
Change Details	スナップショットの簡単な説明です。
コメント	スナップショットに関する注記です。
作成日時	スナップショットを取得した日時です。

[CI のソート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、[複合 CI] 表示枠の CI リストをソートします。

利用方法	[複合 CI] 表示枠のツールバーで [複合 CI のソート]  ボタンをクリックします。
重要情報	CI をソートした後に [更新]  をクリックすると、変更内容が有効になります。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	すべて追加: [利用可能なソートフィールド] 表示枠から [選択したソートフィールド] 表示枠に、すべてのフィールドを移動します。
	追加: [利用可能なソートフィールド] 表示枠から [選択したソートフィールド] 表示枠に、選択したフィールドを移動します。
	[削除]: [選択したソートフィールド] 表示枠から選択したフィールドを削除します。
	すべて削除: [選択したソートフィールド] 表示枠からすべてのフィールドを削除します。
	上 / 下: 選択したフィールドを [選択したソートフィールド] 内で上下に移動します。
	昇順 / 降順: 選択した各フィールドに対して検索方向を指定できます。
利用可能なソート・フィールド	CI をソートするフィールドとして選択可能なすべてのフィールド。
選択したソート・フィールド	CI をソートするフィールドとして選択したフィールド。リスト内の順序に基づいてソートされます。

トポロジ・ページ

このページでは、トポロジ・マップを大きな領域に表示します。

利用方法	[トポロジ] 表示枠のツールバーで [トポロジ マップを全画面表示]  ボタンをクリックします。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	詳細
	<p>トポロジ・ノードを強調表示: リストが表示され、次のトポロジ・マップの表示モードを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <第1スナップショット>を強調表示 • <第2スナップショット>を強調表示 • 両方を強調表示

UI 要素	詳細
<p><トポロジ表示枠の ツールバー・ボタン></p>	<p>【トポロジ】表示枠のツールバー・ボタンは，【トポロジの表示】ダイアログ・ボックスにもあります。詳細については，「【トポロジ】表示枠 (96ページ)を参照してください。</p>

第14章: ビュー

本章の内容

- [ビューの概要](#) 165
- [トポロジ・ビューとインベントリ・ビュー](#) 166
- [ビューの更新頻度](#) 167
- [自動ステータス遷移](#) 168
- [ビューを管理ビュー・リストに追加](#) 169
- [ビューの自動ステータス遷移ルールの設定](#) 169
- [ビューの更新頻度の指定](#) 170
- [ビューのユーザ・インタフェース](#) 171
- [トラブルシューティングおよび制限事項 - ビュー](#) 174

ビューの概要

Configuration Manager での作業では、まずビューを選択します。ビューは UCMDDB で定義され、環境での管理作業に使用されるので、管理ビューと呼ばれます。ビュー管理では、履歴の追跡、ポリシーの定義、変更の認証による各ステータスの管理などを行います。

ビュー・モジュールは、Configuration Manager で管理するビューのリストを操作します。このリストには、現在管理対象となっているビューがすべて一覧表示されます。また、このリストにビューを新しく追加したり、不要になったビューを削除することができます。詳細については、「[ビューの更新頻度](#)」(167ページ)を参照してください。

管理ビューでは、そのビューで表示する管理 CI タイプを定義します。管理 CI タイプのみを認証することができ、非管理 CI タイプはビュー内で淡色表示されます。1 つの CI タイプを複数のビューで管理することは可能ですが、同じ複合 CI を複数のビューで管理しないでください。同じ CI を複数のビューで管理すると、CI を管理するビューが他に存在することを示す警告メッセージが表示されます。管理する CI タイプの詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』の「[属性の追加 / 編集](#)」ダイアログ・ボックスを参照してください。

大きなビューの管理と更新では、Configuration Manager システムと UCMDDB システムに負荷がかかるため、管理ビューの情報を更新する頻度を決定できます。ビューの更新頻度を指定すると、負荷を分散するのに役立ちます。ビューの更新頻度を低くすると、1 日に 1 回指定された時間にビューが更新されます。ビューの更新頻度を高くすると (デフォルト)、オフライン分析の繰り返し間隔に従って、ビュー内の管理 CI で変更が検出されるたびにビューが更新されます。

注: ビュー・モジュールにアクセスするには、少なくとも1つのビューで **CM での認証権限** または **CM での管理権限** が必要です。

- 特定のビューの **CM での認証権限** では、そのビューの表示と変更を行うことができます。
- 特定のビューの **CM での管理権限** では、そのビューの管理と管理解除を行うことができます。

管理するビューを選択したら、次の操作タイプでビューの管理方法を指定できます。

- **【削除の候補】** : UCMDB で削除候補としてマークした CI を、ビューの実際のステータスから削除します。詳細については、「[【削除候補ポリシー】表示枠](#) (172ページ)を参照してください。
- **【自動ステータス遷移】** : ビューを自動的に認証できる条件を定義できます。詳細については、「[自動ステータス遷移](#) (168ページ)を参照してください。

このような機能は、ビューの管理作業の一部を自動化するときに便利です。

管理ビュー・リストにビューを追加すると、そのビューは [ビュー サマリ] ページに他の管理ビューとともに表示されます。ビューにはレビュー/認証モジュールなどでアクセスできます。

管理ビュー・リストを追加する方法の詳細については、「[ビューを管理ビュー・リストに追加](#) (169ページ)を参照してください。

定義済みのビュー

注: Advanced ライセンスを購入していない場合、このコンテンツを利用することはできません。適切なライセンスを入手するには、HP の営業担当または HP ソフトウェア・ビジネス・パートナーに連絡してください。

Configuration Manager には、UCMDB で使用可能な定義済みのビューのグループが用意されており、すぐに管理に使用できます。これらのビューは、UCMDB の次の場所にあります: **【モデリング スタジオ】 > 【リソース】** タブ (リソース・タイプとして **【ビュー】** を選択) > **【Configuration Manager】 > 【Configuration Manager - Do not modify】 > 【Automanaged Views】** フォルダ。

設定済みのビューにはいくつかのタイプがあります。

- すべてのサーバ - すべての Windows サーバまたはすべての UNIX サーバを自動的に含むビューを管理できます。
- 仮想化または非仮想化クラスター - 非 HACMP, J2EE, MS, Oracle RAC, Service Guard, Sun, または Veritas マシンだけを含むビューを管理できます。

トポロジ・ビューとインベントリ・ビュー

管理ビューには、2つのタイプがあります。**トポロジ・ビュー**と**インベントリ・ビュー**です。トポロジ・ビューでは、ビューのトポロジおよび複合 CI 間の関係を把握することができます。インベントリ・ビューでは、類似した複合 CI をグループ化することができます。トポロジ・ビューよりも関係の数は少なく、ビューのサイズは大きくなります。ビューのタイプは、ビュー・モジュールの [全般] 表

示枠で定義します。インベントリ・ビューの一例として、サーバに接続されているデータベースCIをすべて含むビューがあります。

ビューの調査モジュール、レビュー/認証モジュール、変更履歴モジュール、および認証履歴モジュールでは、トポロジ・モードとインベントリ・モードのいずれかでビューを表示できます。ビューは、作成時にトポロジ・ビューまたはインベントリ・ビューのいずれかを指定しますが、どちらのモードを使っても表示できます。ビューに含まれる複合CIの数が250を超えると、トポロジ・ビューとして定義されていても、自動的にインベントリ・ビューで表示されます。Configuration Manager では、最大 5000 の複合CIがサポートされています。

ビューの更新頻度

Configuration Manager では、同時に最大 1200 個のビューを管理でき、頻繁に更新されるビューでは、オフライン分析の繰り返し間隔に従って最大 100 個のビューを管理できます。

多数のビューを管理する場合、ビューの更新頻度が重要になります。オフライン分析プロセスの実行には時間がかかり、Configuration Manager システムと UCMDB システムに負荷がかかるため、更新頻度を調整して、システムの負荷を分散できます。次の表に、各オプションに関する情報を示します。

1日に1回	<ul style="list-style-type: none">管理ビューに対する TQL クエリの結果で変更に関する通知は UCMDB から受信されません。ビューに変更があったかどうかに関わらず、オフライン分析プロセスは実行されます。複数のビューの計算は順次実行されるため、複数の管理ビューを1日に1回更新する場合、特定のビューの計算が遅延される可能性があります。次の場合、ビューの1日に1回のみ更新に例外が発生します。<ul style="list-style-type: none">初めてビューを管理する場合（ビューの比較、統計、スナップショットに影響）。ポリシー計算を開始し、選択したビューがポリシーの範囲にある場合。別のビューでCIを認証し、そのCIが選択したビューでも管理されている場合（ビューの比較、統計、スナップショットに影響）。
ビューの更新時	<ul style="list-style-type: none">分析は、オフライン分析の繰り返し間隔に従って実行されます。ビューでは、UCMDB 内のアクティブな TQL クエリが使用されます。ビューからの TQL 結果で変更に関する通知を UCMDB から受信します。ビューに変更があった場合にのみ、オフライン分析プロセスが実行されます。

ビューの更新頻度を決定する場合、次の問題を考慮することができます。

UCMDB での TQL クエリの優先度はどうなっているのか?	低い場合, Configuration Manager で 1 日に 1 回以上ビューを更新する必要がない可能性があります。
UCMDB で検出をどのくらいの頻度で実行するのか?	検出プロセスの実行頻度が 1 日に 1 回未満の場合, ビューを 1 日に 1 回以上更新する利点はありません。
ビューの変更頻度はどの程度なのか?	さほど頻繁でない場合, 頻繁な更新を要求する理由はありません。
更新された情報の取得がどの程度重要なのか?	非常に重要な場合, ビューの更新頻度を 1 日に 1 回より多くしてください。
ビューの大きさはどの程度なのか?	頻繁に変更される大きなビューを更新すると, Configuration Manager と UCMDB に負荷がかかる可能性があります。ビューのより頻繁な更新が重要でない限り, Configuration Manager の更新頻度を 1 日に 1 回のみにすることを検討してください。

詳細については、「[ビューの更新頻度の指定](#)」(170ページ)を参照してください。

自動ステータス遷移

Configuration Manager には、自動ステータス遷移機能があります。これにより、ビューで発生した変更を自動的に認証する条件を定義できます。ビューを選択し、認証する変更タイプ、変更を認証する CI タイプ、新しいポリシー違反を許可するかどうかを定義します。すべての変更が定義済みの条件を満たす場合のみ変更を自動的に認証するか、定義済みの条件を満たす個々の変更を自動的に認証する（その他の変更は認証しない）かを選択できます。1 つ以上のルールに違反するすべての CI は認証されません。また、そのような CI に依存する CI も認証されません。その他の CI は認証されません。

次に例を挙げて、認証がどのように適用されるかを示します。変更の認証を承認する CI タイプとして [computer] と [net device] を選択し、承認する変更タイプとして [追加された CI] のみを選択します。また、新しいポリシー違反は許可しないように選択します。

- ビュー・レベルの認証を指定した場合、認証を承認する変更は CI タイプ [computer] または [net device] の追加のみです。これ以外のタイプの CI をビューに追加した場合や、CI を変更または削除した場合は、自動認証の対象にはなりません。同様に、任意の CI で新しいポリシー違反が検出されると、認証は行われません。たとえば、あるコンピュータを追加して別のコンピュータを削除すると、追加したコンピュータの CI がルールに適合していても、変更は自動認証されません。
- CI レベルの認証を指定した場合、[computer] または [net device] の追加のみが認証されます。その他の変更は認証されません。

新しいポリシー違反が許可され、ビューに新しいトポロジ・ポリシー違反がある場合、この違反の原因になっているのがどの変更かを特定する方法がないため、変更は認証されません。存在す

るのが新しいベースライン・ポリシー違反のみである場合、ベースライン・ポリシーに違反しているCIのみが認証されません。

認証条件は、1つのビューに対して複数定義できます。自動ステータス遷移は、任意のビューに関連する認証条件を満たすすべての変更に対して実行可能です。

ビューを管理ビュー・リストに追加

このタスクでは、ビューを管理ビュー・リストに追加する方法を説明します。

1. ビュー・モジュールで、ツールバーの **[ビューを管理ビュー リストに追加]**  ボタンをクリックします。**[管理するビューの選択]** ダイアログ・ボックスが開きます。
2. 目的のビューを選択して **[OK]** をクリックします。**[詳細]** 領域にビューの詳細が表示されます。

注: リスト内に目的のビューが表示されていない場合は、**[更新]** をクリックするとビュー・リストが更新されます。

3. **[全般]** 表示枠で、ビュー・タイプと管理CIタイプを設定します。
4. オプションで、**[削除候補ポリシー]** 表示枠のチェック・ボックスを選択できます。詳細については、「**[削除候補ポリシー] 表示枠**」(172ページ)を参照してください。
5. オプションで、ビューの自動ステータス遷移条件を設定できます。詳細については、「**ビューの自動ステータス遷移ルールの設定**」(169ページ)を参照してください。
6. ツールバーで **[保存]**  をクリックします。ビューが管理ビュー・リストに追加され、他のモジュールがビューにアクセスが可能な状態になります。

ビューの自動ステータス遷移ルールの設定

このタスクでは、ビューの自動ステータス遷移ルールを設定する方法を説明します。

1. ビュー・モジュールの左の表示枠でビューを選択し、**[自動ステータス遷移]** 表示枠にある **[自動ステータス遷移を有効にする]** チェック・ボックスを選択します。詳細については、「**自動ステータス遷移**」(168ページ)を参照してください。
2. **[ビュー レベル]** 認証か **[CI レベル]** 認証を選択します。
3. 条件テーブルで、次のオプションを構成します。
 - **[CI タイプ]** をクリックしてCIタイプ・ツリーを開きます。自動認証で承認するCIタイプを選択します。
 - **[構成ポリシー]** をクリックして目的のオプション (**[ビューで新規ポリシー違反を許可する]** または **[ビューで新規ポリシー違反を許可しない]**) を選択します。
 - **[検出された変更タイプ]** をクリックして、認証を承認する変更タイプを選択します。

4. **【構成のテスト】** をクリックすると、設定した認証条件を満たした変更がビューに含まれているかどうかをチェックできます。
 - すべての変更が自動ステータス遷移ルールに適合している場合、テストのステータスが **【Passed】** になります。
 - 一部またはすべての変更が自動ステータス遷移ルールに適合しない場合は、テストのステータスが **【Unsatisfied】** になります。
5. **【OK】** をクリックして **【ビュー】** ウィンドウに戻り、**【保存】**  をクリックして条件を保存するか、認証ルールを編集して再度テストします。

これで、自動ステータス遷移ルールを設定できました。自動ステータス遷移を実行すると、ビュー内に設定した条件を満たす変更があれば認証されます。詳細については、[「CI の変更の認証」\(124ページ\)](#)を参照してください。

注: 自動ステータス遷移は、自動ステータス遷移が有効になっているすべてのビューで実行されます。

ビューの更新頻度の指定

1. **【ビュー】** に移動します。
2. ビューを選択します。

注: 新規ビューの作成時にも、ビューの更新頻度を指定できます。

3. **【全般】** 表示枠で、ビューの更新頻度を選択します。ビューの更新を1日に1回、またはビュー内の管理CIで変更が行われるたびに行うことを選択できます。
1日に1回更新されるビューでは、この更新を開始する時間を指定できます。デフォルトの時間は12:00 AM (真夜中) です。

注: これは計算が始まる時間です。1日に1回以上更新されるビューでは、計算は順次実行されます。

- a. **【管理】 > 【設定】 > 【アプリケーション管理】 > 【オフライン分析と認証】 > 【日次ビューの更新設定】** を選択します。

ヒント: できる限り、UCMDB上の検出プロセスが実行されていないときに実行するようにオフライン分析をスケジュールし、パフォーマンスの低下を回避します。

- b. ドロップダウン・リストから、更新を実行する時間を選択します。
4.  をクリックします。

ビューのユーザ・インタフェース

本項の内容

- [\[ビュー\] ページ](#)171

[ビュー] ページ

このページには、現在管理対象になっているビューのリストが表示されます。

利用方法	[ビュー] を選択します。
重要情報	左の表示枠には、管理ビューが一覧表示されます。[全般] 表示枠、[削除候補ポリシー] 表示枠、[自動ステータス遷移] 表示枠には、左の表示枠で選択した管理ビューの詳細情報が表示されます。 ビューを管理ビュー・リストに追加すると、システムの更新が完了するまでの間、数分間データを参照できなくなることがあります。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> • 「ビューを管理ビュー・リストに追加」 (169ページ) • 「ビューの自動ステータス遷移ルールの設定」 (169ページ)
関連情報	「ビューの概要」 (165ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
<ビューのフィルタ>	表示されているビューのリストをフィルタするための文字列を入力します。
	お気に入りビューのみを表示する : すべてのビューを表示するか、お気に入りビューのみを表示するかを切り替えます。
	ビューの追加 : 管理ビューのリストに追加するビューを選択できます。 [管理するビューの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。
	ビューの削除 : 選択したビューが管理ビューのリストから削除されます。
	保存 : 変更を保存できます。
	取り消す : ビューの変更を取り消すことができます。
	[自動ステータス遷移] : すべてのビューで自動ステータス遷移をトリガできます。

UI 要素	詳細
	更新 : ビューのリストを更新します。
ビュー名	管理ビューの名前。

[全般] 表示枠

UI 要素	説明
説明	UCMDB で選択した管理ビューの説明。
管理 CI タイプ	このビューで管理する CI タイプを選択します。このビューで選択した CI タイプのみが管理対象になります。たとえば、CI タイプに子 CI タイプが複数存在する場合、一部のみを選択しても親 CI タイプは管理対象になりません。 注: 標準設定では、すべての CI タイプが選択されています。
ビュー名	選択した管理ビューの名前。
ビューの更新頻度	[1 日に 1 回] または [ビューの更新時] のいずれかを選択します。
ビュー・タイプ	ビューのタイプを選択します。[トポロジ] と [インベントリ] のいずれかを選択できます。詳細については、「 トポロジ・ビューとインベントリ・ビュー 」(166ページ)を参照してください。

[削除候補ポリシー] 表示枠

UI 要素	説明
実際のステータスから、削除候補としてマークされた CI を削除する (UCMDB エンジニング・メカニズムを上書きする)	このチェック・ボックスを選択すると、UCMDB で削除候補としてマークした CI が、ビューの実際のステータスから即時で削除されます。チェック・ボックスの選択を解除すると、UCMDB で設定された削除時刻まで削除されません。

[自動ステータス遷移] 表示枠

関連タスク	「ビューの自動ステータス遷移ルールの設定」 (169ページ)
--------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<条件リスト>	<p>自動ステータス遷移ルールは、次の項目に基づいて設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CI タイプ: 自動認証で承認する変更のCIタイプを指定します。このオプションがハイライト表示されると、CIタイプ・ツリーが下に表示されます。ツリーから目的のCIタイプを選択します。 • 構成ポリシー: ビュー内で新しいポリシー違反が発生した場合に、自動認証で承認するかどうかを指定します。 [ビューで新規構成違反を許可する] チェック・ボックスを選択すると、Configuration Manager ポリシーのすべての違反が無視されます。 チェック・ボックスを選択していない場合、新規ポリシー違反によって自動化が停止されます。 <ul style="list-style-type: none"> • CIに新規ベースライン・ポリシー違反がある場合、そのCIの変更のみが認証されません。 • -CIに新規トポロジ・ポリシー違反がある場合、ビュー内のCIの変更は認証されません。 • 検出された変更タイプ: 自動認証で承認する変更のタイプを指定します。次のオプションを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 追加されたCI • 変更されたCI • 削除されたCI
<条件リスト> (続き)	<ul style="list-style-type: none"> • [関連 RFC]: ビューの自動ステータス遷移が行われるために、変更されたCIにRFCがある必要があるかどうかを指定します。[関連 RFC がない変更を許可しない]のみを選択すると、CIに直接関連付けられているRFCのみ検証されます。CIに間接的に関連付けられているRFCを検証するには、[CI上の間接 RFCを許可する]を選択します。 [変更管理システムのログで、選択したRFCでの変更が検出されました] チェック・ボックスを選択して、変更管理システムのRFCに関連する変更でマークします。
自動ステータス遷移を有効にする	<p>このチェック・ボックスを選択すると、[自動ステータス遷移] 表示枠のフィールドがアクティブになります。次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビュー・レベルの認証 (デフォルト): このオプションでは、ビュー内のすべてのCIのすべてのルールに適合する場合、選択したビューのすべての変更が自動認証されます。つまり、すべてのルールに適合する場合は

UI 要素	説明
	<p>ビュー内のすべての変更が自動認証され、定義済みのルールに適合しない変更が1つでもある場合はビュー内のどの変更も認証されません。</p> <ul style="list-style-type: none">• CI レベルの認証:このオプションでは、自動ステータス遷移を実行する特定のCIタイプと変更タイプを選択できます。この場合、ビュー内のすべてのCIがすべてのルールに適合する必要はありません。 <p>複数のビューで管理される変更の認証を含める場合は、【複数のビューで管理されているCIの変更を認証する】チェック・ボックスを選択します。標準設定では、選択したビューに対して【自動ステータス遷移】が指定されている場合でも、複数のビューで管理されるCIに対する変更は自動的に認証されません。</p>
構成のテスト	自動ステータス遷移を設定した後、 【構成のテスト】 をクリックすると、設定した認証条件を満たす変更がビュー内に存在するかどうかをチェックできます。

トラブルシューティングおよび制限事項 – ビュー

Configuration Manager で管理ビューを操作する際には、次のような制限があります。

- 連合 TQL クエリを含むビューは、管理ビュー・リストに追加するために選択することはできません。
- 日付制限を持つノードがビューに含まれる場合、このビューの更新されたデータが表示されるのは、1日に1回（ビューが更新されるたびではなく）更新されるように設定されている場合にかぎります。このようなビューの更新されたデータを見るには、JMX コンソールを使用して手動でビューを更新します。

第15章: ポリシー

本章の内容

- [ポリシーの概要](#) 175
- [ベースラインの設定](#) 177
- [ポリシー・グループ](#) 177
- [ベースライン・ポリシーまたはトポロジ・ポリシーの定義](#) 178
- [類似性ポリシーの定義](#) 178
- [Configuration Manager のトポロジ・ポリシー - ユースケース](#) 179
- [Configuration Manager の類似性ポリシー - ユースケース](#) 184
- [ポリシーのユーザ・インタフェース](#) 188
- [トラブルシューティングおよび制限事項 - ポリシー](#) 197

ポリシーの概要

ポリシーでは、ビューで期待される構成を定義できます。ポリシーを管理ビューに適用することにより、標準を設定することができます。ポリシーを使用することによって、基準にしたがってビューを作成し、IT 環境構築をより予測可能にできます。

ポリシー・モジュールでは、管理ビューで定義したポリシー・グループとポリシーを管理します。次の3つのタイプのポリシーを定義できます。

• ベースライン・ポリシー

ベースライン・ポリシーは、複合 CI 用のベースラインであり、ビューに含まれる CI と比較する属性を選択します。たとえば、「ビュー内の運用サーバは、1 台あたり CPU を 2 基以上搭載しなければならない」というベースライン・ポリシーを定義するとします。このポリシーでは、ビュー内にあるすべてのサーバ CI がベースライン CI と比較されます。ポリシーを満たしていない CI が存在すると、ビューはポリシー違反とみなされます。

注: 条件を満たした構成を持つ CI がすでに存在する場合、これをベースラインとして選択することができます。

ベースライン・ポリシーの CI に関する詳細情報は、ビューの調査、変更のレビュー/認証、変更履歴、認証履歴の各モジュールにあります。

• トポロジ・ポリシー

トポロジ・ポリシーでは、ビューの構成を決定する条件 TQL クエリを定義します。たとえば、「運用 J2EE の各クラスタは 2 台以上のサーバで構成する」という条件を条件 TQL で定義します。

この条件を満たしたビューは、トポロジ・ポリシーを満たすこととなります。この条件を満たさないビューは、ポリシー違反とみなされます。

ポリシーに適合する構成ではなく、違反するトポロジを TQL クエリで定義する方が簡単な場合もあります。このような場合は、トポロジ・ポリシーの条件を逆にするオプションを使用することにより、ポリシーの適合条件を逆にすることができます（上の例では、サーバが2台未満のクラスタのみが条件を満たすこととなります）。

トポロジ・ポリシーの CI に関する詳細情報は表示できません。

● 類似性ポリシー

類似性ポリシーでは、ビューの特定のタイプのすべての CI またはビューの CI のグループ（各グループが定義された CIT に接続されている）の間で類似性を強制する CI および属性を選択します。たとえば、Oracle データベースに接続されている、ラボのすべての UNIX マシンに同一の OS バージョンが必要であることを示す類似性ポリシーを定義できます。別の例では、各クラスタ内のすべてのサーバでアプリケーションの同一のバージョンを実行していることを示す類似性ポリシーを定義できます。

類似性ポリシーは静的ではありません（ベースライン・ポリシーとは異なり、コンポーネント数が固定されておらず、属性値も設定されていません）。したがって、値を指定せずに属性やコンポーネントを選択します。ポリシー計算では、すべての複合 CI（グループ化を選択した場合は、各グループの CI）で現在の値やコンポーネントを比較し、それによってポリシー・ステータス（すべての複合 CI がポリシーを満たしているか、ポリシーに違反しているか）を決定します。

類似性ポリシーの CI に関する詳細情報は、ビューの調査（最新のスナップショットのみ）および変更のレビュー/認証の各モジュールで表示できます。

3 つのすべてのタイプのポリシーで、次の項目も定義できます。

- **有効性** :ポリシーの有効期間を設定します。
- **フィルタ** :ポリシーをビュー内の CI のサブセットに限定します。たとえば、ベースライン CI のタイプが「Oracle」の場合、フィルタによって「Oracle version 9」に限定することができます。

3 つのすべてのタイプのポリシーを、Configuration Manager のすべての管理ビューに適用できます。

さらに、UCMDB には、Configuration Manager ですぐに使用できる定義済みポリシーのグループが用意されています。詳細については、「[ポリシー](#)」(12ページ)を参照してください。

ポリシーの定義の詳細については、「[\[ポリシー\] ページ](#)」(189ページ)を参照してください。

注:

- Advanced ライセンスを購入しない限り、このモジュールにはアクセスできません。適切なライセンスを入手するには、HP の営業担当または HP ソフトウェア・ビジネス・パートナーに連絡してください。
- このモジュールを使用するには、**ポリシー管理権限**が必要です。
- また、次のいずれかの権限も必要です。
 - **CM での認証権限**によって、:ポリシーの割り当てやビューからのポリシーの削除を行うことができます。

- ビュー権限によって、:ポリシーのプレビューや管理UIからのベースライン・ポリシーの作成を行うことができます（CM での認証権限に含まれます）。

ベースラインの設定

構成ベースラインとは、正式なレビューを行った結果、操作の基準として承認されたサービス、製品、インフラストラクチャの構成を指します。ベースラインは、構成の構造、コンテンツ、詳細情報をキャプチャし、相互に関連性のある構成項目のセットを示します。

ベースラインを作成することにより、次の操作が可能になります。

- サービスの開発におけるマイルストーンを設定
- 定義した入力セットからサービス・コンポーネントを構築
- 後日、バージョンを変更または再構築
- 変更やリリースの準備として、すべての関連コンポーネントをまとめる
- 構成の監査や取り消し（変更後など）のベースを提供

ポリシー・グループ

ポリシーを論理的にまとめることにより、ポリシー・グループを定義することができます。ポリシー・グループには、ベースライン・ポリシーとトポロジ・ポリシーを含めることができます。個々のポリシーではなくポリシー・グループをビューに割り当てることにより、ポリシー管理が簡単になります。また、ポリシー・グループ内でサブグループを定義することも可能です。

グループ内のポリシーは、コピーして別のグループまたはツリーのルートに貼り付けることができます。この方法を使うと、ポリシー・グループにポリシーを簡単に追加できます。既存のポリシーに類似したポリシーを定義する場合は、コピーしてから変更してください。コピーしたポリシーを変更しても、元のポリシーには影響しません。また、グループのポリシーを切り取って、別のポリシーに貼り付けることもできます。この場合、ポリシーは元のグループから削除されます。

ポリシー・グループをコピーまたは切り取ってから、別のポリシー・グループまたはポリシー・ツリーのルートに貼り付けることも可能です。1回の操作で切り取りまたはコピーできるのは、単一のポリシーまたはグループのみです。

ポリシーやポリシー・グループをコピーまたは切り取ってから他の場所に貼り付けても、ビューの割り当てはそのまま変わりません。ただし、グループ・ポリシーがビューに割り当てられている状態で、グループ内のポリシーを別のグループにコピーすると、コピーされたポリシーは、前のグループではなく新しいグループのビューに適用されます。

ポリシー・グループの定義の詳細については、「[\[ポリシー\] ページ](#)」(189ページ)を参照してください。

ベースライン・ポリシーまたはトポロジ・ポリシーの定義

このタスクでは、新しいポリシーを定義し、管理ビューに適用する方法を説明します。

1. [ポリシー] ツールバーの [ポリシーの追加]  ボタンをクリックして、次のいずれかを選択します。
 - ベースライン・ポリシーの追加
 - トポロジ・ポリシーの追加
2. [詳細] 表示枠の [全般] 領域で、ポリシーの名前と説明を入力します。
3. [詳細] 表示枠の [ビュー] 領域で、新しいポリシーの割り当て先となるビューを選択します。
4. [詳細] 表示枠の [有効性] 領域で、ポリシー検証の期間を選択します。
5. [詳細] 表示枠の [フィルタ] 領域で、ポリシーの適合性のテスト対象となるCIのCIタイプを選択します。オプションで、ポリシーの適合性をテストするCIのCIタイプをフィルタする際に、詳細フィルタとして使用するTQLを選択できます。
6. 次のいずれかを実行します。
 - ベースライン・ポリシーについては、[詳細] 表示枠の [ベースラインCI] 領域でベースラインCIと属性を設定します。
 - トポロジ・ポリシーについては、[詳細] 表示枠の [条件] 領域で条件タイプと条件TQLを設定します。
7. 完了したら、[ポリシー] ツールバーの [保存]  をクリックして、ポリシーを保存します。

注: ベースライン・ポリシー・ウィザードを使用してベースライン・ポリシーを作成することもできます。詳細については、「[ベースライン・ポリシー・ウィザード](#)」(89ページ)を参照してください。

類似性ポリシーの定義

このタスクでは、新しいポリシーを定義し、管理ビューに適用する方法を説明します。

1. [ポリシー] ツールバーの [ポリシーの追加]  ボタンをクリックして、[類似性ポリシーの追加] を選択します。
2. [詳細] 表示枠の [全般] 領域で、ポリシーの名前と説明を入力します。

3. [詳細] 表示枠の [ビュー] 領域で、新しいポリシーの割り当て先となるビューを選択します。
4. [詳細] 表示枠の [有効性] 領域で、ポリシー検証の期間を選択します。
5. 次のいずれかを実行します。
 - 関連する構成のグループ化を有効にする場合、[CI タイプとパターンによるグループ化を有効にします] チェック・ボックスを選択します。その後、グループ化 CI タイプと、グループ化の作成に使用する関連 TQL クエリ (パターン) を選択します。
 - グループ化を有効にしない場合、[CI タイプとパターンによるグループ化を有効にします] チェック・ボックスが選択されていないことを確認します。[比較範囲] 表示枠で、ポリシーの適合性のテスト対象となる CI の CI タイプを選択します。
6. [類似性の基準] 領域で、比較対象の CI タイプと属性を指定します。
7. 完了したら、[ポリシー] ツールバーの [保存]  ボタンをクリックして、ポリシーを保存します。

Configuration Manager のトポロジ・ポリシー - ユースケース

本項では、Configuration Manager でのトポロジ・ポリシーのユースケースを紹介します。

このシナリオには次の手順が含まれています。

- [「前提条件」 \(179ページ\)](#)
- [「UCMDB での条件 TQL クエリの作成」 \(180ページ\)](#)
- [「Configuration Manager でのトポロジ・ポリシーの定義」 \(183ページ\)](#)

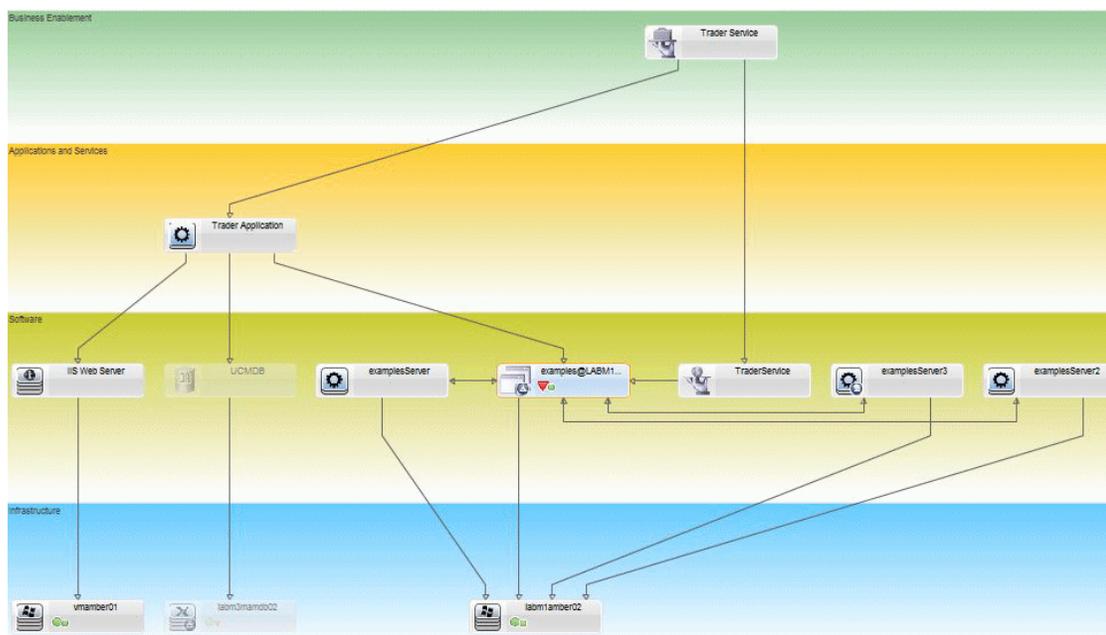
1. 前提条件

トレーダ・サービスの所有者は、サービスが高い可用性と復元性を発揮していることを継続的に監視する必要があります。このサービスには、複数の Web Logic サーバで構成される J2EE Cluster を使用します。各サーバは Windows ホスト上で稼働します。

サービスの所有者は、クラスタでこの構成をサポートする場合、十分なレベルのサービス提供とアプリケーションの応答時間を実現するためには物理ホストが 3 台以上必要になることを特定しました。したがって、変更が発生した状況でも、合意された要件に基づいてサービスを確実に連続稼働するためには、適切なレベルのリソースを確保することが重要になります。

そこでサービスの所有者は、Configuration Manager のトポロジ・ポリシーを定義し、クラスタをサポートするホスト数を監視することにしました。つまり、サービスをサポートするクラスタに含まれるホスト数が 2 台以下になった場合、インジケータで確認できるようにしました。

サービス・トポロジは UCMDB のビューでモデル化され、これに対応する管理ビューが Configuration Manager に存在します。次の図は、Configuration Manager でのサービス・トポロジを示します。

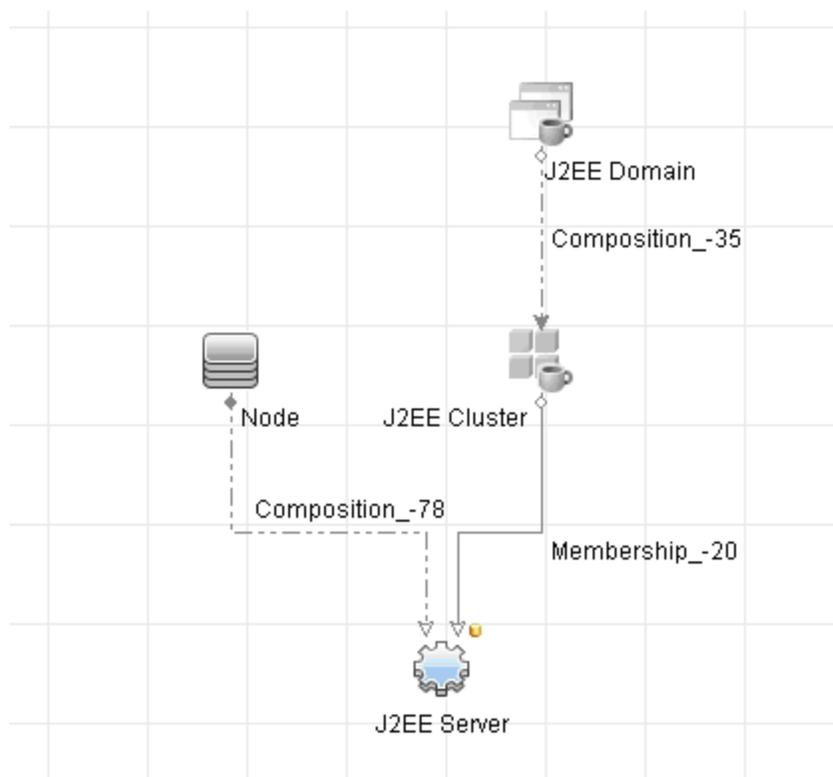


2. UCMDB での条件 TQL クエリの作成

UCMDB ウィンドウを開きます (**[UCMDB の起動]**  ボタンをクリックし、ログインします)。

[**モデリング スタジオ**] に移動します。[リソース] タブで、リソースとして [**ビュー**] を選択し、[**Trader**] ビューを探します。ダブルクリックして開きます。このビューには、J2EE ドメインと Windows ホスト間の接続を定義する関係が含まれています。

次の図は、UCMDB のビューの関連部分を示します。



J2EE ドメインと Node CI との間にある関係パスから、J2EE ドメインとホスト（Node CI）間の複合関係を示すクエリを作成します。

複合関係を含むクエリを作成するには、次の手順を実行します。

- a. [モデリングスタジオ] の [新規作成]  ボタンをクリックし、[クエリ] を選択します。
- b. [J2EE Domain] と [Node] の各 CI を [モデリング] 表示枠にドラッグします。
- c. 両方の CI を選択して、新しい複合関係を追加します（右クリックのコンテキスト・メニューを使用）。
- d. 複合関係を編集して、次のパス要素を追加します。
 - J2EE Domain - Composition - J2EE Cluster
 - J2EE Cluster - Membership - J2EE Server
 - J2EE Server - Composition - Windows

複合関係の方向は、 [J2EE Domain] から [Node] である点に注意してください。

複合関係の追加

↑ + 複合関係の追加
クエリノード間に必要な複合関係を定義します。

ソース	関係	ターゲット	関係の方向
J2EE Domain	<input type="checkbox"/> Composition	J2EE Cluster	→
J2EE Cluster	<input type="checkbox"/> Membership	J2EE Server	→
J2EE Server	<input type="checkbox"/> Composition	Windows	←

ソース: Managed Object 関係: Link ターゲット: Managed Object

関係の名前: Virtual - Compound

最小ステップ数: 1

最大ステップ数: 5

最初の複合レベルで停止する

可視

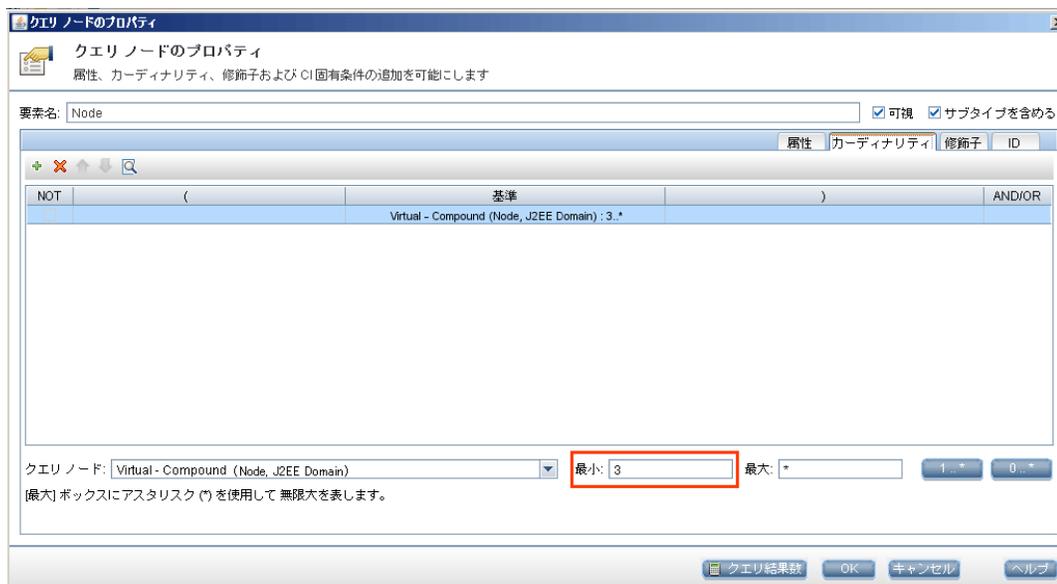
ソースおよびターゲット CIの間にフルパスを表示

関係の方向: J2EE Domain → Node

関係の制限: 全関係を許可

OK キャンセル ヘルプ

- e. [Node] のカーディナリティの値の最小値を3に設定します。ノードCIを右クリックして [クエリ ノードのプロパティ] を選択し, [カーディナリティ] タブを選択して [最小] ボックスに「3」と入力します。



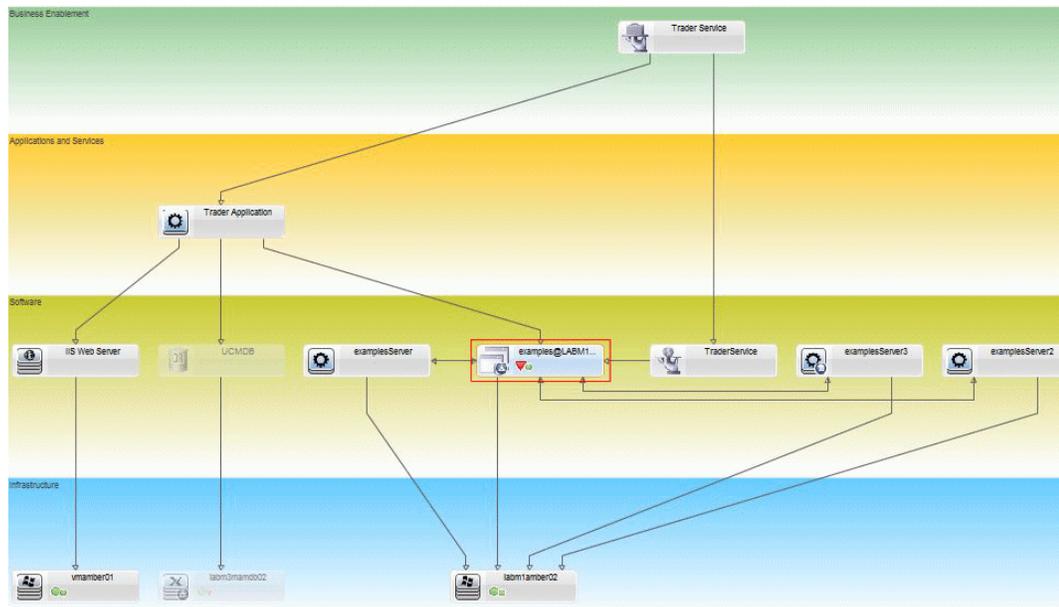
- f. 完了したらクエリを保存します。

3. Configuration Manager でのトポロジ・ポリシーの定義

- a. Configuration Manager で, ポリシー・モジュールに移動し, 新しいトポロジ・ポリシーを作成します。
- b. 名前と説明を設定し, 新規作成したポリシーを「Trader」管理ビューに割り当てます。
- c. [条件] で, UCMDB で作成したクエリを選択し, [条件タイプ] で [正] を選択します。

- d. 新規作成したポリシーを保存し、プレビューします。

この新しいポリシーは、J2EE Cluster をサポートするノード数が2以下になると、次の図で示すように、J2EE Domain の違反を通知します。



Configuration Manager の類似性ポリシー - ユースケース

本項では、Configuration Manager での類似性ポリシーのユースケースを紹介します。

- 「Oracle データベースに接続されるラボ内のすべての UNIX マシンの OS バージョンは、同一にする必要がある」(184ページ)
- 「各クラスタ内のすべてのアプリケーション・サーバが同じ属性を持つ必要がある」(185ページ)

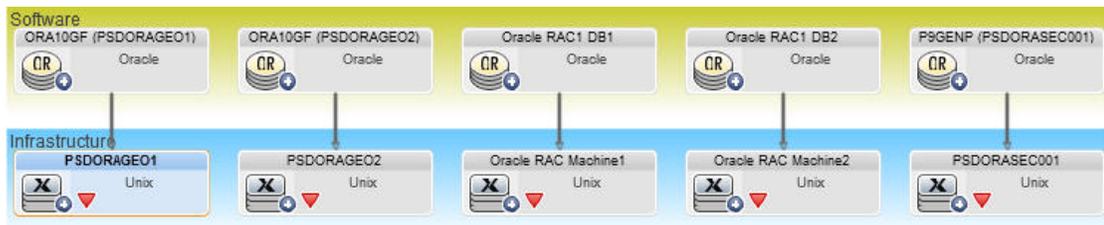
Oracle データベースに接続されるラボ内のすべての UNIX マシンの OS バージョンは、同一にする必要がある

このシナリオには次の手順が含まれています。

- 「前提条件」(184ページ)
- 「類似性ポリシーの定義」(185ページ)

1. 前提条件

UNIX ラボ管理者が、Configuration Manager で管理されている次のビューを持っていること。



UNIX ラボ管理者は、Oracle データベースに接続されているすべての UNIX マシン（つまり、上の図で強調されているマシン）の OS バージョンを、常に同じバージョンにしたいと考えています。また、常に最新パッチを実行したいと考えているため、このバージョンは頻繁に変更されます。

2. 類似性ポリシーの定義

Configuration Manager で [ポリシー] に移動し、新しい類似性ポリシーを作成します。

- [CI タイプとパターンによるグループ化を有効にする] チェック・ボックスを選択解除します。
- 名前と説明を設定します。
- UNIX をメイン CIT として選択します。
- 比較範囲を [Oracle に関連] でフィルタします。
- OS バージョン属性を類似性基準として選択します。

注: ベースライン・ポリシーとは異なり、これには、ポリシーの作成または更新時に入力される固定属性値が含まれます。

新規ポリシーによって、上の図で強調されている UNIX マシンそれぞれの OS バージョン属性の不整合が常に動的に検出されます。つまり、ユーザは、環境で更新が発生するたびにポリシー定義を手動で更新する必要はありません。

このポリシーを定義すると、ポリシー・ステータスのアイコンは、レビュー/認証、変更履歴、認証履歴、およびビューの調査の各モジュールに表示されます。

各クラスタ内のすべてのアプリケーション・サーバが同じ属性を持つ必要がある

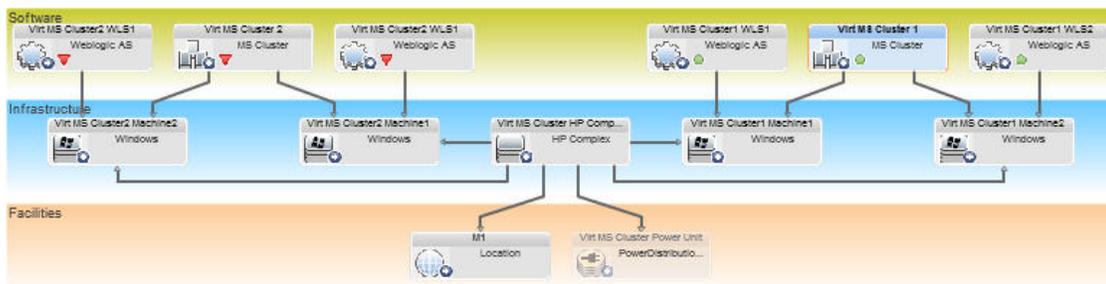
この例では、同じでなければならない属性は、アプリケーション・インストール・パス、アプリケーション・バージョンの説明、ベンダ、およびバージョンです。

このシナリオには次の手順が含まれています。

- 「前提条件」(184ページ)
- 「ビューの作成」(186ページ)
- 「類似性ポリシーの定義」(185ページ)

1. 前提条件

ユーザが、Configuration Manager で管理されている次のビューを持っていること。



多くのクラスタがあり、各クラスタ内に多くのアプリケーション・サーバがあるため、ユーザは、各クラスタについて、アプリケーション・サーバが同じ定義された属性を持つことを確認したいと考えています。

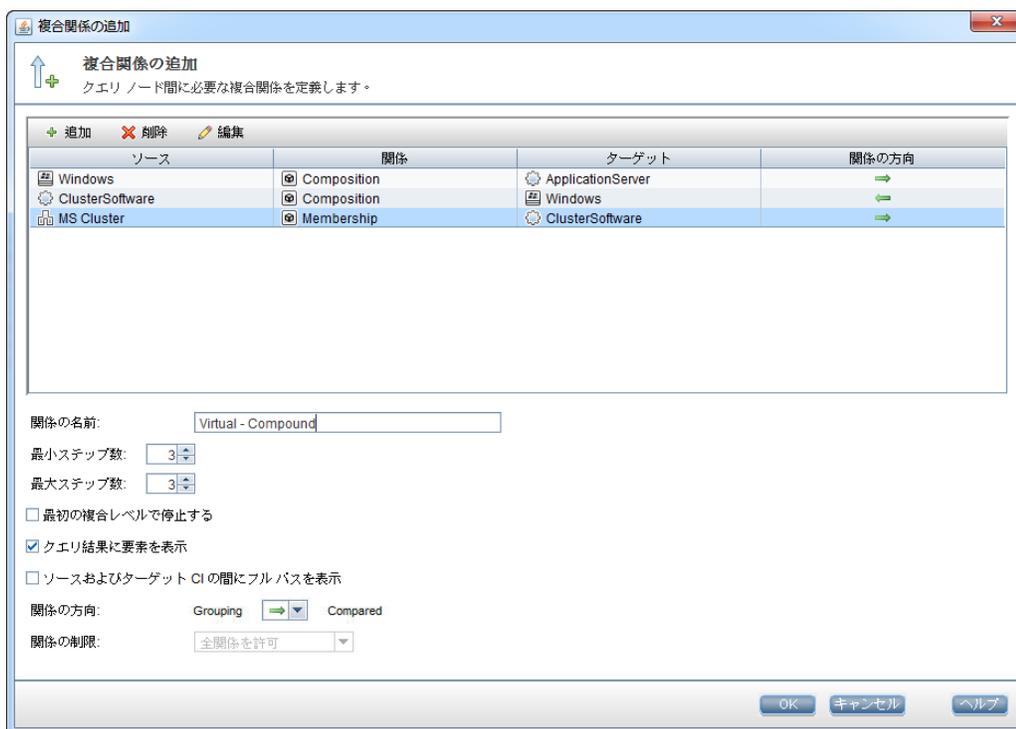
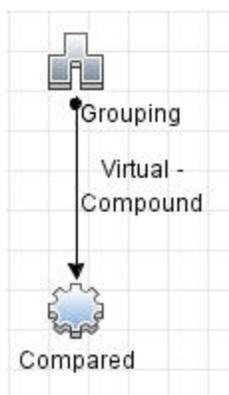
2. ビューの作成

上記に示すビューを使用するか、新しいビュー（それぞれのビューにクラスタが含まれている）を作成して、ポリシーへの適合性をテストします。

3. 類似性ポリシーの定義

Configuration Manager で [ポリシー] に移動し、新しい類似性ポリシーを作成します。

- a. **[CI タイプとパターンによるグループ化を有効にする]** チェック・ボックスが選択されていることを確認します。
- b. **[グループ化]** セクションで、次の手順を実行します。
 - グループ化 CI タイプを選択します（クラスタなど）。
 - クラスタ CIT とアプリケーション・サーバ間の必要なパスを定義するグループ化 TQL を選択します。例：



- c. 名前と説明を設定します。
- d. バージョン属性を類似性基準として選択します。

注: ベースライン・ポリシーとは異なり、これには、ポリシーの作成または更新時に入力される固定属性値が含まれます。

新規ポリシーによって、上の図で強調されている各アプリケーション・サーバ・グループの比較される属性の不整合が常に動的に検出されます。つまり、ユーザは、環境で更新が発生するたびにポリシー定義を手動で更新する必要はありません。比較される属性は、各クラスター・グループ内でのみ比較され、異なるグループ間では比較されません。

このポリシーを定義すると、ポリシー・ステータスのアイコンは、レビュー/認証、変更履歴、認証履歴、およびビューの調査の各モジュールに表示されます。

ポリシーのユーザ・インタフェース

本項の内容

- [属性演算子](#)188
- [\[ポリシー\] ページ](#) 189
- [\[ポリシー プレビュー\] ダイアログ・ボックス](#) 195
- [\[複合CIの選択\] ダイアログ・ボックス](#) 196

属性演算子

次の表は、属性の条件定義で使用する演算子を示します。

任意の演算子の横にある [NOT] 列のチェック・ボックスを選択し、その演算子の値を属性条件から除外します。

演算子	記号	詳細
含む		属性値に指定した値が含まれるかどうかをチェックします。
含む (大文字小文字の区別なし)		属性値に指定した値が含まれるかどうかをチェックします。大文字と小文字は区別されません。
空		属性値が空であるかどうかをチェックします。
等しい		属性値が指定した値と等しいかどうかをチェックします。
等しい (大文字小文字の区別なし)		属性値が指定した値と等しいかどうかをチェックします。大文字と小文字は区別されません。
大きい		属性値が指定した値より大きいかどうかをチェックします。
以上		属性値が指定した値以上かどうかをチェックします。
含まれる		属性値が定義した値リストに含まれるかどうかをチェックします。値のリストを編集するには、[値の編集]  ボタンをクリックします。
含まれる (大文字小文字の区別なし)		属性値が定義した値リストに含まれるかどうかをチェックします。大文字と小文字は区別されません。値のリストを編集する

演算子	記号	詳細
		には、 【値の編集】  ボタンをクリックします。
小さい		属性値が指定した値より小さいかどうかをチェックします。
以下		属性値が指定した値以下かどうかをチェックします。
類似		ワイルドカード (% または *) を使用します。 【類似】 を指定すると、名前の一部を検索できます。ワイルドカード文字を名前の一部として挿入できます。
類似 (大文字小文字の区別なし)		ワイルドカード (% または *) を使用します。 【類似 (大文字小文字の区別なし)】 を指定すると、名前の一部を検索できます。文字列の大文字と小文字は区別されません。
後に発生		(日付タイプの属性を選択したときに表示されます) ポリシーがビューで適用される時点で計算される (時間単位の) 指定期間後に、属性値が生じるかどうかを確認する相対演算子。
以内に発生		(日付タイプの属性を選択したときに表示されます) ポリシーがビューで適用される時点で計算される (時間単位の) 指定期間内に、属性値が生じるかどうかを確認する相対演算子。

[ポリシー] ページ

このページでは、構成ポリシーを定義および編集します。

利用方法	【ポリシー】 を選択します。
重要情報	左の表示枠には、展開可能なポリシー・リストが表示されます。 【詳細】 表示枠には、左の表示枠で選択したポリシーの詳細が表示されません。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> 「ベースライン・ポリシーまたはトポロジ・ポリシーの定義」(178ページ) 「類似性ポリシーの定義」(178ページ)
関連情報	「 ポリシーの概要 」(175ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	ポリシー・グループの追加 : 新しいポリシー・グループを定義できま

UI 要素	詳細
	す。
	<p>ポリシーの追加 : 新しいポリシーを定義できます。次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ベースライン・ポリシーの追加 • トポロジ・ポリシーの追加 • 類似性ポリシーの追加
	<p>削除 : 選択したポリシーまたはグループを削除します。</p>
	<p>切り取り : 選択したポリシーまたはグループを現在の場所から削除して、クリップボードに保存します。</p>
	<p>コピー : 選択したポリシーまたはグループをクリップボードにコピーします。</p>
	<p>貼り付け : コピーしたポリシーまたはグループを選択した場所に追加します。</p>
	<p>取り消す : 最後に実行した操作を取り消します。</p>
	<p>保存 : 現在のポリシーに加えた変更を保存します。</p>
	<p>プレビュー : [ポリシー プレビュー] ダイアログ・ボックスが開き、選択したビューの選択したポリシー適合レベルのプレビューが表示されます。</p> <p>ベースライン・ポリシーのプレビューで、CIを選択してドリルダウンし、その詳細を分析できます。</p> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>注: ユーザがビュー権限を持っているビューのみがサーバに送信され、プレビュー結果に表示されます。ユーザが特定のビューのビュー権限を持たずにプレビューしようとする、エラー・メッセージが表示されます。</p> </div>
	<p>ポリシー分析の再計算 : 選択したポリシーのポリシー分析を再計算します。</p>
	<p>レポートのエクスポート : ポリシー・レポートのデータで使用するエクスポート形式を選択できます。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Excel : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .XLS (Excel) ファイル形式に整形されます。 • PDF : テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。

UI 要素	詳細
	<ul style="list-style-type: none"> • CSV : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。 <p>レポートへの出力の生成時には、現在適用されているフィルタが考慮されます。</p>
	更新 : ポリシー・リストの表示内容を更新します。

左の表示枠

重要情報	<p>[ポリシー] (ポリシー・ツリーのルート) の横にある矢印をクリックすると、ツリーが展開されます。ポリシー・グループの横にある矢印をクリックすると、グループに含まれるポリシーのリストが展開されません。</p>
-------------	--

[詳細] 表示枠

重要情報	<p>左の表示枠でポリシー・グループを選択すると、そのグループの詳細情報が [詳細] 表示枠に表示されます。左の表示枠でポリシーを選択すると、そのポリシーの詳細情報が [詳細] 表示枠に表示されます。</p>
-------------	--

詳細 :<ポリシー> セクション

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
比較範囲 (類似性ポリシー用)	<p>このセクションでは、類似性を比較するメイン CI タイプの指定 (およびオプションで絞り込み) を行います。</p> <p>比較範囲 CI タイプは、[グループ化] オプションを使用したときに自動的に選択されます。</p>
フィルタ (ベースライン・ポリシーとトポロジ・ポリシー用)	<p>このセクションでは、ポリシーへの適合性がテスト済みの CI をフィルタします。本項の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシーへの適合性をテストするためにフィルタするメイン CI タイプです。  ボタンをクリックすると [CI タイプの選択] ダイアログ・ボックスが開き、CI タイプを選択できます。 • メイン CI タイプのプロパティ・セレクタです。  ボタンをクリックすると、[フィルタのベースラインを指定] ダイアログ・ボックスが開きます。プロパティの選択の詳細については、「[ベースライン CI] セクション」(194ページ)を参照してください。 • メイン CI タイプに関連付けられている追加の CI タイプです。  ボタン

UI 要素	説明
	<p>をクリックすると [CI タイプの選択] ダイアログ・ボックスが開き、追加の CI タイプを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択結果の絞り込みに使用する追加の TQL クエリです。  ボタンをクリックすると [TQL の選択] ダイアログ・ボックスが開き、必要なフィルタ TQL クエリを選択できます。
<p>全般</p>	<p>本項の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 詳細: ポリシーの説明を入力します。 ポリシー名: ポリシーの名前を入力します。 カテゴリ: カテゴリは、ポリシーを論理的に分類するユーザ定義のキーワード (任意指定) であり、フィルタに使用できます。たとえば、すべてのラボ・コンピュータに標準ソフトウェアがあることを検証するベースライン・ポリシーを作成すると、キーワード「標準化」を使用してポリシーを分類できます。 <p> をクリックして [ポリシー カテゴリ] ダイアログ・ボックスを開き、  をクリックして必要なカテゴリを追加します。複数のカテゴリをポリシーに追加できます。</p>
<p>グループ化 (類似性ポリシー用)</p>	<p>このセクションでは、類似にする必要がある CI のグループを指定します。CI が同じグループ内にあるある場合にのみ、相互の類似性について CI が比較されます。 [CI タイプとパターンによるグループ化を有効にする] チェック・ボックスは、デフォルトで選択されています。本項の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ポリシーへの適合性をテストするためのグループのベースとして使用するメイン CI タイプです。  ボタンをクリックすると [CI タイプの選択] ダイアログ・ボックスが開き、CI タイプを選択できます。 <p>グループ化 CI タイプの選択後、システムのフォルダがスキャンされ、選択した CI タイプに関連するグループ化パターンのみが [グループ化パターンの選択] ダイアログ・ボックスに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> メイン CI タイプのグループ化パターンです。  ボタンをクリックし、 [グループ化パターンの選択] ダイアログ・ボックスを開きます。 <p>グループ化パターンとは、特定の TQL クエリです (UCMDB で定義されている)。これらの TQL クエリによって、必要なグループ化 CI タイプから必要な比較された (メイン) CI への複合リンクのみが定義される必要があります。</p> <p>Configuration Manager でグループ化 CI タイプと比較された (メイン) CI タイプが正しく特定されるように、TQL クエリの要素名をそれぞれ Grouping, Compared にする必要があります。</p>

UI 要素	説明
	<p>これらのグループ化 TQL クエリは、UCMDB の次の場所に存在する必要があります: 【モデリング スタジオ】 > 【リソース】 タブ (リソース・タイプとして 【クエリ】 を選択) > 【Configuration Manager】 > 【Grouping Patterns】 フォルダ。【Grouping Patterns】フォルダが存在しない場合は、作成します。</p> <p>パターンを選択すると、【比較範囲】 セクションの CI タイプが自動的に選択されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ化 CI タイプのプロパティ・セレクタです。 ボタンをクリックすると、【フィルタのベースラインを指定】 ダイアログ・ボックスが開きます。プロパティの選択の詳細については、「【ベースライン CI】 セクション」(194ページ)を参照してください。 グループ化 CI タイプに関連付けられている追加の CI タイプです。 ボタンをクリックすると 【CI タイプの選択】 ダイアログ・ボックスが開き、追加の CI タイプを選択できます。 選択結果の絞り込みに使用する追加の TQL クエリです。 ボタンをクリックすると 【TQL の選択】 ダイアログ・ボックスが開き、必要なフィルタ TQL クエリを選択できます。 <p>グループの詳細については、「【Configuration Manager の類似性ポリシー - ユースケース】」(184ページ)を参照してください。</p>
<p>類似性の基準 (類似性ポリシー用)</p>	<p>本項は、ポリシーへの適合性をテストする CI タイプと属性を指定するために使用します。デフォルトでは、選択した CI のすべてのコンポーネントと属性が含まれます。特定のコンポーネントを類似性範囲の構成要素にしない場合は、そのコンポーネントの横にあるチェック・ボックスの選択を解除します。</p> <p>コンポーネントを類似性の基準から削除すると、そのすべての属性も自動的にその範囲から削除されます。【属性名】 の横にあるタイトル・バーのチェック・ボックスの選択を解除すると、コンポーネントを含めることができますが、そのすべての属性が削除されます。また、これらのチェック・ボックスの選択を解除すると、選択した属性を削除できます。</p> <p>比較範囲 CI (類似性の基準の適用対象) は、【グループ化】 オプションを使用したときに自動的に選択されます。</p>
<p>有効性</p>	<p>この項は、ポリシーの有効期間の範囲を指定するために使用します。【カレンダー】 ボタン  をクリックし、開始日時と終了日時を選択します。</p>
<p>ビュー</p>	<p>【ポリシーの割り当て先ビュー】 フィールドには、このポリシーが適用</p>

UI 要素	説明
	されるビューが一覧表示されます。  ボタンをクリックして [ビューの選択] ダイアログ・ボックスが開き、ポリシーを適用するビューを選択します。

【ベースライン CI】 セクション

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	<p>事前定義された構成の選択：次のオプションのいずれか1つを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 管理 CI からベースラインを作成：ベースライン CI として利用する既存の CI をビューから選択できます。 • 既存の構成モデルからベースラインを作成：構成分析モジュールから、ベースライン CI として利用するモデルを選択できます。
	<p>ベースラインに CI クラス・タイプを追加：ベースライン定義に追加する CI タイプを選択できます。（ベースラインが定義されていない場合、【ベースラインの作成】と表示されます）。CI カウント機能を使用すると、同じタイプの CI を複数追加できます。</p>
	<p>選択したアイテムをベースラインから削除：ベースライン定義から選択した CI を削除します。</p>
<チェック・ボックス列>	<p>属性の横にあるチェック・ボックスを選択すると、属性をベースライン定義に追加できます。列ヘッダのチェック・ボックスを選択すると、すべての属性が選択されます。</p>
<比較可能列>	<ul style="list-style-type: none"> • 選択した属性の 【比較可能】 列に何も表示されていない場合、その属性は比較項目ではありません。 •  アイコンが選択した属性の 【比較可能】 列に表示されている場合、その属性は比較項目です。 •  アイコンが選択した属性の 【比較可能】 列に表示されている場合、その属性は比較項目であり、システムの照合アルゴリズムで順位が割り当てられています。
【属性名】 列	<p>選択した CI の属性名。</p>

UI 要素	説明
【属性値】列	<p>選択した CI の属性値。</p> <ul style="list-style-type: none"> 属性タイプが [Enum] の場合、ドロップダウン・リストから値を選択するか、フリーテキストを使って新しい値を入力します。 属性タイプが [string_list] の場合、 ボタンをクリックして【属性名】ダイアログ・ボックスを使用することで、複数の値を追加できます。
CI タイプ	<p>ベースラインから CI タイプを選択します。この CI タイプの属性がテーブル形式で表示されます。</p> <p>注: ベースラインでは、同じタイプの CIT を複数選択することができます。このモードは、共通定義モードと呼ばれます。このモードでは、選択した CIT のうちの1つを変更すると、変更内容がすべての CIT に適用されます。</p>
追加の内部 CI を違反とみなす	<p>【追加の内部 CI を違反とみなす】を選択する場合、追加の内部 CI が存在する CI をこのベースラインと比較すると、ポリシー違反とみなされません。</p>
【演算子】列	<p>属性と属性値の関係を定義する演算子を選択します。詳細については、「属性演算子」(188ページ)を参照してください。</p>

【ポリシー プレビュー】ダイアログ・ボックス

このページでは、管理ビューのポリシー適合レベルをプレビューできます。

利用方法	<p>【ポリシー】 ツールバーの【プレビュー】 をクリックします。</p>
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> 「ベースライン・ポリシーまたはトポロジ・ポリシーの定義」(178ページ) 「類似性ポリシーの定義」(178ページ)
関連情報	<p>「ポリシーの概要」(175ページ)</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	計算の続行: 一時停止していたポリシー適合レベルの計算を続行します。
	計算の一時停止: ポリシー適合レベルの計算を一時停止します。

UI 要素	詳細
	ポリシー詳細の表示 : 選択したビューの CI についての詳細を表示します。
CI 名	選択したビューに含まれる CI の名前。
ポリシー適合性	ビューがポリシーに適合しているレベル (%)。
ポリシー・ステータス	選択したビューの各 CI に関するポリシーのステータス。
状態	ビューのステータスを選択します。
ビュー名	ビューの名前。

[複合 CI の選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ベースライン定義で使用する CI を選択します。

利用方法	[事前定義された構成の選択]  をクリックし、[詳細] 表示枠の [ベースライン CI] セクションから [管理 CI からベースラインを作成] を選択します。
重要情報	ベースライン定義で使用する CI を選択すると、その定義で選択されていた CI タイプは削除されます。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> 「ベースライン・ポリシーまたはトポロジ・ポリシーの定義」(178 ページ) 「類似性ポリシーの定義」(178 ページ)
関連情報	「 ポリシーの概要 」(175 ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	詳細
<CI のリスト>	選択しビュー内の CI の名前およびタイプのリスト。モデル CI として使用する CI を 1 つ選択します。
フィルタ	リストの CI をフィルタする文字列を入力します。
状態	[実際] または [承認] を選択します。
ビュー	ドロップダウン・リストからビューを選択します。

トラブルシューティングおよび制限事項 - ポリ シー

ポリシーを操作する際には、次のような制限があります。

条件 TQL クエリでは、管理対象でない属性で属性条件を指定することはできません。

第16章: レポート

本章の内容

- レポートの概要 198
- レポートのスケジュール 199
- レポートのユーザ・インタフェース 200

レポートの概要

レポート・モジュールでは、電子メールで自動的に送信される操作レポートをスケジュールします。これらのレポートには、現在の環境ステータスや環境に対して選択した変更に関する詳細を受信する方法が表示されます。

送信される電子メールの本文には、レポートの名前、その説明、レポートが構成されるビューの名前が表示されます。

事前定義された使用可能なレポートの種類のリストを次に示します。

名前	詳細
実際のポリシー・ステータス	定義済みのポリシーがあるすべてのCIのポリシー・ステータス情報を表示します
認証済みのすべての変更	2つの時刻間で発生した承認済みのすべての変更を表示します
検出されたすべての変更	2つの時刻間で検出されたすべての変更を表示します
承認済みの構成比較	2つの時刻間の、構成内の承認済みの変更を比較します
認証済みの計画変更	2つの時刻間で認証された、すべての計画変更を表示します
認証済みの計画外変更	2つの時刻間で認証された、すべての計画外変更を表示します
認証待ちの変更	認証待ちのすべての変更を表示します
構成比較	2つの時刻間の構成を比較します
詳細なポリシー誤差	定義済みのポリシーがあるすべてのCIのポリシー・ステータスを比較し、2つの時刻間で違反があるCIの詳細なポリシー情報を表示します

名前	詳細
違反 CI	ポリシー違反があるすべての CI のポリシー・ステータス情報を表示します

レポートのスケジュール

このタスクでは、システムのステータスに関する操作レポートをスケジュールし、これらのレポートが指定する頻度で電子メールによって自動的にユーザに送信されるようにする方法を説明します。

レポートをスケジュールするには、次の手順を実行します。

1. 開始する前に、システム管理者がシステムで電子メール通知の送信を有効にし、ユーザの電子メール・アドレスを用意していることを確認してください。詳細については、次を参照してください。
 - 「[\[設定\] ページ](#) (208ページ)の「[メール設定](#)」(213ページ)に関する項
 - How to Define an Email Recipient (『HP Universal CMDB 管理ガイド』)
2. **[レポート]** に移動します。
3. 次のいずれかを実行します。
 -  をクリックし、新しいレポートを作成します。
 -  をクリックし、既存のレポートを編集します。

レポートの追加ウィザードの**[レポート定義]** ページが表示されます。次の情報を指定します。

- レポートのベースとなるビュー。選択できるのは、少なくともビュー権限があるビューのみです。
 - 生成されるレポートのタイプ。選択したレポート・タイプのデフォルトの説明が入力されていますが、編集可能です。この説明は、電子メールの本文とレポートにも表示されます。
 - レポートのファイル名として使用されるレポートの名前は、スケジュールされたレポートのリスト、電子メールの件名、およびレポートの本文に表示されます。
 - 生成されたレポートの出力形式。デフォルトの形式は Microsoft Office Excel ブック (*.xls) です。
4. **[次へ]** をクリックします。**[頻度の選択]** ページが表示されます。
レポートの生成頻度を指定します。
 5. オプションで、**[次へ]** をクリックして、選択したビューに含まれている情報のフィルタをさらに1つまたは複数追加するか、**[完了]** をクリックして終了します。これで、レポートがスケジュールされたレポートのリストに表示されます。

注: 使用可能なフィルタは、選択したレポート・タイプに応じて異なります。

詳細については、「[レポートの詳細ウィザード](#)」(200ページ)を参照してください。

レポートのユーザ・インタフェース

本項の内容

- [レポートの詳細ウィザード](#) 200
- [\[レポート\] ページ](#) 202

レポートの詳細ウィザード

このウィザードでは、自動的な操作レポートをスケジュールします。

利用方法	レポート・モジュールで  をクリックします。
関連タスク	「レポートのスケジュール」 (199ページ)
ウィザード・マップ	「レポートの詳細ウィザード」 には次のページが含まれています。 「[レポート定義] ページ」 > 「[頻度の選択] ページ」 > 「[フィルタの選択] ページ」
関連情報	「レポートの概要」 (198ページ)

[レポート定義] ページ

このページでは、一般レポートの詳細を指定します。

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	詳細
ファイル・タイプ	ドロップダウン・リストから、レポートの受信形式を選択します。 使用可能なタイプは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Microsoft Office Excel ブック (*.xls)• Adobe 文書 (*.pdf)• カンマ区切りの値 (*.csv)
レポートの詳細	レポートの種類の詳細な説明。
レポート名	レポートに割り当てる名前。

UI 要素	詳細
レポート・タイプ	 をクリックし、定義したレポートの種類の一つを選択します。
ビュー	 をクリックし、レポートのベースとなるビューを選択します。

[頻度の選択] ページ

このページでは、レポートの受信頻度を指定します。

特定のレポートの種類では、2つの時点のデータを比較します。これらのレポートの場合、指定した頻度によってもレポートの作成時にどの時点を使用するかが決定されます。

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
頻度	使用可能な頻度は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• 日ごと: レポートを毎日生成します。• 週ごと: レポートを週1回生成します。• 月ごと: レポートを月1回生成します。

[フィルタの選択] ページ

このページでは、レポートに含まれている情報に追加フィルタを指定します。使用可能なフィルタのリストは、選択したレポートの種類に応じて異なります。

指定するフィルタは、生成したレポートに表示されます。

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
<フィルタのリスト>	(任意指定) 使用可能なフィルタを1つまたは複数指定します。

[その他の受信者] ページ

このページでは、レポートの追加の受信者を指定できます。

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
<受信者リスト>	(任意指定) 電子メールアドレスをセミコロン区切りで1つまたは複数指定します。

[レポート] ページ

このページでは、新たにスケジュールされたレポートの追加、既存のレポートの変更や既存のスケジュールされたレポートの削除、スケジュールされたレポート・ジョブの手動実行を行います。

利用方法	[レポート] を選択します。
関連タスク	「レポートのスケジュール」 (199ページ)
関連情報	「レポートの概要」 (198ページ)

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	詳細
	レポートの作成 : 新たにスケジュールされたレポートをリストに追加できます。
	選択したレポートの編集 : 既存のスケジュールされたレポートを編集できます。
	選択したレポートの削除 : スケジュールされたレポートをリストから削除できます。
	レポートの生成 : 選択したレポートを手動で生成して送信できます。 注: レポートは、スケジュールされたイベント時間の変更なしで生成および送信されます。
	更新 : スケジュールされたレポートのリストを更新します。
	レポートのエクスポート : レポートの追加ウィザードで定義された形式でレポートをエクスポートします。詳細については、 「[レポート定義] ページ」 (200ページ) を参照してください。
説明	レポートの追加ウィザードで指定されている、レポートの簡単な説明。詳細については、 「[レポート定義] ページ」 (200ページ) を参照してください。
最終実行時間	レポートが生成された最終時間。
名前	レポートの追加ウィザードで指定されている、レポートに割り当てる名前。詳細については、 「レポートの詳細ウィザード」 (200ページ) を参照してください。
次の実行時間	レポートの生成がスケジュールされている次の時間。詳細については、 「[頻度の選択] ページ」 (201ページ) を参照してください。

UI 要素	詳細
レポート・タイプ	レポートの追加ウィザードで指定されている、レポートのベースとして使用されるレポートの種類。詳細については、「 [レポート定義] ページ 」(200ページ)を参照してください。
ビュー	レポートのベースとなるビュー。詳細については、「 レポートの詳細ウィザード 」(200ページ)を参照してください。 注: レポートのベースとなるビューがUCMDB から削除されていたり、レポートのベースとなるビューにアクセスするための権限がなかったりすると、ビュー名の横に警告アイコンが表示され、エラー・メッセージが表示されます。これらの場合、レポートを生成および送信することはできません。

第17章: 設定

本章の内容

- [設定の概要](#) 204
- [トポロジ・レイアウトへの新しいレイアウトの追加](#) 205
- [構成の変更の保存と適用](#) 205
- [設定のユーザ・インタフェース](#) 206

設定の概要

設定モジュールでは、環境のセットアップに必要な構成セットを定義します。

構成セットには、システムに関して定義したプロパティが含まれています。構成セットを複数作成しておき、そのうちの1つをシステムの実行用に選択することができます。Configuration Manager により、作成したすべての構成セットの履歴が保持されます。既存の構成セットのすべてのバージョンを一覧表示する方法については、「[\[構成セットを開く\] ダイアログ・ボックス](#)」(206ページ)を参照してください。

Configuration Manager では、構成セットをシステム間で移動できます。次のことが行えます。

- ローカル・ディレクトリに構成セットをエクスポートする。
- ローカル・システムから別のシステムに構成セットをインポートする（テスト環境から実稼働環境への移動など）。

新しく作成した構成セットは、ドラフトとして保存されます。ドラフトとは、まだアクティブになっていない構成セットです。ドラフトは、最初にアクティブ化するまでの間は編集可能です。ドラフトがアクティブになった時点で、新しい構成プロパティが Configuration Manager に適用されます。ドラフトをアクティブ化する方法の詳細については、「[構成の変更の保存と適用](#)」(205ページ)を参照してください。

構成セットは、アクティブ化した後は編集できなくなります。したがって、編集の必要がある場合には、ドラフトの新規作成が必要になります。既存の構成セットを元に新しくドラフトを作成し、新しい名前で保存してください。

ドラフトを作成する方法の詳細については、「[\[ドラフトとして保存\] ダイアログ・ボックス](#)」(207ページ)を参照してください。

Configuration Manager は、構成セットの検証を行い、構成に問題があるかどうか（フィールドに値が入力されていないなど）を判定します。問題が検出されると、問題の説明、問題が検出された構成表示枠へのリンク、問題の重大度を示すアイコンが表示されます。

構成に対するこのような検証は、次の操作の後に実行されます。

- 構成セットを保存する
- 構成セットを開く
- 構成セットをインポートする

問題処理の詳細については、「[\[問題\] 表示枠](#)」(220ページ)を参照してください。

注: Configuration Manager の設定を変更するために、サーバ管理者権限が有効になっていることを確認してください。

トポロジ・レイアウトへの新しいレイアウトの追加

このタスクでは、新しいレイヤをトポロジ・レイアウトに追加する方法を説明します。

1. **【管理】 > 【設定】 > 【アプリケーション管理】 > 【トポロジ表示】 > 【トポロジレイアウト】** に移動します。
2. **【レイヤ】** 表示枠で、 をクリックし、新しい構成を構成セットに追加します。
 - **【表示名】** フィールドに新しいレイヤの名前を入力します。
 - **【名前】** リストから **virtualization_infrastructure** を選択します。
 - **【レベル数】** フィールドに「5」と入力します。
 - **【レイヤ】** 列の **【色】** で、新しいレイヤの色を選択します。新しいレイヤの色が仮想化インフラストラクチャ分類の色と同じであることを確認してください。

注: レイヤの色と分類値の色を同じにすることを推奨します。

3. **【機能】** レイヤの **【レベル数】** フィールドに「6」と入力します。
4.  をクリックして新しい構成セットを保存します。
5. **【ドラフトとして保存】** ダイアログ・ボックスに新しい構成セットの名前を入力し、**【保存】** をクリックします。
6.  をクリックし、保存した構成セットをアクティブ化します。

構成の変更の保存と適用

このタスクでは、構成の変更を保存する方法と、Configuration Manager に新しい構成プロパティを適用する方法について説明します。

1. **【管理】 > 【設定】** を選択して、必要な構成の変更を行います。
2. 左の表示枠にある **【現在の編集可能な構成セットの保存】**  ボタンアクションの編集をクリックすると、**【ドラフトとして保存】** ダイアログ・ボックスが開きます。ここで、変更した構成セットをドラフトとして保存します。ドラフトとは、まだアクティブになっていない構成セットです。ドラフトがアクティブ化されると、新しい構成プロパティが Configuration Manager に適用されます。
3. **【ドラフト名】** ボックスにドラフトの名前を入力し、**【保存】** をクリックします。
4. 左の表示枠にある **【構成セットを開く】**  ボタンをクリックすると、**【構成セットを開く】** ダイアログ・ボックスが開きます。
5. **【ドラフト】** ボタンをクリックすると、既存のドラフトのみが表示されます。
6. 必要なドラフトを選択して、**【開く】** をクリックします。現在選択されている構成セットの名前が、左の表示枠の一番上に表示されます。
7. 左の表示枠にある **【現在の構成セットのアクティベーション】**  ボタンをクリックします。選択したドラフトがアクティブになり、Configuration Manager に新しい構成プロパティが適用されます。

設定のユーザ・インタフェース

本項の内容

- **【構成セットを開く】** ダイアログ・ボックス 206
- **【ドラフトとして保存】** ダイアログ・ボックス 207
- **【設定】** ページ 208

【構成セットを開く】 ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、既存の構成セット・バージョンがすべて一覧表示されます。

利用方法	左の表示枠で、 【管理】 > 【設定】 > 【構成セットを開く】  を選択します。
重要情報	構成セット・バージョンの名前は変更できません。
関連タスク	「構成の変更の保存と適用」 (205ページ)
関連情報	「構成の変更の保存と適用」 (205ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	【現在アクティブな構成セット】 :現在アクティブな構成セットを示します。
	【以前にアクティベーションした構成セット】 :これまでにアクティベーションした構成セットを示します。
	ドラフト :まだアクティブになっていない構成セットである, ドラフトを示します。ドラフトをアクティブ化すると, ドラフトの変更内容が Configuration Manager の履歴に適用および保存されます。
アクティベーション済み	現在アクティブな構成セットを表示します。
すべて	既存の構成セットとドラフトをすべて表示します。
ドラフト	既存のドラフトをすべて表示します。
最終アクティベーション実行者	ドラフト/構成セットを最後にアクティベーションしたユーザの名前。
最終アクティベーション実行日時	ドラフト/構成セットを最後にアクティベーションした日時。
最終更新者	ドラフト/構成セットを最後に変更したユーザの名前。
最終変更日時	ドラフト/構成セットを最後に変更した日時。

[ドラフトとして保存] ダイアログ・ボックス

このダイアログボックスでは, 新しい構成セットのドラフトを作成します。ドラフトとは, まだアクティブになっていない構成セットです。ドラフトは, 最初にアクティブ化するまでの間は編集可能です。ドラフトをアクティブ化すると, 構成プロパティが Configuration Manager に適用されます。ドラフトをアクティブ化する方法の詳細については, [「構成の変更の保存と適用」\(205ページ\)](#) を参照してください。

利用方法	左の表示枠で, 【管理】 > 【設定】 > 【現在の編集可能な構成セットの保存】  を選択します。
重要情報	既存のドラフトの名前は変更できません。
関連タスク	「構成の変更の保存と適用」(205ページ)
関連情報	「設定の概要」(204ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	詳細
<既存のドラフトのリスト>	既存のドラフトをすべて一覧表示します。
ドラフト名	新しいドラフトの名前として、一意の名前を入力します。
最終更新者	ドラフトを最後に変更したユーザの名前。
最終変更日時	ドラフトを最後に変更した日時。
名前	ドラフトの名前。

[設定] ページ

このページでは、Configuration Manager の構成セットを変更します。

利用方法	【管理】 > 【設定】 を選択します。
重要情報	設定を変更すると、左の表示枠で、変更したカテゴリの名前の横にアスタリスクが表示されます。
関連タスク	「構成の変更の保存と適用」 (205ページ)
関連情報	「設定の概要」 (204ページ)

左の表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	詳細
	<p>【現在の編集可能な構成セットの保存】 :新しい構成セットのドラフトを作成します。ドラフトとは、まだアクティブになっていない編集可能な構成セットです。</p> <p>このボタンは、現在アクティブになっている構成セットを変更すると有効になります。詳細については、「【ドラフトとして保存】ダイアログ・ボックス」 (207ページ)を参照してください。</p>
	<p>【構成セットを開く】 :既存の構成セット・バージョンすべてを一覧表示します。詳細については、「【構成セットを開く】ダイアログ・ボックス」 (206ページ)を参照してください。</p>

UI 要素	詳細
	<p>【構成セットのインポート】 : ローカル・システムから同じシステムまたは別のシステムに構成セットをインポートします。【構成セットのインポート】ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>重要 : Configuration Manager では、同じバージョンの Configuration Manager から一部エクスポートした構成セットを既存の構成セットにインポートできます。</p> <ul style="list-style-type: none">• 既存の構成セットをすべてのプロパティで上書きできます。• インポートした構成セットにない既存の構成を削除することはできません。 <p>例:</p> <ol style="list-style-type: none">1. 【管理】 > 【設定】 > 【アプリケーション管理】 > 【トポロジ表示】 > 【トポロジ レイアウト】 を選択します。2. [レイヤ] 表示枠で 【ソフトウェア】 フィールドとフィールドに関連付けられた色を削除します。3. 構成セットをエクスポートします。4. 次に、構成セットを、【ソフトウェア】 フィールドが存在する別のドラフトにインポートします。インポート操作を実行しても、【ソフトウェア】 フィールドはドラフトから削除されません。他の既存のエントリが上書きされるか、そのドラフトに新しいエントリが追加されるだけです。エントリを削除するには、手動で行います。 <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none">• まだアクティブになっていない構成セット（ドラフト）の使用中に構成セットをインポートすると、インポートした構成セットによって現在のドラフトが上書きされます。• すでにアクティブになっている構成セットの使用中に一部エクスポートした構成セットをインポートするには、【構成セットのインポート】 ダイアログ・ボックスの 【ドラフト名】 ボックスに別のドラフト名を入力してドラフトを作成する必要があります。 <p>制限事項:</p> <ul style="list-style-type: none">• Configuration Manager のユーザ・インタフェースを使用してエクスポートした構成セットを、構成セットのエクスポート・ユーティリティでインポートすることはできません。詳細については、「構成セットのエクスポート」 (241ページ) を参照してください。• 構成セットのエクスポート・ユーティリティを使用してエクスポートした構成セットを、Configuration Manager のユーザ・インタフェースでインポートすることはできます。この場合、現在アクティブな構成

UI 要素	詳細
	<p>セットが完全に上書きされます（インポートしたセットにない構成アイテムは削除されます）。</p> <p><Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>\conf\ フォルダにある vanilla.zip ファイルから構成セットをインポートする場合も、現在アクティブな構成セットが上書きされます。</p>
	<p>【構成セットを zip ファイルにエクスポート】 :ローカル・ディレクトリに構成セット全体または構成セットの一部を zip ファイルでエクスポートします。【構成セットのエクスポート】ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>【構成セットのエクスポート】ダイアログ・ボックスで、ツリーからエクスポートする構成セットを選択します。</p>
	<p>【現在の構成セットのアクティベーション】 :ドラフト/構成セット内の構成プロパティを Configuration Manager に適用します。これにより、この構成セットはアクティブな構成セットになります。</p> <p>注: 同時に複数の構成セットがアクティブになることはありません。</p>
	<p>【構成を構成セットに追加】 :構成ツリーでノードを選択すると、このボタンが有効になります。下位構成を追加できます。</p>
	<p>【構成を構成セットから削除】 :構成ツリーでノードを選択すると、このボタンが有効になります。下位構成を削除できます。</p>
	<p>構成カテゴリを表します。</p> <p>注: 各カテゴリの横の矢印をクリックすると、下位レベルのカテゴリを展開したり折りたたむことができます。</p>
<p><構成ツリー></p>	<p>構成カテゴリが表示されます。ツリー内でノードを選択すると、右の表示枠に構成フィールドが表示されます。ツリー内でファイルを選択すると、右の表示枠が開きます。</p>

構成セットは、次のカテゴリに分類されます。

自動化インパクト

<p>利用方法</p>	<p>【管理】 > 【設定】 > 【アプリケーション管理】 > 【自動化インパクト】 を選択します。</p>
--------------------	--

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

設定	説明
インパクト分析のステータス	実際または認証済みステータスのビューから、自動化がCIに及ぼす影響をインパクト分析で計算するかどうかを決定できます。 次のオプションを選択できます。 <ul style="list-style-type: none">• ACTUAL (デフォルト)• 認証済み 詳細については、「 [自動化分析] > [インパクト-<ステータス>] 表示枠 (84ページ)を参照してください。

変更管理

利用方法	[管理] > [設定] > [統合] > [変更管理] を選択します。
------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

設定	説明
変更管理統合を有効にする	このチェック・ボックスを選択すると、次のことができます。 <ul style="list-style-type: none">• 変更管理システムとの直接統合を有効にして RFC を作成する。• 変更管理システムに関連する RFC の認証アクションをログ記録する。 これらは、レビュー/認証モジュールのロールバック RFC またはビューの調査モジュールのポリシー修復 RFC のいずれかになります。

表示設定

利用方法	[管理] > [設定] > [表示設定] を選択します。
------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

設定	説明
CI が複数のビューに存在することを示す表示	CI が複数のビューで管理されていることを示す CI リストで警告アイコンを表示する場合に、このチェック・ボックスを選択します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。

取得される RFC 基準

利用方法	[管理] > [設定] > [アプリケーション管理] > [RFC] > [取得される RFC 基準] を選択します。
------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

設定	説明
RFC 最大日数	RFC の終了予定日から経過可能な最大日数。
RFC CI タイプ	<p>RFC の定義が可能な CI タイプを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">  クリックすると、新しい CI タイプを追加します。  クリックすると、選択した CI タイプを削除します。 <p>CI タイプ名は手動で編集できます。</p>
RFC フィルタ	<p>プロパティ名と値に基づいて、分析および表示する RFC をフィルタします。</p> <ul style="list-style-type: none">  クリックすると、新しいプロパティを追加します。  クリックすると、選択したプロパティを削除します。 <p>プロパティの名前と値は手動で編集できます。</p> <p>注: プロパティは 1 行ずつ表示され、値はカンマ区切りで表示されます。RFC のプロパティ値が指定された値のいずれかの場合、その RFC は表示されます。</p>

高優先度ビュー - オフライン分析と認証タスク

利用方法	<p>【管理】 > 【設定】 > 【アプリケーション管理】 > 【ジョブの同期】 > 【オフライン分析と認証】 > 【オフライン分析と認証タスク】 を選択します。</p>
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

設定	説明
オフライン分析の繰り返し間隔	基本となる間隔を秒単位で指定します。他のタスクでは、この間隔を基準（倍数）に設定を行います。
候補の削除の繰り返しサイクル数	候補の削除を連続実行する際の実行間隔（サイクル数）。
自動認証の繰り返しサイクル数	自動認証を連続実行する際の実行間隔（サイクル数）。

低優先度ビュー - 日次ビューの更新設定

利用方法	【管理】 > 【設定】 > 【アプリケーション管理】 > 【ジョブの同期】 > 【オフライン分析と認証】 > 【日次ビューの更新設定】 を選択します。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

設定	説明
低優先度ビューの更新を開始する時間	オフライン分析を実行する時間を選択します。
1日あたりの低優先度ビューの更新回数	低優先度ビューが更新される1日あたりの回数を選択します。

メール設定

利用方法	【管理】 > 【設定】 > 【アプリケーション管理】 > 【メール設定】 を選択します。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

設定	説明
メールを有効にする	電子メールの送信を有効にするには、このオプションを選択します。詳細については、「 [ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックス 」(235 ページ)を参照してください。
メールを送信する時間 (0 ~ 23)	システムによって通知が送信される時間。
SMTP サーバ・アドレス	SMTP サーバの送信アドレス。
SMTP ポート	SMTP サーバのポート番号。
SMTP 送信者のメール・アドレス	通知の送信元の SMTP サーバのメール・アドレス。
SMTP では認証が必要です	SMTP サーバで認証が必要かどうかを指定します。
SMTP ユーザ名	SMTP サーバのユーザ名。[SMTP では認証が必要です] を選択した場合にのみ関連します。
SMTP パスワード	SMTP サーバのパスワード。[SMTP では認証が必要です] を選択した場合にのみ関連します。
Configuration Manager の完全な URL	<p>Configuration Manager サーバの完全な URL。この URL は次の 2 つの目的に果たします。</p> <ul style="list-style-type: none"> Configuration Manager へのリンクを電子メール通知とスケジュールされたレポートに挿入できるようにする (この URL が指定され、詳細情報が要求された場合)。 UCMDB の起動ページから Configuration Manager にリンクする (この URL は UCMDB でも設定できる)。 <p>注: Configuration Manager がリバース・プロキシを挟んでインストールされている場合、リバース・プロキシ URL を入力してください。</p>

設定	説明
管理者のメール・アドレス	システム管理者のメール・アドレス。通知を送信しようとしたときに発生した問題に関する電子メールを、直接システム管理者に送信する場合に使用されます。

オフライン消去

利用方法	【管理】 > 【設定】 > 【アプリケーション管理】 > 【ジョブの同期】 > 【オフライン消去】 を選択します。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

設定	説明
オフライン消去の繰り返し間隔	ポリシー履歴と統計履歴を連続実行する際の実行間隔（日数）。
履歴の保持	環境スナップショット、ポリシー履歴、統計履歴を格納する日数。この日数よりも古いポリシー履歴と統計履歴は、次の消去時に削除されません。

Operations Orchestration

利用方法	【管理】 > 【設定】 > 【統合】 > 【Operations Orchestration】 > 【Operations Orchestration】 を選択します。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

設定	説明
周期間隔	HP Operations Orchestration サーバで自動化フローの結果をチェックする頻度を示す間隔（単位:秒）を定義します。 標準設定 : 60 秒
ホスト	HP Operations Orchestration サーバがインストールされているマシンのホスト名。
パスワード	HP Operations Orchestration サーバへの接続に必要なパスワード。
ポート	HP Operations Orchestration サーバで使用するポート。
ユーザ名	HP Operations Orchestration サーバへの接続に必要なユーザ名。
バージョン	HP Operations Orchestration のバージョン。

RFC 作成

利用方法	【管理】 > 【設定】 > 【アプリケーション管理】 > 【RFC】 > 【RFC 作成】 を選択します。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

設定	説明
カテゴリ	RFC の作成時に使用できるカテゴリの考えられる範囲。 関連項目 :計画 RFC
デフォルト割り当てグループ	RFC の作成時に使用されるデフォルト割り当てグループを設定します。
デフォルト変更コーディネータ	RFC の作成時に使用されるデフォルト変更コーディネータの値を設定します。
デフォルト・サービス名	RFC の作成時に使用されるデフォルト・サービス名の値を設定します。
影響	RFC の可能なインパクトの範囲。
緊急度	RFC の緊急度 :
リスク評価	RFC のリスクの評価 : 関連項目 :計画 RFC
変更の理由	RFC が必要な理由。

RFC 表示

利用方法	【管理】 > 【設定】 > 【アプリケーション管理】 > 【RFC】 > 【RFC 表示】 を選択します。
------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

設定	説明
RFC プロパティ	表示する RFC プロパティを設定します。 <ul style="list-style-type: none">  クリックすると、新しいプロパティを追加します。  クリックすると、選択したプロパティを削除します。 プロパティ名は手動で編集できます。

Service Manager

利用方法	【管理】 > 【設定】 > 【統合】 > 【変更管理】 > 【Service Manager】 を選択します。
重要情報	Service Manager と Configuration Manager 間の統合を可能にするサービスを有効にするには、 cm4sm.unl ファイルを Service Manager にロードす

	る必要があります。詳細については、 「UNL ファイルの Service Manager へのインポート」 (125ページ) を参照してください。
関連情報	「変更管理」 (211ページ)

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

設定	説明
接続ストラテジ	HTTP を選択します。
ホスト名	Service Manager サーバのホスト名。
ポート番号	Service Manager サーバのポート番号 (デフォルト :13080) 。
ユーザ名	Service Manager ユーザ名。
パスワード	Service Manager パスワード。
日付形式	使用する日付形式を選択します。選択した日付形式は、Service Manager などの変更管理システムでサポートされている必要があります。

トポロジ・レイアウト

利用方法	【管理】 > 【設定】 > 【アプリケーション管理】 > 【トポロジ表示】 > 【トポロジ レイアウト】 を選択します。
------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

設定	説明
レイヤ	トポロジ・マップで表示するレイヤを設定します。 <ul style="list-style-type: none">  クリックすると、新しいレイヤを追加します。  クリックすると、選択したレイヤを削除します。 レイヤの名前、表示名、レベル数、色を編集できます。 詳細については、 「トポロジ・レイアウトへの新しいレイアウトの追加」 (205ページ) を参照してください。
分類	トポロジ・マップで表示する分類を設定します。 <ul style="list-style-type: none">  クリックすると、新しい分類を追加します。  クリックすると、選択した分類を削除します。 分類の名前、表示名、レベル数、色を編集できます。

設定	説明
レイアウト例外	<p>上記で定義した分類に対して例外を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">  クリックすると、新しい例外を追加します。  クリックすると、選択した例外を削除します。 <p>選択した CI タイプについて、指定した属性が指定した値である場合、指定した分類が適用されます。</p>

トポロジ制限

利用方法	【管理】 > 【設定】 > 【アプリケーション管理】 > 【トポロジ制限】 を選択します。
重要情報	トポロジ制限の設定を変更した後、Configuration Manager サーバを再起動する必要があります。

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

設定	説明
グラフィック・レイアウトの上限	トポロジ・マップで表示可能な複合 CI の最大数。

UCMDB ファウンデーション

利用方法	【管理】 > 【設定】 > 【統合】 > 【UCMDB ファウンデーション】 > 【UCMDB ファウンデーション】 を選択します。
重要情報	本項では、インストール時に指定された UCMDB ファウンデーション接続情報について説明します。編集できるのは、【UCMDB アクセス URL】フィールドだけです。UCMDB に対してリバース・プロキシまたはルート・コンテキストを定義している場合、【UCMDB アクセス URL】フィールドをそれに応じて更新する必要があります。

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

設定	説明
接続ストラテジ	UCMDB への接続方法。
顧客	UCMDB 顧客の名前。
UCMDB サーバ名	UCMDB サーバの名前。

設定	説明
UCMDB サーバ・ポート	UCMDB サーバのポート番号。
UCMDB アクセス URL	UCMDB へのアクセスに使用する URL。
ユーザ名	UCMDB ユーザ名。
パスワード	UCMDB ユーザ・パスワード。

UI 統合

利用方法	[管理] > [設定] > [統合] > [UI 統合] を選択します。
関連タスク	「外部アプリケーションの起動」(79ページ)

以下では、使用されるインターフェース要素について説明します。

設定	説明
構成された UI	<p>開くことができる URL を構成します。</p> <ul style="list-style-type: none">  クリックすると、リストに新しい URL を追加できます。 リストに追加する各 URL について、表示名と開かれる URL を指定します。URL には、次のいずれかの変数を含めることができます。 <ul style="list-style-type: none"> \${ucmdbId} - 複合 CI の ID (UCMDB に表示される) \${ucmdbName} - 複合 CI の名前 (UCMDB に表示される) \${ucmdbViewName} - ビューの名前 (UCMDB に表示される) \${ucmdbcmViewId} - ビューの ID (Configuration Manager ビュー ID)  クリックすると、選択した URL を削除します。 有効な URL は次のいずれかで開始する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> http:// https:// mailto:

値の推奨

利用方法	【管理】 > 【設定】 > 【アプリケーション管理】 > 【ジョブの同期】 > 【オフライン分析と認証】 > 【値の推奨】 を選択します。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

設定	説明
最大保存数	推奨される属性値をデータベースに保存する際の、属性値の最大個数。
最大表示数	推奨される属性値を表示する際の、属性値の最大個数。
属性値の統計情報の計算を有効にする	属性値の統計情報の計算を有効または無効にします。
属性値統計の繰り返しサイクル数	属性値統計の再計算を連続実行する際の実行間隔（サイクル数）。

[問題] 表示枠

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	<p>問題の重大度レベルを示します。次のアイコンが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> : 構成セットにエラーが存在することを示します。この場合、構成セットをアクティブ化することはできません。また、現在の構成セットのアクティベーション  ボタンは無効になります。 : 警告を示します。この状態でも構成セットのアクティブ化は可能です。 : 情報メッセージを表示します。この状態でも構成セットのアクティブ化は可能です。
コード	問題がある表示枠へのリンクを示します。リンクをクリックすると、構成ツリーでノードが選択され、それに対応する表示枠が右側に表示されます。
説明	問題の説明を示します。

第18章: 自動化設定

このモジュールは、HP Universal CMDB Configuration Manager のバージョン 9.2 または 9.3 の関連ライセンスを購入したお客様が使用される場合にのみ有効です。新しいお客様はこのライセンスを購入できません。

HP ソフトウェアでは、UCMDB Browser 自動化ウィジェット (Configuration Manager の埋込型 UCMDB Browser でも利用可能) を使用して、構成管理条件に基づく自動化フローを構成することを推奨しています。詳細については、UCMDB Browser オンライン・ヘルプの自動化ウィジェットについてのセクションを参照してください。

本章の内容

- [自動化設定の概要](#)221
- [自動化のセットアップ](#)222
- [\[自動化設定\] ユーザ・インタフェース](#)223

自動化設定の概要

Configuration Manager では、HP Operations Orchestration で事前定義されたフローを使用して、標準的なシステム運用作業を自動化できます。

自動化には、次の情報が含まれます。

- 名前や説明などの一般的な詳細
- 自動化を実行する CI タイプ
- 自動化の管理の有無
- 自動化のリスク計算に使用するパラメータ
- 自動化設定で指定できるパラメータ・マッピング
 - 00 フローから入力される選択リスト
 - 00 フローから入力される標準設定値

注: HP Operations Orchestration バージョン 9.0 からフローをインポートした場合、Configuration Manager には標準設定値は表示されません。標準設定値は、セットアップ時または実行時に手動で入力する必要があります。

- フリー・テキスト

- 実行時に選択したCIからの値
マッピングできるCIタイプは次のとおりです。
 - **ノード**:ドメイン名, ホスト名, IP アドレス
 - **実行中のソフトウェア**:ドメイン名, ホスト名, IP アドレス, インストール・パス, ソフトウェア名

自動化のセットアップ

このタスクでは、HP Operations Orchestration のフローから自動化を作成し、構成する方法を説明します。

本項の内容

- [「HP Operations Orchestration の接続設定」 \(222ページ\)](#)
- [「次からのフローのインポート: HP Operations Orchestration」 \(222ページ\)](#)
- [「自動化プロパティの指定」 \(223ページ\)](#)

1. HP Operations Orchestration の接続設定

- a. **【管理】 > 【設定】 > 【統合】 > 【Operations Orchestration (OO)】 > 【OO Server Location】** へ移動します。
- b. 次の詳細を入力します。

UI 要素	詳細
周期間隔	HP Operations Orchestration サーバで自動化フローの結果をチェックする頻度を示す間隔 (単位: 分) を定義します。 標準設定: 60 秒
ホスト	HP Operations Orchestration サーバがインストールされているマシンのホスト名。
パスワード	HP Operations Orchestration サーバへの接続に必要なパスワード。
ポート	HP Operations Orchestration サーバで使用するポート。
ユーザ名	HP Operations Orchestration サーバへの接続に必要なユーザ名。
バージョン	HP Operations Orchestration のバージョン。

2. 次からのフローのインポート: HP Operations Orchestration

HP Operations Orchestration からフローをインポートする場合、Configuration Manager で自動化を作成します。

- a. **【管理】 > 【自動化設定】** を選択します。
 - b.  をクリックして **【フローの選択】** ウィンドウを開きます。
 - c. 左の表示枠でフロー・ツリーをクリックして展開し、Configuration Manager で自動化として実行する HP Operations Orchestration のフローを選択します。
 - d. **【OK】** をクリックして **【自動化設定】** ウィンドウに戻ります。
3. 自動化プロパティの指定
- a. **【自動化】** ウィンドウの左の表示枠で、構成する自動化を選択します。
 - b. 自動化に必要な詳細を入力します。
 - 自動化の名前は 00 フローから自動的に取得されますが、変更も可能です。
 - 自動化する CI タイプを指定する必要があります。
 - c. **【保存**  **】** をクリックします。

[自動化設定] ユーザ・インタフェース

本項の内容

- [【自動化設定】 ページ](#)223

[自動化設定] ページ

このページには、現在管理対象になっている自動化のリストが表示されます。このページで、HP Operations Orchestration のフローをインポートし、構成を変更できます。

利用方法	【管理】 > 【自動化設定】 を選択します。
重要情報	左の表示枠には、自動化が一覧表示されます。右の表示枠には、左の表示枠で選択した自動化の詳細が表示されます。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none">• 「自動化のセットアップ」 (222ページ)• 「コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行」 (75ページ)
関連情報	「自動化設定の概要」 (221ページ)

左の表示枠

UI 要素	詳細
	クリックすると、自動化リストが更新されます。
	クリックすると、選択した自動化に加えた変更を保存できます。
	クリックすると、編集可能なすべての自動化に加えた変更を保存できます。
	クリックすると、自動化リストにフローを追加できます。
	クリックすると、選択した自動化を自動化リストから削除できます。

<自動化>表示枠 - [自動化の詳細] 領域

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
関連する CI タイプ	この自動化を割り当てる特定の CI タイプを選択できます。  をクリックして [CI の選択] ウィンドウを開きます。 実行中は、選択した CI タイプに割り当てられた自動化のみが表示されます。たとえば、CI タイプとして Windows を選択して自動化を実行すると、Windows CI タイプに関連する自動化と、階層でその上位にある他のブランチが表示されます。
詳細	自動化の説明。デフォルトでは、インポートしたフローの説明が自動化の説明として使用されますが、変更も可能です。
フロー・パス	HP Operations Orchestration ツリーでインポートしたフローの元のフル・パスと名前を (参考情報として) 表示します。
フロー UUID	インポートしたフローの一意の識別子を (参考情報として) 表示します。
名前	自動化の名前。デフォルトでは、インポートしたフローの名前が自動化の名前として使用されますが、変更も可能です。

<自動化>表示枠 - [実行の詳細] 領域

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
構成変更の原因	自動化によって UCMDB の CI の変更が発生するかどうかを指定します。 [はい] または [いいえ] を選択します。ポリシー定義や自動化分析の際に使用します。
ダウンタイムの原因	自動化によって実行中に CI が使用できない状態になるかどうかを指定します。 [はい] または [いいえ] を選択します。ポリシー定義や自動化分析の際に使用します。
コントロールされた実行	このチェック・ボックスを選択すると、選択したフローをコントロールされた自動化として実行するように指定できます。 このチェック・ボックスの選択を解除すると、選択したフローをコントロールされない自動化として実行するように指定できます。 <ul style="list-style-type: none">コントロールされた自動化では、自動化を実行する前にポリシーおよび分析をレビューします。コントロールされない自動化では、追加情報なしで自動化が実行されます。 自動化の実行の詳細については、「 コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行 」(75ページ)を参照してください。
推定リスク・レベル	自動化におけるリスク・レベルの客観的評価です。有効な値： <ul style="list-style-type: none">不明なし低い中高い ポリシー定義や自動化分析の際に使用します。

<自動化>表示枠 - [実行パラメータ] 領域

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
<フロー実行パラメータ>	<p>自動化を実行するときに使用するパラメータを指定します。このリストに表示されるパラメータは、選択したフローによって異なります。</p> <p>注: グレーのアスタリスクは、HP Operations Orchestration フローの必須フィールドを示します。必須値を入力しないと、ビューの調査モジュールで自動化を実行できません。自動化の実行方法については、「コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行」(75ページ)を参照してください。</p>

第19章: 自動化ポリシー

このモジュールは、HP Universal CMDB Configuration Manager のバージョン 9.2 または 9.3 の関連ライセンスを購入したお客様が使用される場合にのみ有効です。新しいお客様はこのライセンスを購入できません。

HP ソフトウェアでは、UCMDB Browser 自動化ウィジェット (Configuration Manager の埋込型 UCMDB Browser でも利用可能) を使用して、構成管理条件に基づく自動化フローを構成することを推奨しています。詳細については、UCMDB Browser オンライン・ヘルプの自動化ウィジェットについてのセクションを参照してください。

本章の内容

- [自動化ポリシーの管理の概要](#)227
- [自動化ポリシーの定義](#)228
- [Configuration Manager 自動化ポリシー - 使用例](#)228
- [\[自動化ポリシー\] ユーザ・インタフェース](#)230

自動化ポリシーの管理の概要

自動化ポリシーは、自動化を実行する上でどのような場合にリスクが高まるかを判断するビジネス・ルールです。自動化ポリシーの評価により、これらのリスクを認識できます。

すべての自動化ポリシーは、自動化ポリシー管理モジュールで管理されています。自動化ポリシーによって、自動化実行の情報および評価に基づいて制限を定義できます。

Configuration Manager は組織のポリシーを事前に評価し、自動化がビジネス・ルールに適合しているかどうかを判断します。

条件の基準に使用できるのは、インパクトの重大度や重要度などの CI 分析情報と、成功率や衝突条件などのフロー統計です。これは、その条件で容認できるしきい値を示します。それぞれのポリシー評価で、違反または合格という結果が出ます。

たとえば、**My_CI** アプリケーションのインパクトの重大度レベルが **[クリティカル]** または **[高い]** である場合、ポリシー違反とするルールを定義できます。自動化がすべての条件を満たす場合、ポリシー違反とみなされます。

自動化の実行方法については、「[\[自動化実行\] ダイアログ・ボックス](#) (80ページ)を参照してください。

自動化ポリシーの定義の詳細については、「[\[自動化ポリシー\] ページ](#) (230ページ)を参照してください。

注: 自動化ポリシー権限を持っているユーザは、すべてのポリシーを表示、変更できます。

自動化ポリシーの定義

このタスクでは、新しい自動化ポリシーの定義方法を説明します。

1. **【管理】** > **【自動化ポリシー】** ツールバーで **【新規ポリシーの追加】**  をクリックします。
2. **【全般】** 領域で、次を入力します。
 - ポリシーの名前
 - ポリシーの説明
 - ポリシーの検証頻度
3. **【範囲】** 領域で、新しい自動化ポリシーを適用するビューを選択します。特定のビューを選択するか、ポリシーをすべてのビューに適用します。
4. (任意指定) ポリシーへの適合性をテストするCIのCIタイプを選択します。
5. **【制限】** 領域で、必要な自動化/CI条件を定義します。
6. **【自動化ポリシー】** ツールバーで **【保存】** をクリックして、ポリシーを保存します。

Configuration Manager 自動化ポリシー - 使用例

本項では、Configuration Manager で自動化ポリシーを定義する例を紹介します。

このシナリオには次の手順が含まれています。

- [「前提条件」\(228ページ\)](#)
- [「前提条件 - HP Universal CMDB からの管理ビューのインポート」\(229ページ\)](#)
- [「Configuration Manager での自動化ポリシーの定義」\(229ページ\)](#)
- [「ポリシー評価結果の表示」\(229ページ\)](#)

1. 前提条件

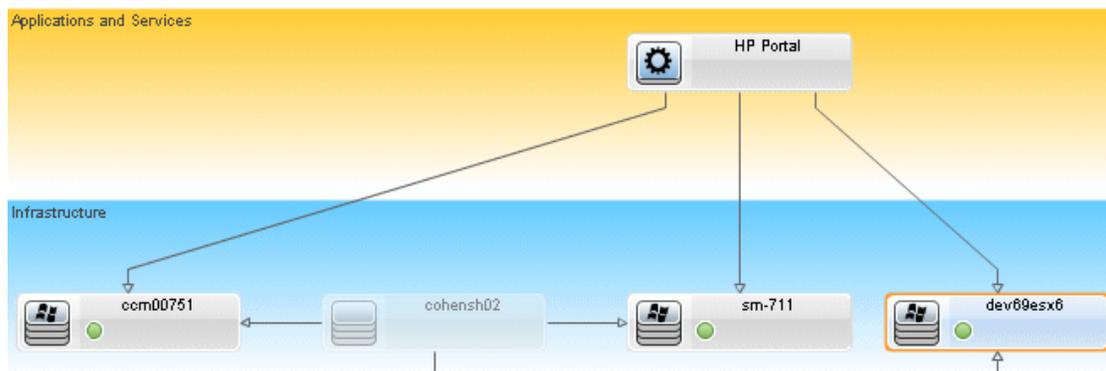
HP Portal アプリケーションの所有者は、このアプリケーションの高可用性を継続的に監視する必要があります。そのため、変更が発生したときに、アプリケーションが合意されている要件に従って機能することを保証することが重要です。

アプリケーション所有者はこの目的を達成するために、次の場合にインジケータを表示する自動化ポリシーを定義します。

- 変更を実施する自動化によってアプリケーション・ダウンタイムが発生した場合
- 複数の自動化によってCIが直接的な影響を受けた場合

2. 前提条件 - HP Universal CMDB からの管理ビューのインポート

アプリケーション・トポロジは、HP Universal CMDB のビューでモデリングされます。目的のビューをインポートすると、Configuration Manager に対応する管理ビューが存在します。次の図に、Configuration Manager での **HP Portal** アプリケーション・トポロジを示します。



管理ビューをインポートする方法の詳細については、「[ビューを管理ビュー・リストに追加 \(169ページ\)](#)」を参照してください。

3. Configuration Manager での自動化ポリシーの定義

- 【管理】 > 【自動化ポリシー】へ移動し、新しい自動化ポリシーを作成します。
- 【全般】領域で、次の手順を実行します。
 - 【名前】ボックスで、次の内容を入力します。Causes downtime and a CI collision on the HP Portal application.
 - (任意指定) 【説明】ボックスに、適切な説明を入力します。
 - 【検証の実行】チェック・ボックスで、ポリシーの検証頻度を定義します。
- 【範囲】領域で、次の手順を実行します。
 - 【選択したビュー】を選択し、 ボタンをクリックしてポリシーを適用する管理ビューを選択します。
 - 【CI タイプの割り当て】ボックスで  ボタンをクリックし、ポリシーへの適合性をテストするCIタイプとして【BusinessApplication】を選択します。
- 【制限】領域で、次の手順を実行します。
 - 自動化制限条件で【ダウンタイムの原因】を選択します。
 - CI 制限条件で【直接衝突が存在】を選択します。
- 新しい自動化ポリシーを保存します。

4. ポリシー評価結果の表示

ポリシー評価結果を、コントロールされた自動化の実行中のコンテキストで表示できます。詳細については、「[コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行 \(75ページ\)](#)」を参照してください。

[自動化ポリシー] ユーザ・インタフェース

本項の内容

- [\[自動化ポリシー\] ページ](#) 230

[自動化ポリシー] ページ

Configuration Manager には、定義済みの自動化ポリシーがあります。各ポリシーの説明を表示するには、[ポリシー] 表示枠で目的のポリシーを選択します。ポリシーの説明が [全般] 表示枠の [説明] ボックスに表示されます。

このページでは、自動化ポリシーを定義および編集します。

利用方法	[管理] > [自動化ポリシー] を選択します。
重要情報	このモジュールを使用するには、自動化ポリシー権限が必要です。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none">• 「自動化ポリシーの定義」(228ページ)• 「コントロールされた自動化またはコントロールされない自動化の実行」(75ページ)• 「Configuration Manager 自動化ポリシー - 使用例」(228ページ)
関連情報	「[自動化実行] ダイアログ・ボックス」(80ページ)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	詳細
	新規ポリシーの追加 :新しいポリシーを作成します。
	ポリシーの削除 :選択したポリシーを削除します。
	[すべて保存] :現在のポリシーに加えたすべての変更を保存します。
	[更新] をクリックすると、[ポリシー管理] ページの情報が更新されます。

[ポリシー] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<ポリシー・リスト>	定義済みおよびユーザ定義の自動化ポリシーのリストを表示します。

[全般] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
説明	ポリシーの説明を入力します。
検証の実行	<p>ポリシーを検証する範囲を選択します。次のオプションを使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 【有効期間の開始日】 :このチェック・ボックスだけを選択すると、ポリシーの有効期間がカレンダーで選択した日付から始まり、常に有効になります。カレンダー  ボタンをクリックして開始日時を選択します。 • 【有効期間の終了日】 :ポリシーの固定された有効期間を選択します。固定期間を選択するには、【有効期間の開始日】と【有効期間の終了日】の両方のチェック・ボックスを選択する必要があります。カレンダー  ボタンをクリックして終了日時を選択します。 <p>注: どちらのチェック・ボックスも選択しない場合、ポリシー検証は計算されません。</p>
ポリシー名	一意のポリシー名を入力します。

[範囲] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
CI タイプの割り当て	<p>ポリシーへの適合性をテストするCIのCIタイプです。</p> <p> ボタンをクリックすると【CIタイプの選択】ダイアログ・ボックスが開き、必要なCIタイプを選択できます。</p> <p>ポリシー検証が計算されるには、インパクト・トポロジ・マップに選択したCIタイプのCIが1つ以上表示されている必要があります。</p>

UI 要素	説明
	<p>たとえば、ビューで Unix タイプの CI に衝突があっても、[CI タイプの割り当て] ボックスで Windows を選択した場合、Unix タイプの CI に対してはポリシーは評価されません。</p> <p>トポロジ・マップに Windows タイプの CI がない場合、ポリシーは評価されません。</p> <p>注: CI タイプを指定しない場合、ポリシーはすべての CI に適用されます。</p>
<p>ポリシーの割り当て先ビュー</p>	<p>ポリシーを適用するビューを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべてのビュー :ポリシーをすべての管理ビューに適用します。 <p>注: ポリシーをすべてのビュー（管理対象外のビューを含む）に適用するには、認証権限が必要です。認証権限を持っていない場合、ポリシーを適用できるのは管理対象のビューのみです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 選択したビュー :ポリシーを適用するビューを選択します。  ボタンをクリックすると、[ビューの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。 <p>注: [すべてのビュー] を選択せず、また [選択したビュー] オプションからもビューを選択しない場合、ポリシーの有効性は計算されません。</p>

[制限] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<p>自動化制限条件</p>	<p>このポリシーの自動化制限条件を示します。</p> <p>たとえば、自動化の初回実行時はポリシー違反が発生することを示すポリシーを定義できます。</p> <p>注: AND 演算子は定義済みのすべての条件を結合します。したがって、このポリシーに対して定義されているすべての条件に自動化が適合する場合のみ、ポリシー違反となります。</p> <p>属性条件を定義するために使用される演算子のリストについては、「属性演算子」(188ページ)を参照してください。</p> <p>定義できる条件の説明については、「[自動化実行] ダイアログ・ボッ</p>

UI 要素	説明
	<p>クス (80ページ)を参照してください。</p>
<p>CI 制限条件</p>	<p>このポリシーの CI 制限条件を示します。</p> <p>AND 演算子は定義済みのすべての条件を結合します。したがって、このポリシーに対して定義されているすべての条件に自動化が適合する場合のみ、ポリシー違反となります。</p> <p>ポリシー違反が発生するには、定義されているすべての条件に適合する CI がインパクト・マップに1つ以上存在する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 違反 CI は [CI 制限] 表示枠のすべての条件に適合する必要があります。 • CI は [範囲] 表示枠で選択したビューに存在する必要があります。 • CI は [CI タイプの割り当て] ボックスで選択した CI タイプ、またはそのサブタイプである必要があります。 <p>属性条件を定義するために使用される演算子のリストについては、「属性演算子」(188ページ)を参照してください。</p> <p>CI 制限条件には次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Collision exists :衝突（直接的または間接的）が存在するかどうかをチェックします。 • Direct Collision exists :直接衝突が存在するかどうかをチェックします。 • Impact importance :インパクトの重要度レベルをチェックします。 • Impact severity :インパクトの重大度レベルをチェックします。 • Indirect collision exists :間接衝突が存在するかどうかをチェックします。 <p>衝突の詳細については、「[自動化実行] ダイアログ・ボックス」(80ページ)を参照してください。</p> <p>インパクトの重要度とインパクトの重大度の詳細については、「[自動化分析] > [インパクト - <ステータス>] 表示枠」(84ページ)を参照してください。</p>

第20章: ユーザ・プリファレンス

本章の内容

- ユーザ・プリファレンスの概要 234
- 電子メール通知の構成 234
- ユーザ・プリファレンスのユーザ・インタフェース 235

ユーザ・プリファレンスの概要

ユーザ・プリファレンス・モジュールでは、Configuration Manager で使用のお気に入りビュー、ローカリゼーション設定、通知オプションを選択できます。

電子メール通知の構成

このタスクでは、システムを構成して何らかのアクションの実行に必要なイベントの概要を送信してもらえるようにする方法を説明します。

注: モバイル・デバイスで電子メール通知内のリンクをクリックすると、UCMDB Browser が開きます。

本項の内容

1. 「前提条件」(234ページ)
2. 「通知の内容と頻度の指定」(234ページ)

1. 前提条件

システム管理者が次のアイテムを指定済みであることを確認します。

- 電子メール・アドレス:詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』のHow to Define an Email Recipientを参照してください。
- 電子メールの時間とSMTP アカウント情報:

2. 通知の内容と頻度の指定

- a. **【ユーザ プリファレンス】**  ボタンをクリックします。**【通知】** をクリックします。
- b. **【通知を有効にする】** チェック・ボックスを選択します。
- c. 次の手順を実行します。

- i. 通知を受信するビューを選択します。
- ii. 通知を受信するアイテムのタイプ、受信する情報がこれらのアイテムの詳細か、サマリののみかを指定します。

注: Configuration Manager のレビュー/認証モジュールにあるこれらのアイテムへの直接リンクを受信する場合、詳細の受信を選択する必要があります。

- iii. 通知を受信する頻度を指定します。
- d. **[適用]** をクリックし、**[OK]** をクリックします。

ユーザ・プリファレンスのユーザ・インタフェース

本項の内容

- [\[ユーザプリファレンス\] ダイアログ・ボックス](#)235

[ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、次の操作を実行します。

- Configuration Manager のすべてのモジュールに表示するお気に入りビューを選択する
- 表示に使用する言語を選択する
- ポリシー違反やビューの変更に関する電子メール通知を受信するかどうか、これらの通知の頻度と範囲を構成するかどうかを指定する

利用方法	[Configuration Manager] 画面の上部にある  をクリックします。
重要情報	<p>次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• お気に入りビュー :お気に入りにするビューを選択します。左のテーブルで選択してダブルクリックするか、矢印ボタンで右のテーブルに移動してください。• ローカリゼーション設定 :Configuration Manager の表示で使用する言語を選択します。• 通知 :ビューで注意が必要な変更が行われたときに通知を受信するには、このオプションを選択します。 <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none">• お気に入りビューを定義すると、各種モジュールで、ビューをすべて表示するオプションとお気に入りのビューのみを表示するオプションを選択できます。

	<ul style="list-style-type: none"> • [OK] をクリックすると、プリファレンスが自動的に適用されま す。ログアウトしてからログインし直す必要はありません。
関連タスク	「電子メール通知の構成」(234ページ)

お気に入りビュー

ビュー権限を持っているビューのみが表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示しま
す）。

UI 要素	詳細
	クリックすると、選択したビューがお気に入りビュー・リストから削除 されます。
	クリックすると、お気に入りビュー・リストからビューがすべて削除さ れます。
	クリックすると、すべてのビューがお気に入りビュー・リストに追加さ れます。
	クリックすると、選択したビューがお気に入りビュー・リストに追加さ れます。
<左のテーブル>	使用可能なすべてのビューの名前と説明が表示されます。
<右のテーブル>	お気に入りビューの名前が表示されます。
お気に入りビューの選 択	お気に入りビューのフィルタを有効または無効にします。次のオプショ ンのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • すべてのビュー :お気に入りビュー・リストが定義されていません。 すべてのビューを表示します。 • 選択したビュー :お気に入りビュー・リストのビューを選択します。 お気に入りビューのみを表示します。

ローカリゼーション設定

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
言語	ドロップダウン・リストから言語を選択します。 注: 言語設定を変更した後、変更を有効にするには、ログインし直す必要があります。
サンプル	選択した言語での日付と数値の形式。

通知

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
頻度	通知を受信する頻度を選択します。次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none">• 日ごと: 通知を受信する間隔（日数）を指定します。• 週ごと: 通知を受信する間隔（週数）、受信する曜日を指定します。• 月ごと: 通知を受信する間隔（月数）、受信する日付を指定します。
全般	電子メール通知を有効にするには、 [通知を有効にする] チェック・ボックスを選択します。
通知範囲	通知を受信する次の Configuration Manager アクションのいずれかまたは両方を選択します。 <ul style="list-style-type: none">• 承認待ちの認証• 違反しているポリシー また、 [詳細情報の表示] を選択すると、注意が必要なアイテムの詳細情報（Configuration Manager へのリンクを含む）を受信するかどうかを指定できます。

UI 要素	説明
ビュー	<p>通知を受信するビューを選択します。次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">• すべてのビュー :ビュー権限があるすべてのビューの通知を受信します。• 認証権限があるビューのみ :CM での認証権限があるすべてのビューの通知を受信します (デフォルト)。• お気に入りビュー :お気に入りビューの通知のみ受信します。• 選択したビュー :カスタマイズされたビューのリストの通知を受信します。

付録

付録A: キャパシティに関する制限事項 – Configuration Manager

次の表は、Configuration Manager の容量の上限値を示します。

大きなビューのサポートの有効化の詳細については、インタラクティブ形式の『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』の大容量計画に関する項を参照してください。

ビューの最大数	1200
高優先度ビュー（1日に複数回更新されるビュー）の最大数	100
ポリシーの最大数	300
ビューあたりのコンポーネントCIの最大数	300,000
ビューあたりの複合CIの最大数（大きなビューのサポートが有効になっている場合）	20,000
同時ユーザの最大数	50
構成分析モジュールでの複合CIの最大数	1000
自動認証用に同時にテストできる複合CIの最大数	1000
ビューを更新するたびに更新されるように同時に構成できるビューの最大数	100

付録B: ユーティリティ

本項では、次のユーティリティについて説明します。

- 構成セットのエクスポート 241
- 構成セットのインポート 243
- パスワード暗号化 245
- ポピュレート 246
- キー生成 246

注: これらのユーティリティを Linux システムで実行する場合は、次の手順を実行してください。

- 手順に記載されているバックスラッシュをフォワードスラッシュ (/) に変更します。
- 各ユーティリティ名の **.bat** を **.sh** に置き換えます。

構成セットのエクスポート

構成セットのエクスポート・ユーティリティでは、構成セットを構成ダンプ・ファイルにエクスポートできます。この構成ダンプ・ファイルを、後で別の名前で Configuration Manager の同じインスタンスに、または Configuration Manager の別のインスタンスにインポートできます。これは、たとえばステージング環境またはテスト環境の構成セットを本稼働環境に移行する場合に便利です。

注: この機能は Configuration Manager の UI でも使用できます。このユーティリティは、Configuration Manager を無効な構成で起動したためにサーバが起動できないなど、何らかの理由で UI がロックされている場合にのみ使用します。

このユーティリティでは、Configuration Manager サーバが動作している必要はありません。

構成セットをエクスポートするには、次の手順を実行します。

次のコマンドを実行します。

```
<Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>\bin\export-cs.bat <データベース・プロパティ> <構成セット ID><ダンプ・ファイル名>
```

<データベース・プロパティ>には、**database.properties** ファイルの場所を示して指定するか、各データベース・プロパティを指定します。

構成セット ID を特定するには、**--history** または **--drafts** オプションを使用して構成セットのエクスポート・ユーティリティを実行し、すべての履歴またはドラフト構成セットを表示します。履歴構成

セットには、現在の構成セットを含め、これまでにアクティブ化したすべての構成セットが含まれません。

次にコマンドラインの<オプション>を示します。

オプション	詳細
--connection-url	データベース接続 URL。 注: これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。--dialect, --driver, --username, --password とともに使用します。
--dialect	データベース・ダイアレクト。 サポートされているダイアレクト: H2Dialect, SQLServerDialect, Oracle9iDialect, Oracle10gDialect 注: これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。--connection-url, --driver, --username, --password とともに使用します。
--driver	データベース・ドライバ・クラス名。例 :org.h2.Driver, net.sourceforge.jtds.jdbc.Driver, oracle.jdbc.OracleDriver 注: これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。--connection-url, --dialect, --username, --password とともに使用します。
--drafts	構成セットのドラフトを表示します。すべて非アクティブな構成セットです。
-f <ファイル名> --file <ファイル名>	ダンプ・ファイル名。 注: このオプションは必須です。
-h --help	使用方法メッセージ。
--history	構成セットの履歴を表示します。すべてアクティブな構成セットです。
-i <id> --id <id>	エクスポートする構成セットの ID。
-p <ファイル> --database-properties <ファイル>	database.properties ファイルの場所。 注: データベース・プロパティの指定に --connection-url, --driver, --username, --password を使用していない場合、このオプションは必須です。

オプション	詳細
--password	データベース・パスワード。 注: これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。--connection-url, --dialect, --driver, --username とともに使用します。
--username	データベース・ユーザ名。 注: これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。--connection-url, --dialect, --driver, --password とともに使用します。
--verbose	冗長モード。

- 次に、履歴構成セットの表示方法の例を示します。

```
cd <CM のインストール・ホーム>\bin\  
export-cs.bat -p ..\conf\database.properties --history
```

- 構成セットをエクスポートするには、次の手順を実行します。

```
<CM のインストール・ホーム>\bin\export-cs.bat -p <database.properties の場所> -i <構成セット ID> -f  
<ダンプ・ファイル名>
```

例 :ID 1 の構成セットを dump.zip にエクスポートする場合

```
cd <CM のインストール・ホーム>\bin\  
export-cs.bat -p ..\conf\database.properties -i 1 -f dump.zip
```

構成セットのインポート

構成セットのインポート・ユーティリティでは、構成セットのダンプ・ファイルを Configuration Manager のインスタンスにインポートできます。構成セットのインポートは、たとえば、別の環境への移行（ステージング環境またはテスト環境から本稼働環境へ）に便利です。

注:

- この機能は Configuration Manager の UI でも使用できます。UI オプションを使用して、インポートした構成セットの検証も実行することをお勧めします。
- インポートされる構成セットの名前は、ダンプ・ファイルと同じ名前になります。構成セットの名前は一意であるため、同じ名前のダンプ・ファイルを 2 回インポートすることはできません。

構成セットをインポートするには、次の手順を実行します。

- このユーティリティの使用時にサーバが動作している可能性もありますが、構成によってはシステム全体の再起動が必要になるため、まず Configuration Manager, の実行中のインスタンスをすべて停止することをお勧めします。
- 次のコマンドを実行します。

<Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>\bin\import-cs.bat <データベース・プロパティ> <ダンプ・ファイル名>

<データベース・プロパティ>には、**database.properties** ファイルの場所を示して指定するか、各データベース・プロパティを指定します。

次にコマンドラインの<オプション>を示します。

オプション	詳細
--activate	インポートした構成をアクティブ化します。
--connection-url	データベース接続 URL。 注: これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。--dialect, --driver, --username, --password とともに使用します。
--dialect	データベース・ダイアレクト。 サポートされているダイアレクト: H2Dialect, SQLServerDialect, Oracle9iDialect, Oracle10gDialect 注: これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。--connection-url, --driver, --username, --password とともに使用します。
--driver	データベース・ドライバ・クラス名。例 :org.h2.Driver, net.sourceforge.jtds.jdbc.Driver, oracle.jdbc.OracleDriver 注: これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。--connection-url, --dialect, --username, --password とともに使用します。
-f <ファイル名> --file <ファイル名>	ダンプ・ファイル名。 注: このオプションは必須です。
-h --help	使用方法メッセージ。
-p <ファイル> --database-properties <ファイル>	database.properties ファイルの場所。 注: データベース・プロパティの指定に --connection-url, --driver, --username, --password を使用していない場合、このオプションは必須です。
--password	データベース・パスワード。 注: これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。--connection-

オプション	詳細
	url, --dialect, --driver, --username とともに使用します。
--username	データベース・ユーザ名。 注: これは、 -p を使用していない場合のみ使用します。--connection-url, --dialect, --driver, --password とともに使用します。
--verbose	冗長モード。

構成セットをインポートするには、次の手順を実行します。

<cm のインストール・ホーム>\bin\import-cs.bat -p <database.properties の場所> -f <ダンプ・ファイル名>

例:構成セットのダンプ・ファイル mydump.zip をインポートする場合

```
cd <CM のインストール・ホーム>\bin
import-cs.bat -p ..\conf\database.properties -f mydump.zip
```

パスワード暗号化

パスワードを暗号化するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager のインストール・ディレクトリに、次のファイルが格納されている **security** ディレクトリがあることを確認します。

encrypt_security

このファイルは、インストール・プロセスで作成されます。ただし、このファイルが存在しない場合は、次を<Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>\bin ディレクトリで実行します。

```
generate-keys.bat
```

2. 次のコマンドを実行します。

<Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>\bin\encrypt-password <オプション>

コマンド・ラインでは次の<オプション>を使用できます。

オプション	詳細
-p <パスワード> --password <パスワード>	1つの平文パスワードを暗号化します。
-d <フォルダ> --dir <フォルダ>	指定したパスにある暗号化キーを使用します。このオプションを指定しない場合、デフォルトのキーの場所は <CM のインストール・ホーム>

オプション	詳細
	△>\security です。ここで、キー生成ユーティリティで秘密鍵および公開鍵が作成されます。
-h --help	このメッセージを出力します。

例: 1つのパスワードを暗号化する場合

EncryptPassword.bat -p <暗号化するパスワード>

3. 生成された暗号化パスワード (**{ENCRYPTED}** <暗号化されたパスワード>) をコピーし、適切な Configuration Manager 構成ファイルに貼り付けます。

ポピュレート

ポピュレート・ユーティリティでは、Configuration Manager データベースでテーブルを作成できません。

注: このユーティリティにより、データベースに格納されていたデータを削除できます。

ポピュレート・ユーティリティを使用するには、次の手順を実行します。

次のコマンドを実行します。

<Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>\bin\populate.bat -i

キー生成

キー生成ユーティリティはインストール時に自動的に実行され、公開鍵と秘密鍵を作成します。暗号化プロパティ・ファイルの値に変更があった場合、次の操作が必要です。

- キー生成ユーティリティを使用して、公開鍵および秘密鍵を生成し直します。
- パスワード暗号化ユーティリティを使用してデータベース・パスワードを生成し直した後、データベース・プロパティ・ファイルを更新します。

キー生成ユーティリティを使用するには、次の手順を実行します。

次のコマンドを実行します。

<Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>\bin\generate-keys.bat

付録C: システム・データのエクスポートとインポート

本項の内容

- システム・データのエクスポートとインポートの概要 247
- システム・データのエクスポート 249
- システム・データのインポート 249
- ログの冗長レベルの設定 250

システム・データのエクスポートとインポートの概要

JMX を使用して、Configuration Manager データをインポートおよびエクスポートできます。これらの操作は、たとえば、システム・データをステージング環境から実稼働環境に移動する場合や、システムがクラッシュした後のリカバリの際に実行します。

エクスポートしたデータには、次のリソースが含まれます。

- Configuration Manager で管理されているビューと、ビューモジュールで各ビューに対して定義されている管理 CI タイプのリスト。ビューが参照している TQL はエクスポートされません。
- ポリシー・モジュールで定義されている構成ポリシーの設定。参照されている TQL はエクスポートされません。
- 構成分析モジュールで保存した構成分析結果（保存したモデルおよび複合 CI を含む）。複合 CI の実際の CI 情報（属性など）はエクスポートされません。

エクスポート操作では、データが移行され、Configuration Manager が動作しているマシンのファイル・システムに格納されます。また、ネットワーク・パスを指定して、別のサーバにエクスポート・データを格納することもできます。データは XML ファイルとしてエクスポートされます。

システム・データを含む XML ファイルを、Configuration Manager のファイル・システムから、同じバージョンの別の Configuration Manager システムにインポートすることができます。また、ネットワーク・パスを指定して、別のサーバからのエクスポート・データをインポートすることもできます。

注意:

Configuration Manager システム間でシステム・データをインポートするときは、Configuration Manager のバージョンが同じか互換性があることを確認する必要があります。

Configuration Manager の2つのインスタンス間（Configuration Manager の各インスタンスが別の HP Universal CMDB インスタンスに接続されている）でデータを移行する前に、まず HP Universal CMDB インスタンス間で関連する TQL をエクスポートしてからビューをエクスポートする必要があります。

ベースライン・ポリシーを適用した場合、ポリシー・モジュールの **[詳細フィルタ]** ボックスで選択した TQL をエクスポートする必要があります。

トポロジ・ポリシーを適用した場合、ポリシー・モジュールの **[条件 TQL]** ボックスの条件 TQL と **[詳細フィルタ]** ボックスで選択した TQL をエクスポートする必要があります。

参照される TQL をエクスポートするには、HP Universal CMDB のパッケージ・マネージャを使用します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』を参照してください。

インポート操作のログ・ファイル

インポート操作では、**amber_import_export.log** ファイルが <Configuration_Manager_インストール_ディレクトリ>\servers\<Configuration Manager サーバ拡張名>\logs ディレクトリに生成されます。

すべてのインポート・アクションは、エラー・メッセージやエラー原因を含めて **amber_import_export.log** に書き込まれます。例：

- Managing view 'View1'
 - View 'View1' already exists
 - View 'View1' was created
 - View 'View1' was not created:reason...
- Adding configuration analysis (adhoc) model 'Model1'
 - Configuration analysis (adhoc) model 'Model1' was created
 - Configuration analysis (adhoc) model 'Model1' already exists
- Adding policy rule 'Rule1'
 - Policy rule 'Rule1' was created
 - Policy rule 'Rule1' already exists
 - Policy rule 'Rule1' was not created:reason...

ログ・ファイルのメッセージ重大度を設定する方法については、[「ログの冗長レベルの設定」\(250ページ\)](#)を参照してください。

システム・データのエクスポート

このタスクでは、Configuration Manager のシステム・データ、ビュー、ポリシーを一覧表示およびエクスポートし、ファイル・システムに格納する方法を説明します。

1. Web ブラウザを起動して、次のアドレスを入力します。 **http://<サーバ名>:<ポート番号>/cnc/jmx-console**。 <サーバ名>は、Configuration Manager がインストールされているマシンの名前です。
2. JMX コンソールの認証資格情報を入力します。
3. **[Configuration Manager]** の下の **[ImportExport service]** をクリックします。
4. 次のいずれかの操作を見つけます。
 - **exportData**
 - **listAllViews**
 - **exportViews**
 - **listAllPolicies**
 - **exportPolicies**
5. **[Value]** フィールドに、ファイル名と、データをエクスポートする Configuration Manager サーバのファイル・システムのディレクトリのフル・パスを入力します。また、エクスポート・ファイルを同じサーバに置かない場合は、ネットワーク・パスを指定することもできます。
6. **[Invoke]** をクリックしてデータをエクスポートします。データが指定したディレクトリに XML ファイルとしてエクスポートされます。

システム・データのインポート

このタスクでは、JMX コンソールを使用して、Configuration Manager のファイル・システムのシステム・データを含む XML ファイルを、同じバージョンの別の Configuration Manager にインポートする方法を説明します。

1. Web ブラウザを起動して、次のアドレスを入力します。 **http://<サーバ名>:<ポート番号>/cnc/jmx-console**。 <サーバ名>は、Configuration Manager がインストールされているマシンの名前です。
2. JMX コンソールの認証資格情報を入力します。
3. **[Configuration Manager]** の下の **[ImportExport service]** をクリックします。
4. **[importData]** 操作を特定します。
5. **[Value]** フィールドに、ファイル名と、データをインポートする Configuration Manager サー

バのファイル・システムのディレクトリのフル・パスを入力します。また、ネットワーク・パスを指定して、別のサーバ上にあるファイルからデータをインポートすることもできます。

6. **[Invoke]** をクリックしてデータをインポートします。

ログの冗長レベルの設定

インポート操作は **amber_import_export.log** という名前のログ・ファイルに書き込まれます。このタスクでは、**amber_import_export.log** ファイルのメッセージ重大度レベルを変更する方法について説明します。

amber_import_export.log ファイルについては、「[インポート操作のログ・ファイル](#)」(248ページ)を参照してください。

表示されるメッセージ重大度レベルを変更するには、次の手順を実行します。

<CM_installation_directory>\conf\cmlog4j.properties ファイルで、次の行を編集します。

```
log4j.logger.amber.import-export=INFO, amber_import_export_fileout
```

次のタイプのログ・メッセージ・コマンドを使用できます。

- **ERROR** :エラー・メッセージのみが表示されます。
- **WARN** :警告およびエラー・メッセージが表示されます。
- **INFO** :警告およびエラー・メッセージに加え、システムが実行する処理アクティビティを記録する情報メッセージが表示されます。
- **DEBUG** :すべてのタイプのメッセージと追加のデバッグ・メッセージが表示されます。

注意: ログ・レベルを **DEBUG** に設定すると、パフォーマンスに影響する可能性があります。

ドキュメントに関するフィードバックの送信

このドキュメントに関するコメントについては、電子メールで[ドキュメント・チーム](#)までご連絡ください。ご使用のシステムに電子メール・クライアントが設定されている場合は、上記のリンクをクリックすると電子メールウィンドウが開き、以下の情報が件名の行に表示されます。

ユーザズ・ガイド (Universal CMDB Configuration Manager 10.20) に関するフィードバック

電子メールにフィードバックを記入して、送信ボタンをクリックしてください。

使用できる電子メール・クライアントがない場合は、上記の情報を Web メール・クライアントの新しいメッセージにコピーして、フィードバックを cms-doc@hp.com に送信してください。

お客様からのご意見をお待ちしております。